

「ゲツセマネ途上での説教(2)」

ヨハ15:11~17

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①最後の晩餐の後、イエスの最後の長い説教が続く。
- ②ヨハネだけが記している。
  - \*ヨハ14章 二階部屋で語られた。
  - \*ヨハ15、16章 ゲツセマネの園に向かう途中で語られた。
- ③人類救済計画の時代区分(ディスペンセーション)が移行しつつある。
- ④城壁の南側を通過して、東に向かわれた。
  - \*数時間後には、逮捕されることになっている。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§150 ゲツセマネの園に向かう途中でのメッセージ

2. アウトライン

- (1) ぶどうの木とその枝(15:1~10)
- (2) イエスの友(15:11~17)
- (3) この世から受ける憎しみ(15:18~16:4)
- (4) 聖霊の働き(16:5~15)
- (5) 悲しみから喜びへ(16:16~33)

3. 結論:

- (1) ローマ時代における友情
- (2) 旧約聖書における友情
- (3) 新約聖書における友情

イエスの友という意味について学ぶ。

II. イエスの友(15:11~17)

1. 11節

Joh 15:11 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちであり、あなたがたの喜びが満たされるためです。

- (1) 「これらのこと」
  - ①ぶどうの木と枝のたとえ

②イエスの戒めを守るなら、イエスの愛に留まることになる。

(2) その教えを話した理由は、弟子たちが喜びに満たされるためである。

①イエスは、自分が経験している喜びを弟子たちに与えようとしている。

②イエスの喜びは、父なる神への従順(喜ばせること)によって生まれる。

③へブ12:2

Heb 12:2 信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをもものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。

④弟子たちは、イエスへの従順(喜ばせること)によって喜びを体験する。

(3) この世の人たちは、神を排除することによって喜びを得ようとする。

①信者は、イエスに従うことによって喜びに満たされる。

②ヨハ10:10

Joh 10:10 盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。

## 2. 12~14節

Joh 15:12 わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。

Joh 15:13 人がその友のためにいのちを捨てるという、これよりも大きな愛はだれも持っていません。

Joh 15:14 わたしがあなたがたに命じることをあなたがたが行うなら、あなたがたはわたしの友です。

(1) イエスの戒めとは、互いに愛し合うことである。

①愛し続けることである。

②信者は、互いのことを心にかけて、互いの徳を立てることによって成長する。

③この戒めの中の新しい要素は、「わたしがあなたがたを愛したように」である。

④ヨハ13:34

Joh 13:34 あなたがたに新しい戒めを与えましょう。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

(2) イエスの愛は、友のためにいのちを捨てる愛である。

①ギリシア・ローマ世界では、友のために死ぬことは英雄物語である。

- ②ユダヤ教では、隣人の命よりも自分の命が大切だと教える。
  - ③イエスの自己犠牲の愛は、ユダヤ教を超越したものである。
  - ④ヨハネの読者(ディアスポラのユダヤ人たち)は、容易に理解したのであろう。
  - ⑤イエスは私たちに、友のために死ぬことを要求しているわけではない。
  - ⑥もしそれが御心なら、その時に力が与えられる。
- (3) 私たちへの適用は、自己犠牲の愛の実践である。
- ①時間を取って話を聞くこと
  - ②経済的な面も含めて援助すること
  - ③励ますこと
  - ④祈りで支えること
- (4) 自己犠牲の愛は、聖霊の助けによって可能となる。

### 3. 15節

**Joh 15:15 わたしはもはや、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべは主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。なぜなら父から聞いたことをみな、あなたがたに知らせたからです。**

- (1) 弟子たちは、「しもべ」から「友」に移行する。
- ①しもべの関心事は、主人の命令に注意を払い、それを実行することである。
  - ②しもべと主人の間には、深い心の交流はない。
  - ③しもべは、主人の内面を知らなくても、仕事を行うことができる。
  - ④これまでの弟子たちの状態は、「しもべ」であった。
- (2) 弟子たちが「友」と呼ばれる理由は何か。
- ①イエスは、父から聞いたことをみな彼らに知らせたからである。
  - ②イエスと弟子たちの間には、深い心の交流がある。

### 4. 16～17節

**Joh 15:16 あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです。**

**Joh 15:17 あなたがたが互いに愛し合うこと、これが、わたしのあなたがたに与える戒めです。**

- (1) イエスが弟子たちを選んだ。
  - ①ユダヤ教の習慣では、弟子が師を選ぶ。
  - ②イエスの弟子たちの関係は、それとは逆である。
  
- (2) この選びは、ある使命に着かせるための任命である。
  - ①「任命した」は、ギリシア語で「テイセイミ」である。
    - \*英語で「ordain」「appoint」である。
    - \*按手礼は、「ordination」である。
  
- (3) 使命の内容
  - ①「行って」
    - \*イエス・キリストの福音をたずさえて世界に出て行く。
  - ②「実を結ぶ」
    - \*実を結び続けるということ。
    - \*その実はいつまでも残る。
    - \*私たち自身が、その実である。
  - ③「わたしの名によって父に求めるものは、何でも父がお与えになる」
    - \*使命という文脈の中で理解する必要がある。
    - \*父は、使命を全うさせてくださる。
  
- (4) イエスとの友情
  - ①兄弟愛の実践が、当然の義務としてそこにかかわってくる。
  - ②一匹狼のクリスチャンは、聖書的ではない。

**結論：**

1. ローマ時代における友情

- (1) 忠誠(死に至るまで)
  - ①政治的連携
  - ②軍事的連携
- (2) 財産の共有
- (3) 対等な関係
- (4) 親密な関係
  - ①互いに秘密を分かち合える関係

## 2. 旧約聖書における友情

### (1) アブラハム

#### ①創18:17~19

Gen 18:17 【主】はこう考えられた。「わたしがしようとしていることを、アブラハムに隠しておくべきだろうか。」

Gen 18:18 アブラハムは必ず大いなる強い国民となり、地のすべての国々は、彼によって祝福される。

Gen 18:19 わたしが彼を選び出したのは、彼がその子らと、彼の後の家族とに命じて【主】の道を守らせ、正義と公正とを行わせるため、【主】が、アブラハムについて約束したことを、彼の上に成就するためである。」

#### ②イザ41:8

Isa 41:8 しかし、わたしのしもべ、イスラエルよ。／わたしが選んだヤコブ、／わたしの友、アブラハムのすえよ。

#### ③2歴20:7

2Ch 20:7 私たちの神よ。あなたはこの地の住民をあなたの民イスラエルの前から追い払い、これをとこしえにあなたの友アブラハムのすえに賜ったのではありませんか。

#### ④まとめ

\*神とアブラハムの親密な関係

\*アブラハムは、神の計画の全貌を理解していた。

### (2) モーセ

#### ①出33:11

Exo 33:11 【主】は、人が自分の友と語るように、顔と顔とを合わせてモーセに語られた。モーセが宿営に帰ると、彼の従者でヌンの子ヨシュアという若者が幕屋を離れないでいた。

#### ②民12:8

Num 12:8 彼とは、わたしは口と口とで語り、明らかに語って、なぞで話すことはしない。彼はまた、【主】の姿を仰ぎ見ている。なぜ、あなたがたは、わたしのしもべモーセを恐れずに非難するのか。」

#### ③申34:10

Deu 34:10 モーセのような預言者は、もう再びイスラエルには起こらなかった。彼を【主】は、顔と顔とを合わせて選び出された。

#### ④まとめ

\*神とモーセの親密な関係

\*モーセは、神の計画の全貌を理解していた。

### 3. 新約聖書における友情

(1) 弟子たちは、「しもべ」から「友」に移行しつつある。

① これまでは、イエスの意図を理解できないまま、イエスに従ってきた。

② これ以降、弟子たちは神の計画の全貌を理解するようになる。

③ これは、聖霊降臨によって可能となる。

\* 瞬時に起こったのではない。

\* 弟子たちは、時間をかけて神の計画の全貌を理解するようになった。

\* 「福音の普遍性」の理解

\* 「終末におけるイスラエルの救い」の理解

(2) イエスの友の特徴

① 神の計画の全貌の理解

② 使命の自覚

③ 実践による喜びの体験

\* 愛の実践(まず兄弟姉妹たちに、次に、一般の隣人たちに)

(3) パウロの自己認識

① ロマ1:1

Rom 1:1 神の福音のために選び分けられ、使徒として召されたキリスト・イエスのしもべパウロ、

② しもべ(デューロス)

\* 自発的な奴隷

\* 主人の心を理解している奴隷

\* 自らの意志で主人に従っている奴隷

③ まとめ

\* クリスマンは、矛盾することのない2重の自己認識を持っている。

\* 神の視点からは、私は「イエス・キリストの友」である。

\* 人間の視点からは、私は「イエス・キリストのしもべ」である。

「ゲツセマネ途上での説教(3)」

ヨハ15:18~16:4

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①最後の晩餐の後、イエスの最後の長い説教が続く。
- ②ヨハ15、16章 ゲツセマネの園に向かう途中で語られた。
- ③イエスは、数時間後に逮捕されることになっている。
- ④人類救済計画の時代区分(ディスペンセーション)が移行しつつある。

\*律法の時代→恵みの時代

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§150 ゲツセマネの園に向かう途中でのメッセージ

2. アウトライン

- (1) ぶどうの木とその枝(15:1~10)
- (2) イエスの友(15:11~17)
- (3) この世から受ける憎しみ(15:18~16:4)
- (4) 聖霊の働き(16:5~15)
- (5) 悲しみから喜びへ(16:16~33)

3. 結論:

- (1) 「この世」について
- (2) 「弟子たちの証し」について

この世から受ける憎しみについて学ぶ。

Ⅲ. この世から受ける憎しみ(15:18~16:4)

1. 18節

**Joh 15:18 もし世があなたがたを憎むなら、世はあなたがたよりもわたしを先に憎んだことを知っておきなさい。**

- (1) ヨハネの福音書の「世」とは何か。
  - ①ギリシア語で「コスモス」という。
  - ②神に敵対する組織化された社会のことである。
  - ③サタンの支配下に置かれている。
  - ④ヨハ14:30

Joh 14:30 わたしは、もう、あなたがたに多くは話すまい。この世を支配する者が来るからです。彼はわたしに対して何もすることはできません。

(2) 神の友であるとは、この世から見たら「敵」である。

①この世と調子を合わせることは、神の敵になることである。

②ヤコ4:4

Jas 4:4 貞操のない人たち。世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友になりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです。

(3) 世の憎しみに会った時、思いがけないことが起こったと感じてはならない。

①イエス自身が、先に世の憎しみを経験している。

②誕生の時、ヘロデ大王に殺されそうになった。

③今は、十字架につけられようとしている。

④「もし」は仮定のことではない。イエスに従う者は、迫害に会う。

## 2. 19節

Joh 15:19 もしあなたがたがこの世のものであったなら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではなく、かえってわたしが世からあなたがたを選び出したのです。それで世はあなたがたを憎むのです。

(1) この世が信者を憎むのは、信者に対して異質なものを感ずるからである。

①信者は、闇の王国から解放され、神の王国に移された。

②信者は、新しい喜び、目的、希望、愛を見出した。

③信者は、この世の人たちとは異なったライフスタイルを持っている。

④信者は、この世にしながら、この世のものではない。

(2) この世は、自分たちと同質なものを愛する。

①粗暴な言葉(日常会話、ネット上の書き込み)

②肉欲

③教養のある人であっても、自分のためにだけ生きている。

(3) 信者はイエスによって選ばれた人たちである。

①信者は、その生き方を通してこの世の人たちを裁く。

②それゆえ、この世の人たちは信者を憎むのである。

## 3. 20～21節



Joh 15:20 **しもべはその主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。もし人々がわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害します。もし彼らがわたしのことばを守ったなら、あなたがたのことばをも守ります。**

Joh 15:21 **しかし彼らは、わたしの名のゆえに、あなたがたに対してそれらのことをみな行います。それは彼らがわたしを遣わした方を知らないからです。**

(1) 「しもべはその主人にまさるものではない」(ヨハ13:16での教え)

①信者は、主イエスに倣って「しもべ」となる必要があるという教えである。

②この教えには、別の適用がある。

\*イエスを憎む者は、弟子たちをも憎む。

\*イエスのことばを守る者は、弟子たちのことばも守る。

(2) この世の人たちが信者を迫害する理由

①イエスを遣わした父なる神を知らないので、イエスを憎む。

②イエスへの憎しみを、弟子たちに向ける。

#### 4. 22～23節

Joh 15:22 **もしわたしが来て彼らに話さなかったら、彼らに罪はなかったでしょう。しかし今では、その罪について弁解の余地はありません。**

Joh 15:23 **わたしを憎んでいる者は、わたしの父をも憎んでいるのです。**

(1) イエスが到来する前と後の違い

①到来する前なら、まだ弁解の余地があった(無知を言い訳にできた)。

\*「罪はない」とは、無罪だということではなく、罪の度合いの問題である。

\*啓示の量が増えると、倫理的責任も増える。

②到来して以降は、弁解の余地はない。

\*イエスは神のことばを語り、メシア性を証明する奇跡を行われた。

\*イエスにはなんの罪もなかった。

\*にもかかわらず、彼らはイエスを信じなかった。

(2) 主イエスは、父なる神を啓示するために来られた。

①イエスを憎む者は、父なる神をも憎む者である。

#### 5. 24～25節

Joh 15:24 **もしわたしが、ほかのだれも行っただけの事もないわざを、彼らの間で行わなかったのなら、彼らには罪がなかったでしょう。しかし今、彼らはわたしをも、わたしの父をも見て、そのうえで憎んだのです。**

**Joh 15:25** これは、『彼らは理由なしにわたしを憎んだ』と彼らの律法に書かれていることが成就するためです。

(1) これは、22～23節の詳細な説明である。

- ①イエスは、多くの奇跡を行い、ご自身のメシア性を証明された。
- ②しかし、イスラエルの民は光よりも闇を愛したので、イエスを拒否した。
- ③ニコデモの応答は、例外的なものである。

**Joh 3:2** この人が、夜、イエスのもとに来て言った。「先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられるのでなければ、あなたがなさるこのようなしるしは、だれも行うことができません。」

(2) 罪というのは、基本的に非理性的で、理屈に合わないものである。

- ①彼らの不信仰は、旧約聖書に預言されていた。
- ②ダビデによる預言(義人の嘆き)

**Psa 69:4** ゆえなく私を憎む者は私の髪の毛よりも多く、／私を滅ぼそうとする者、／偽り者の私の敵は強いのです。／それで、私は盗まなかった物をも／返さなければならぬのですか。

③詩35:19、109:3など参照

## 6. 26～27節

**Joh 15:26** わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち父から出る真理の御霊が来るとき、その御霊がわたしについてあかしします。

**Joh 15:27** あなたがたもあかしするのです。初めからわたしといっしょにいたからです。

(1) 弟子たちへの励ましのことば

- ①弟子たちは、イエスについて証しする。
- ②聖霊は、弟子たちを通して働く。

## 7. 1～2節

**Joh 16:1** これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがつまずくことのないためです。

**Joh 16:2** 人々はあなたがたを会堂から追放するでしょう。事実、あなたがたを殺す者がみな、そうすることで自分は神に奉仕しているのだと思う時が来ます。

(1) 迫害の予告をする理由

- ①つまずくことがないためである。
- ②弟子たちは、メシア的王国の希望を持っていた。
- ③イエスの死と復活の後に起こることは、想定外のことであった。

(2) 迫害の内容

①会堂からの追放

- \*ユダヤ人にとっては、最悪の悲劇である。
  - \*ユダヤ人共同体からの追放である。
  - \*紀元85年から90年の間に、会堂での祈りに変化があった。
  - \*「シュモネ・エスレ」という伝統的な祈り
  - \*元来は18の祈りから成っていたが、第19番目が追加された。
  - \*それは、メシアニックジューを追い出すための祈りである。
- 「背教者からすべての希望を取り去りたまえ。分派を作る者は、直ちに滅ぶべし」

②殉教の死

- \*ステパノ(使7章)
- \*ヤコブ(使12章)
- \*サウロによる迫害(使9章)

(3) 迫害の理由は、それが神への奉仕だと誤解していること。

①サウロがその例である。

8. 3~4節

**Joh 16:3 彼らがこういうことを行うのは、父をもわたしをも知らないからです。**

**Joh 16:4 しかし、わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、その時が来れば、わたしがそれについて話したことを、あなたがたが思い出すためです。わたしが初めからこれらのことをあなたがたに話さなかったのは、わたしがあなたがたといっしょにいたからです。**

(1) 迫害の根本的な理由は、父なる神を知らないことである。

- ①父を知らない人は、イエスをも知らない。
- ②イエスを知らない人は、イエスの弟子たちの教えを受け入れない。

(2) イエスが迫害を予告した理由は、弟子たちがそれを思い出すためである。

- ①これまでイエスは迫害について語って来なかった。
- ②この世の憎しみは、イエスに向けられていた。
- ③イエスがいなくなると、イエスの地上におけるからだである教会が誕生する。
- ④この世は、イエスのからだである教会を憎むようになる。

**結論：**

**1. 「この世」について**

- (1) 「この世」には、ユダヤ人たちは含まれるか。
- (2) ユダヤ人たちは、自分たちは選びの民であるがゆえに、異邦人諸国から迫害されると考えていた。
  - ①彼らは、自分たちと異邦人諸国を明確に区別した。
  - ②それゆえ、自分たちを「この世」という括りに入れられることに抵抗を覚えた。
- (3) しかし、隠遁生活をしたエッセネ派の人たちは、別の判断を下していた。
  - ①一般のユダヤ人たちは背教者である。
  - ②それゆえ、彼らは「この世」に属している。
- (4) イエスは、不信仰なユダヤ人たちを含めて「この世」と言った。
- (5) 私たちへの適用
  - ①教会の中には、残念ながら真の生まれ変わりを経験していない自称信者がいる。
  - ②その人たちは、真理が解き明かされた時、抵抗する。
  - ③それは、彼らがまだ救われていないからである。
  - ④教会内の問題もまた、「この世」の憎しみによって起こることが多い。
  - ⑤信者は、この世から評価されることを求めてはならない。

## 2. 「弟子たちの証し」について

- (1) この世から隔離した生活は、神の御心ではない。
  - ①修道院のような隠遁生活、この世との接点を失った孤島のような教会
- (2) 弟子たちへの励ましのことば

Joh 15:26 わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち父から出る真理の御霊が来るとき、その御霊がわたしについてあかしします。

Joh 15:27 あなたがたもあかしするのです。初めからわたしと一緒のうちにいたからです。

### ①聖霊の約束

- \*聖霊は、父から出る真理の御霊である。
- \*聖霊は、イエスが父のもとから遣わす助け主である。
- \*聖霊は、イエスについて証しする。

### ②弟子たちも、イエスについて証しする。

- \*彼らは、イエスと寝食をともにし、イエスの復活を目撃した。
- \*聖霊は、弟子たちを通して働く。
- \*伝道は、人と聖霊の共同作業である。
- \*その結果、人々が救われていく。

### (3) 私たちへの適用

- ①弟子たちが証しした結果誕生したのが、新約聖書である。
- ②今の私たちは、その証しを用いて伝道する。

- ③伝道は、聖霊との共同作業である。
- ④この原則は、今も続いている。

「ゲツセマネ途上での説教(4)」

ヨハ16:5~15

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①最後の晩餐の後、イエスの最後の長い説教が続く。
- ②ヨハ15、16章 ゲツセマネの園に向かう途中で語られた。
- ③イエスは、数時間後に逮捕されることになっている。
- ④人類救済計画の時代区分(ディスペンセーション)が移行しつつある。

\*律法の時代→恵みの時代

\*子なる神が中心的に働く時代→聖霊なる神が中心的に働く時代

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§150 ゲツセマネの園に向かう途中でのメッセージ

2. アウトライン

- (1) ぶどうの木とその枝(15:1~10)
- (2) イエスの友(15:11~17)
- (3) この世から受ける憎しみ(15:18~16:4)
- (4) 聖霊の働き(16:5~15)
- (5) 悲しみから喜びへ(16:16~33)

3. 結論:

- (1) 罪について
- (2) 義について
- (3) さばきについて

恵みの時代における聖霊の働きについて学ぶ。

IV. 聖霊の働き(16:5~15)

1. 5~6節

Joh 16:5 しかし今わたしは、わたしを遣わした方のもとに行こうとしています。しかし、あなたがたのうちには、ひとりとして、どこに行くのですかと尋ねる者はありません。

Joh 16:6 かえって、わたしがこれらのことをあなたがたに話したために、あなたがたの心は悲しみでいっぱいになっています。

- (1) 弟子たちは悲しみに満たされた。

- ①この世から受ける憎しみについての予告があった。
- ②イエスが去って行くので、この世からの憎しみは弟子たちに向けられる。
- ③彼らは、自分たちの将来に関して悲しみに満たされた。
  - \*イエスなしにはやって行けないと考えた。
- ④彼らは、イエスの将来については、さほどの関心を示さなかった。
- ⑤もしイエスが去って行く理由と、その行先を知っていたなら、喜びに満たされたはずである。

(2) 彼らは、「どこに行くのですか」と尋ねなかった。

- ①トマスでさえも、尋ねなかった。
- ②ヨハ14:5

「トマスはイエスに言った。『主よ。どこへいらっしゃるのか、私たちにはわかりません。どうして、その道が私たちにわかりましょう』」

(3) 彼らは、時代が移行しつつあることを理解することができなかった。

- ①「今」という時を理解できなかった。
- ②イエスの死、埋葬、復活、昇天という出来事の重要性を理解できなかった。

## 2. 7節

Joh 16:7 しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところへ遣わします。

(1) イエスが去って行くことは、弟子たちにとって益である。

- ①イエスの死、埋葬、復活、昇天
- ②それがなければ、伝えるべき福音のメッセージが存在しないことになる。
- ③昇天がなければ、イエスが栄光の座に着くこともない。
- ④イエスが栄光の座に着かなければ、聖霊が降臨することもない。

(2) 栄光の座に着いたイエスは、聖霊を弟子たちのところに遣わされる。

- ①これまでも、聖霊は常に働いておられた。
- ②しかし、ペンテコステの日以降、聖霊は別次元の働きを開始する。
- ③イエス(わたし)が聖霊を遣わされる。
- ④聖霊は、「助け主」と呼ばれている。

\*イエスが去った後の聖霊の働きは、「助け主」としてのそれである。

### 3. 8節

**Joh 16:8 その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。**

(1) 「エケイノス」は、「その方」とも「それ」とも訳せる。

①聖霊は第3位格の神である。

(2) 訳文の比較

「その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます」(新改訳)

「その方が来れば、罪について、義について、また、裁きについて、世の誤りを明らかにする」(新共同訳)

「それがきたら、罪と義とさばきとについて、世の人の目を開くであろう」(口語訳)

「かれ来らんとき、世をして罪につき、義につき、審判につきて、過てるを認めしめん」(文語訳)

「その方が来られると、世間の人に誤りを認めさせます。罪、心の正しさ、神との正しい関係、さばきからの救いということで、人々はまるで考え違いをしているのです」

(リビングバイブル)

①聖霊の働きの中心は、過ちを認めさせることである。

②これは、回心(conversion)ではなく、認罪(conviction)である。

③認罪は、回心に先立つ。

④聖霊は、通常、信者を通して働かれる。

### 4. 9～11節

**Joh 16:9 罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。**

**Joh 16:10 また、義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。**

**Joh 16:11 さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。**

(1) 罪とは、神への反抗である。

①通常人々は、道徳律や法律に反することを罪と考える。

②それゆえ、自分を罪人とは考えない。

③苦難の中から救いを求める人にも、そのような傾向がある。

(2) 義とは、イエスが罪のないお方であることが証明されるということである。

①イエスは、復活し、昇天される。

②父なる神は、イエスが義であることを証明される。



(3) さばきとは、サタンが裁かれるということである。

- ①イエスの復活と昇天により、サタンは大打撃を被った。
- ②この世に属する者は、それを知って神を恐れるべきである。

#### 5. 12～13節

**Joh 16:12 わたしには、あなたがたに話すことがまだたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐える力がありません。**

**Joh 16:13 しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。**

(1) 弟子たちの霊性には限界があった。

- ①メシア的王国での栄誉を求めていた。
- ②自分たちの将来に不安を感じていた。
- ③イエスの死と復活が必要とは思っていなかった。

(2) 真理の御霊の役割

- ①イエスとその御業についての真理を弟子たちに教える。
- ②父なる神から聞いたことだけを話す。
  - \*三位一体の神の位格は、独立している。
  - \*父が御子に関する真理を聖霊に語り、聖霊がそれを弟子たちに教える。
- ③やがて起ころうとしていることを弟子たちに示す。
  - \*この中には、終末論の情報が含まれている(新約聖書の中の預言)。
  - \*これは、新約聖書が完成することの保証である。

#### 6. 14～15節

**Joh 16:14 御霊はわたしの栄光を現します。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです。**

**Joh 16:15 父が持つておられるものはみな、わたしのものです。ですからわたしは、御霊がわたしのものを受けて、あなたがたに知らせると言ったのです。**

(1) 御霊の役割は、イエスの栄光を現すことである。

- ①これは、クリスチャンの奉仕や集会を評価するための基準である。
- ②イエスの御名があがめられているなら、それは聖霊が働いている証拠である。
- ③聖霊に関心が向いているなら、この基準からは逸脱している。
  - \*聖霊を強調したり、聖霊に向かって祈ったりすること

(2) 御霊は、イエスに関する真理を教える。

- ①イエスに関する真理は、すべて父から出たものである。
- ②父のものはイエスのものであり、イエスのものは父のものである。
- ③ここには、三位一体の神の統一性と調和がある。

結論：伝道は、聖霊との共同作業である。

はじめに：聖霊が導かれる方向で福音を伝える必要がある。

### 1. 罪について

(1) 罪とは、神への反抗である。

(2) イエスを十字架につけたのは、その反抗が頂点に達したということである。

(3) 人々が容易に自分は罪人だと認めないのは、神に反抗しているという意識がないからである。

(4) 現代の私たちが犯す罪とは何か。

- ①イエスを信じないこと
- ②ヨハ3:18

**Joh 3:18 御子を信じる者はさばかれない。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかった  
ので、すでにさばかれています。**

- ③神の真理をはばんでいる(妨げている)こと
- ④ロマ1:18

**Rom 1:18 というのは、不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対し  
て、神の怒りが天から啓示されているからです。**

(5) 聖霊は、人々に罪を認めさせる。

- ①聖霊の到来そのものが、人々の罪を証明している。
- ②人々がイエスを拒否し十字架につけたので、聖霊が来られた。

### 2. 義について

(1) ユダヤ人たちは、イエスは悪霊に憑かれていると主張した。

(2) イエスが不義であると信じたので、イエスを十字架にかけた。

- ①申21:23

**Deu 21:23 その死体を次の日まで木に残しておいてはならない。その日のうちに必ず埋葬し  
なければならない。木につるされた者は、神にのろわれた者だからである。あなたの神、【主】  
が相続地としてあなたに与えようとしておられる地を汚してはならない。**

②ガラ3:13

Gal 3:13 キリストは、私たちのためにのろわれたものとなって、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいました。なぜなら、「木にかけられる者はすべてののろわれたものである」と書いてあるからです。

(3) しかし、復活と昇天は、イエスが義であることを証明した。

①使3:14~15

Act 3:14 そのうえ、このきよい、正しい方を拒んで、人殺しの男を赦免するように要求し、

Act 3:15 いのちの君を殺しました。しかし、神はこのイエスを死者の中からよみがえらせました。私たちはそのことの証人です。

(4) イエスの復活が伝えられる時、聖霊は、イエスが義であることを証しする。

3. さばきについて

(1) イエスの死と復活は、この世の支配者であるサタンをさばくものとなった。

①ヨハ12:31

Joh 12:31 今がこの世のさばきです。今、この世を支配する者は追い出されるのです。

②コロ2:15

Col 2:15 神は、キリストにおいて、すべての支配と權威の武装を解除してさらしものとし、彼らを捕虜として凱旋の行列に加えられました。

(2) 「死の力を持つ悪魔」は滅ぼされた(ヘブ2:14)。

①悪魔は今も活動している。

②しかし、それは刑期を待つ死刑囚のような状態である。

(3) 神の反抗する者は、悪魔がさばかれたことを知るべきである。

①悪魔と罪人に下ろうとしているさばきを恐れるべきである。

②使17:30~31

Act 17:30 神は、そのような無知の時代を見過ごしておられましたが、今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます。

Act 17:31 なぜなら、神は、お立てになったひとりの人により義をもってこの世界をさばくため、日を決めておられるからです。そして、その方を死者の中からよみがえらせることによって、このことの実証をすべての人にお与えになったのです。」

「ゲツセマネ途上での説教(5)」

ヨハ16:16~33

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①最後の晩餐の後、イエスの最後の長い説教が続く。
- ②ヨハ14章 部屋の中で語られた。
- ③15、16章 ゲツセマネの園に向かう途中で語られた。
- ③人類救済計画の時代区分(ディスペンセーション)が移行しつつある。  
\*律法の時代→恵みの時代

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§150 ゲツセマネの園に向かう途中でのメッセージ

2. アウトライン

- (1) ぶどうの木とその枝(15:1~10)
- (2) イエスの友(15:11~17)
- (3) この世から受ける憎しみ(15:18~16:4)
- (4) 聖霊の働き(16:5~15)
- (5) 悲しみから喜びへ(16:16~33)
  - ①イエスとの再会
  - ②イエスの名によって父に祈る
  - ③患難と平安

3. 結論:

- (1) 悲しみから喜びへ
- (2) 祈りの変化

恵みの時代における新しい教えについて学ぶ。

I. イエスとの再会(16~22節)

1. 16節

**Joh 16:16** しばらくするとあなたがたは、もはやわたしを見なくなります。しかし、またしばらくするとわたしを見ます。」

- (1) 聖霊の働きというテーマから、すぐに起こることの予告へと移行する。
  - ①イエスがいなくなるので、弟子たちは悲しみ、痛み、落胆を経験する。

- ②しかし、しばらくするとイエスを見るので、喜びに満たされる。
- ③「しばらくすると」という意味は、弟子たちには不明であった。

(2) 今でも、「しばらくすると」という意味について議論がある。

- ①復活のイエスと出会うまでの3日間であろう。

## 2. 17～18節

**Joh 16:17** そこで、弟子たちのうちのある者は互いに言った。「『しばらくするとあなたがたは、わたしを見なくなる。しかし、またしばらくするとわたしを見る』、また『わたしは父のもとに行くからだ』と主が言われるのは、どういうことなのだろう。」

**Joh 16:18** そこで、彼らは「しばらくすると、と主が言われるのは何のことだろうか。私たちに主の言われることがわからない」と言った。

(1) 弟子たちには、イエスの教えは矛盾しているように感じられた。

- ①しばらくすると、見なくなる。
- ②またしばらくすると、見る。

(2) 彼らは、イエスに質問するのではなく、互いに議論し合った。

- ①かなりの時間の経過があったと思われる。
- ②結論は出なかった。
- ③彼らは、イエスの死、復活、40日間の教え、昇天という一連の出来事により、イエスの教えを理解するようになる。

## 3. 19～20節

**Joh 16:19** イエスは、彼らが質問したがっていることを知って、彼らに言われた。「『しばらくするとあなたがたは、わたしを見なくなる。しかし、またしばらくするとわたしを見る』とわたしが言ったことについて、互いに論じ合っているのですか。」

**Joh 16:20** まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたは泣き、嘆き悲しむが、世は喜ぶのです。あなたがたは悲しむが、しかし、あなたがたの悲しみは喜びに変わります。

(1) イエスは、弟子たちの当惑を知っていた。

- ①弟子たちの疑問には直接答えず、別の情報を追加した。
- ②時の経過と聖霊の働きによって、弟子たちの疑問は解けると考えた。

(2) 「まことに、まことに」は、厳粛な予告をする際のことばである。

- ①弟子たちは、イエスの死を嘆き悲しむ。
- ②この世はそれを喜ぶ。イエスを十字架につけることができたから。

③しかし、弟子たちの悲しみは喜びに変わる。

#### 4. 21～22 節

Joh 16:21 女が子を産むときには、その時が来たので苦しみます。しかし、子を産んでしまうと、ひとりの人が世に生まれた喜びのために、もはやその激しい苦痛を忘れてしまいます。

Joh 16:22 あなたがたにも、今は悲しみがあるが、わたしはもう一度あなたがたに会います。そうすれば、あなたがたの心は喜びに満たされます。そして、その喜びをあなたがたから奪い去る者はありません。

(1) 悲しみや痛みが喜びに変わる例として、女性の出産が上げられる。

①赤子が生まれると、妊婦はすぐに激しい苦痛を忘れる。

(2) 弟子たちは、陣痛の時を迎えているが、やがて喜びに満たされる。

①復活のイエスに出会った時に、それが起こる。

②その喜びは、いつまでも続く。イエスが永遠に生きるから。

## II. イエスの名によって父に祈る (23～28 節)

### 1. 23～24 節

Joh 16:23 その日には、あなたがたはもはや、わたしに何も尋ねません。まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが父に求めることは何でも、父は、わたしの名によってそれをあなたがたにお与えになります。

Joh 16:24 あなたがたは今まで、何もわたしの名によって求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けるのです。それはあなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためです。

(1) 「その日」とは、昇天後のことである。

①イエスがいなくなるので、イエスに質問することはできない。

②弟子たちは、イエスの代理人(大使)である。

③代理人として、イエスの名によって父に求める。

(2) 「イエスの名によって求める」とは、「おまじない」ではない。

①イエスの意図に沿って求めるのである。

②イエスは父なる神の御心だけを行う。

③それゆえ、「イエスの名による祈り」は、父なる神の御心と調和した祈りである。

### 2. 25 節

Joh 16:25 これらのことを、わたしはあなたがたにたとえで話しました。もはやたとえでは話さないで、父についてはっきりと告げる時が来ます。

(1) イエスは、ベルゼブル論争(マタ12章)以降、たとえで教えた。

- ①一般民衆は、その意味が理解できなかった。
- ②弟子たちには、個人的な解説が与えられた。

(2) たとえではなく、はっきりと話す時が来る。

- ①特に、父なる神に関する啓示がそれである。
- ②使徒の働き、書簡には、直接的な教えが記されている。

### 3. 26～27節

**Joh 16:26 その日には、あなたがたはわたしの名によって求めるのです。わたしはあなたがたに代わって父に願ってあげようとは言いません。**

**Joh 16:27 それはあなたがたがわたしを愛し、また、わたしを神から出て来た者と信じたので、父ご自身があなたがたを愛しておられるからです。**

(1) 弟子たちはイエスの名によって、直接父に願うことができる。

- ①イエスが弟子たちに代わって父に願うのではない。
- ②これは、イエスの大祭司としての働きを否定しているのではない。

(2) 弟子たちはイエスを信じたので、父なる神と愛の関係に入っている。

### 4. 28節

**Joh 16:28 わたしは父から出て、世に来ました。もう一度、わたしは世を去って父のみもとに行きます。」**

(1) これは、イエスの使命を一文で要約したものである(原文では一文)。

- ①前半は、受肉と辱めを表している。
- ②後半は、復活、昇天、栄化を表している。

(2) これは、イエスの神性宣言である。

- ①預言者たちは神から派遣されたが、御子は「父から出た」。

## III. 患難と平安(29～33節)

### 1. 29～30節

**Joh 16:29 弟子たちは言った。「ああ、今あなたははっきりとお話しになって、何一つたとえ話はなさいません。**

**Joh 16:30 いま私たちは、あなたがいつさいのことをご存じで、だれもあなたにお尋ねする必要がないことがわかりました。これで、私たちはあなたが神から来られたことを信じます。」**

(1) 弟子たちは、イエスの教えをようやく理解した。

①イエスがたとえではなく、はっきりと話したから。

(2) イエスが全能のお方であることを理解した。

①イエスは、「わたしは父から出て」と言われた。

②弟子たちは、「あなたが神から来られたことを信じます」と応じた。

③彼らは、三位一体の神ということをどれくらい理解したのだろうか。

## 2. 31～32 節

Joh 16:31 イエスは彼らに答えられた。「あなたがたは今、信じているのですか。

Joh 16:32 見なさい。あなたがたが散らされて、それぞれ自分の家に帰り、わたしをひとり残す時が来ます。いや、すでに来ています。しかし、わたしはひとりではありません。父がわたしといっしょにおられるからです。

(1) イエスは、弟子たちの信仰の不完全さを知っていた。

①「今、信じていると思っているのか」

②散らされて、イエスをひとり残す時が来る。

③ゼカ 13:7 の預言

Zec 13:7 剣よ。目をさましてわたしの牧者を攻め、／わたしの仲間の者を攻めよ。／——万軍の【主】の御告げ——／牧者を打ち殺せ。／そうすれば、羊は散って行き、／わたしは、この手を子どもたちに向ける。

(2) 父がともにおられるので、イエスは孤独ではない。

①マタ 27:46

Mat 27:46 三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と叫ばれた。これは、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

## 3. 33 節

Joh 16:33 わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」

(1) 「これらのこと」とは、ヨハ 14～16 章の内容である。

①ディスペンセーションが移行しつつある。

②弟子たちは、苦難を通過する。

(2) イエスに従う者の二面性



- ①キリストにある。
  - ②この世にある。
  - ③この世にあっては患難がある。
  - ④キリストにあっては平安がある。
- (3) イエスはすでに世に勝った。
- ①この世の支配者(悪魔)を打ち破った。
  - ②イエスに従う者は、勇敢な者になることができる。

結論:

はじめに

- (1) ディスペンセーションが移行すると、新しい霊的真理が導入される。
- (2) 律法の時代から恵みの時代への移行が起ころうとしている。
- (3) 恵みの時代は、教会時代でもある。また、聖霊が中心的に働く時代である。

1. 悲しみから喜びへ

- (1) 三日後のイエスの復活は、弟子たちに喜びをもたらした。
- (2) 昇天から40日後の聖霊降臨も、弟子たちに喜びをもたらした。
  - ①内住の聖霊
  - ②助け主として真理を理解する力を与える。
- (3) 1900年以上後に起こる再臨は、あらゆる時代の信者に喜びをもたらす。

2. 祈りの変化

- (1) ヨハ16:23~24

Joh 16:23 その日には、あなたがたはもはや、わたしに何も尋ねません。まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが父に求めることは何でも、父は、わたしの名によってそれをあなたがたにお与えになります。

Joh 16:24 あなたがたは今まで、何もわたしの名によって求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けるのです。それはあなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためです。

- (2) 弟子たちは、イエスの名によって祈ったことはなかった。
- (3) イエスの昇天以降、彼らはイエスの名によって父に祈ることになる。
  - ①これは、イエスの代理人としての祈りである。
  - ②これは、イエスの御心に沿った祈りである。
- (4) このような祈りは、聖霊の導きによって可能となる。
- (5) 答えられた祈りは、彼らに喜びをもたらす。

「大祭司の祈り(1)」

ヨハ17:1~5

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①ヨハ14章 最後の晩餐の部屋の中で語られた。
- ②ヨハ15~16章 ゲツセマネの園に向かう途中で語られた。
- ③ヨハ17章 恐らく、ゲツセマネの園の近辺での祈りであろう。
- ④イエスの弟子たちへの教えは、勝利のことばでおわった。
  - \*「わたしはすでに世に勝った」(ヨハ16:33)
  - \*十字架の死が想定されている。
  - \*さらに、父なる神に戻って行くことが想定されている。
- ⑤この段階で、イエスの働きは預言者から祭司に移行した。
- ⑥ここに記された祈り(大祭司の祈り)は、聖書の中の最高の祈りである。
  - \*イエスの心の中を覗くことができる祈りである。
  - \*私たちが実践すべき適用を含んだ祈りである。
  - \*弟子たちに創作できるような内容の祈りではない。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§151 キリストの執りなしの祈り

2. アウトライン

- (1) 自分自身のための祈り(1~5節)
  - (2) 使徒たちのための祈り(6~19節)
  - (3) すべての信者のための祈り(20~26節)
- (今回は、(1)を取り上げる)

3. 結論:

- (1) 自分のための祈り
- (2) 父なる神への祈り
- (3) 神の栄光を求める祈り

大祭司の祈りから、霊的教訓を学ぶ

I. 自分自身のための祈り(1~5節)

1. 1節

**Joh 17:1 イエスはこれらのことを話してから、目を天に向けて、言われた。「父よ。時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すために、子の栄光を現してください。」**

(1) 「これらのことを話してから」

- ①ヨハ14~16章の弟子たちへのメッセージを終えてから。
- ②場所は、ゲツセマネの園の近くであろう。

(2) 「目を天に向けて」

- ①私たちの場合は、頭を垂れ、目を閉じて祈ることが多い。
- ②しかし、旧約聖書には、そのような祈りの姿勢は出てこない。
- ③祈りの形式に固執する必要はない。内容が問題である。
- ④立ったままでも、歩きながらでも、祈ることができる。

(3) 「父よ」

- ①イエスの場合は、父と子の関係において祈っている。
- ②イエスは、合計6回、父に呼びかけている。
  - \* 「父よ」 1節、5節、21節、24節
  - \* 「聖なる父よ」 11節
  - \* 「正しい父よ」 26節
- ③「恵みの時代」の信者は、イエスを通して父に祈る。

(4) 「時が来ました」

- ①イエスは、父なる神の御心に忠実に歩んで来られた。
- ②受肉の目的は、人類の罪を贖う計画の成就である。
- ③「時」とは、十字架の時である。
- ④それまでは、イエスの時はまだ来ていなかった。
  - \* イエスの敵は、イエスを逮捕することができなかった。
  - \* ヨハ2:4、7:6、7:8、7:30、8:20
- ⑤今、イエスの時が来た。
  - \* ヨハ12:23、13:1、17:1

(5) 「子の栄光を現してください」

- ①イエスの心の中を見ることができる。
- ②「子の栄光を現す」とは、どういうことか。
  - \* 苦難の中で父がイエスを支えること
  - \* 父がイエスの犠牲の死を受け入れること

\*父がイエスを復活させること

・復活は、イエスが神の子であることの証拠となる。

\*イエスが本来持っていた栄光を回復させること

・昇天によって、イエスは栄光の座に着く。

(6)「あなたの子があなたの栄光を現すために、」

①原文の語順と日本語の語順は逆である。

②イエスは、自分の願いの目的を明らかにしている。

\*神に何かを願う時に、私たちもその目的を申し上げるとよい。

③父なる神の知恵、力、愛が、イエスを通して現れるように。

④イエスを信じる者たちに永遠のいのちを与えることで、父の栄光を現す。

⑤罪人が新生し、神をたたえるようになることは、父に栄光をもたらす。

## 2. 2～3節

**Joh 17:2 それは子が、あなたからいただいたすべての者に、永遠のいのちを与えるため、あなたは、すべての人を支配する権威を子にお与えになったからです。**

**Joh 17:3 その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。**

(1) イエスの願いは、父なる神の御心に沿ったものである。

①父は子に、すべての人を支配する権威を与えた。

\*詩2篇のテーマ(メシア的詩篇)

②父は子に、裁きを行う権威を与えた(ヨハ5:27)。

③子は、自分から命を捨てる(ヨハ10:18)。

④子は、父からいただいたすべての者に、永遠のいのちを与える。

⑤信者は、「父からいただいた者」である(5回この表現が出て来る)。

\*2節、6節(2回)、9節、24節

⑥救いの教理の二面性

\*天地が造られる前から、父はキリストに属する者を選んでおられる。

\*神は、すべての人を招いておられる(信仰によって救われない人はいない)。

(2) イエスによる永遠のいのちの定義

①パリサイ人たちは、神の国に入ることが「永遠のいのち」だと考えていた。

②一般的には、いつまでも続くいのちである。

\*しかし、永遠のいのちとは、永遠に存在し続けることではない。

\*すべての者は、永遠に存在し続ける。

\*どこで、どのような状態で存在し続けるかが問題である。

③永遠のいのちとは、それは、唯一のまことの神を知ること。

\*「唯一のまことの神」とは、偶像と対比した言葉である。

④それは、父が遣わされたイエス・キリストを通して可能となる。

\*父と子とは、同質の神である。

⑤それは、イエス・キリストを通して与えられる「神との平和」である。

⑥「知る」とは、親密な個人的関係を指す動詞である。

⑦その関係は、永遠に続く。

### 3. 4~5節

Joh 17:4 あなたがわたしに行わせるためにお与えになったわざを、わたしは成し遂げて、地上でああなたの栄光を現しました。

Joh 17:5 今は、父よ、みそばで、わたしを栄光で輝かせてください。世界が存在する前に、ごいっしょにいて持っていましたあの栄光で輝かせてください。

(1) イエスの自分自身のための祈りは、使命の完了を土台としたものである。

①イエスは、父がイエスに与えた使命を成し遂げた。

②十字架の死が確実なこととして語られている。

(2) イエスの願いは、受肉前の栄光の回復である。

①世界が存在する前から、子は父といっしょに栄光を持っていた。

②受肉は、「メシアの辱め」の始まりである。

③十字架は、「メシアの辱め」の終わりである。

### 結論：

#### 1. 自分のための祈り

(例話) クリスチャンの祈りに感動した人の話

(1) 自分のために祈ることは、利己的なことではない。

(2) 利己的な祈りとは、自分だけの繁栄を求める祈りである。

(3) 他人のために祈る前に、自分の心と行いが神と調和している必要がある。

(4) 自分のための祈りは、楽器の調律と同じである。

\*自分の魂の調律が終わった人は、効果的な祈りを捧げることができる。

(5) 自分のための祈りは、クリスチャンにとって必要不可欠なものである。

#### 2. 父なる神への祈り

- (1) イエスは、弟子たちに、父に対して祈るように教えてこられた。
- (2) そのモデルが、「主の祈り」である。
- (3) しかし、「主の祈り」は、「主イエスが教えた弟子たちの祈り」である。
- (4) ここでは、イエス自身も父に対して祈っている。これこそ「主の祈り」である。
- (5) ヨハ20:17

Joh 20:17 イエスは彼女に言われた。「わたしにすがりついてはいけません。わたしはまだ父のもとに上っていないからです。わたしの兄弟たちのところに行って、彼らに『わたしは、わたしの父またあなたがたの父、わたしの神またあなたがたの神のもとに上る』と告げなさい。」

- ① マグダラのマリアへのことば
- ② 「わたしの父」、「わたしの神」
- ③ 「あなたがたの父」、「あなたがたの神」
- (6) イエスの祈りは、三位一体の神の「父と子」の関係を基にしたものである。
- (7) 私たちの祈りは、被造物が創造主に対して祈るものである。
  - ① 私たちは、父なる神に対して、イエス・キリストを通して、聖霊に導かれて祈るのである。

### 3. 神の栄光を求める祈り

- (1) ヨハ17:5

Joh 17:5 今は、父よ、みそばで、わたしを栄光で輝かせてください。世界が存在する前に、ごいっしょにいて持っていましたあの栄光で輝かせてください。

- (2) イエスが栄光を求めた理由は、父の栄光が現れるためである。
- (3) イエスは、受肉期間にご自身の栄光を隠された。
- (4) 山頂での変貌が、唯一の例外である。
- (5) イエスは、父に従順に歩むことによって父の栄光を現された。
  - ① 栄光とは、人格にかかわる概念である。
  - ② 神の義、力、愛が証明されることは、神の栄光につながる。
- (6) 人間の生きる目的は、神の栄光を現すことである。
  - ① ロマ11:36

Rom 11:36 というのは、すべてのことが、神から発し、神によって成り、神に至るからです。どうか、この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。

- ② 1コリ10:31

1Co 10:31 こういうわけで、あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現すためにしなさい。

- ③ エペ1:11~12

Eph 1:11 この方にあつて私たちは御国を受け継ぐ者ともなりました。みこころによりご計画

のままをみな行方目的に従って、私たちはあらかじめこのように定められていたのです。  
Eph 1:12 それは、前からキリストに望みを置いていた私たちが、神の栄光をほめたたえるためです。

④エペ1:13～14

Eph 1:13 この方にあつてあなたがたもまた、真理のことは、あなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことにより、約束の聖霊をもって証印を押されました。

Eph 1:14 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。これは神の民の贖いのためであり、神の栄光がほめたたえられるためです。

(7) 聖書が書かれた目的は、神の栄光のためである。

「大祭司の祈り(2)」

ヨハ17:6~19

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①ヨハ17章 恐らく、ゲツセマネの園の近辺での祈りであろう。
- ②イエスの働きは、預言者から祭司に移行した。
- ③これは、大祭司の祈りである。

\*聖書に記された最高の祈りである。

\*イエスの心の中を覗くことができる祈りである。

\*世界観の変更を迫る祈りである。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§151 キリストの執りなしの祈り

2. アウトライン

- (1) 自分自身のための祈り(1~5節)
- (2) 使徒たちのための祈り(6~19節)
  - ①使徒たちとの関係(6~8節)
  - ②使徒たちの守りを願う祈り(9~16節)
  - ③使徒たちの聖めを願う祈り(17~19節)
- (3) すべての信者のための祈り(20~26節)

3. 結論:

- (1) 弟子たちのためのイエスの祈り
- (2) 弟子たちによって栄光を受けるイエス

大祭司の祈りから、霊的教訓を学ぶ

I. 使徒たちとの関係(6~8節)

1. 6節

Joh 17:6 わたしは、あなたが世から取り出してわたしに下さった人々に、あなたの御名を明らかにしました。彼らはあなたのものであって、あなたは彼らをわたしに下さいました。彼らはあなたのみことばを守りました。

(1) この小さな群れ(11人の使徒集団)は、父から子に与えられたものである。

①彼らは、世から取り出された(選び出された)。



②ヨハ17章には、「世」という言葉が18回も出て来る。

\*「世」とは、神に敵対する勢力、システムのことである。

③彼らは、父の選びによってこの世(不信仰な人類全体)から取り出された。

④父は彼らの子に贈り物として与えた。

⑤ヨハ6:37

「父がわたしにお与えになる者はみな、わたしのところに来ます。そしてわたしのところに来る者を、わたしは決して捨てません」

(2) 子は彼らに、父の御名を明らかにした(御名を現した)。

①御名とは、父のご人格、属性、特徴などである。

②イエスは、自分を見た者は父を見たと言われた。

③これは、イエスの神性宣言である。

(3) 彼らは、父のみことばを守った。

①イエスは、彼らをほめておられる。

②彼らは、イエスが語る父のことばに応答した。

③彼らは完ぺきではなかったが、献身の姿勢は正しかった。

(例話) 高校時代の代数: 回答は間違っているが論理がよければ評価される。

④過去の失敗や、これから起ころうとしている裏切りへの言及は、一切ない。

## 2. 7~8節

Joh 17:7 いま彼らは、あなたがわたしに下されたものはみな、あなたから出ていることを知っています。

Joh 17:8 それは、あなたがわたしに下されたみことばを、わたしが彼らに与えたからです。彼らはそれを受け入れ、わたしがあなたから出て来たことを確かに知り、また、あなたがわたしを遣わされたことを信じました。

(1) 子は父を完ぺきに啓示した。

①子は父のことばを彼らに伝えた。

(2) 彼らは、その啓示に応答した。

①父と子がひとつであることを信じた。

\*ユダヤ的には、イエスが神であることを信じたということ。

②子が父から派遣されていることを信じた。

\*イエスは完ぺきな【主】のしもべであることを信じたということ。

(3) 以上のことを前提に、イエスは弟子たちのために大祭司として祈られた。

## II. 使徒たちの守りを願う祈り(9~16節)

### 1. 9~10節

Joh 17:9 わたしは彼らのためにお願いします。世のためにはなく、あなたがわたしに下さった者たちのためにです。なぜなら彼らはあなたのものだからです。

Joh 17:10 わたしのもはみなあなたのもの、あなたのものはわたしのものです。そして、わたしは彼らによって栄光を受けました。

(1) これは、11人のための祈りである。

①適用としては、すべての信者のための祈りとも言える。

②これは、世のための祈りではない。

\*世は不信仰であり、その状態に保たれる必要はないのである。

③イエスが世のために祈ったことがないという意味ではない。

\*事実、イエスは十字架上で世のために祈られた。

④イエスは大祭司として、11人を代表して御座の前で祈っている。

(2) 子のもは父のもの、父のもは子のものである。

①これは、子と父の親密な関係を示している。

②子と父は、同じ権威を有する神である。

\*人は神に向かって、「わたしのもはみなあなたのもの」と言える。

\*しかし、「あなたのものはわたしのものです」とは言えない。

(3) 「わたしは彼らによって栄光を受けました」

①これは、不完全な弟子たちにとって大いなる励ましと慰めである。

### 2. 11節

Joh 17:11 わたしはもう世にいません。彼らは世にいますが、わたしはあなたのみもとにまいります。聖なる父。あなたがわたしに下さっているあなたの御名の中に、彼らを保ってください。それはわたしたちと同様に、彼らが一つとなるためです。

(1) 状況が大きく変化しようとしているので、この祈りが必要となる。

①イエスは世を去り、父のみもとに行く。

②弟子たちは、世に残される。

③イエスに向けられていた「世からの憎しみ」は、弟子たちに向けられる。

④弟子たちを守る役割は、父に委ねられる。

(2) 御名の中に保つ。

①父は、聖なる父であり、罪に汚れた被造世界からは分離している。

\*父は、無限に高いところにおられる。

②イエスを信じた弟子たちは、聖なる者とされている(世からの分離)。

③「御名の中に保つ」とは、父ご自身の守りを意味する。

(3) その目的は、彼らが一つとなるためである。

①彼らの性質や目的がイエスに似たものとなる。

②父と子が一つであることが、そのモデルとなる。

### 3. 12 節

**Joh 17:12 わたしは彼らといっしょにいたとき、あなたがわたしに下さっている御名の中に彼らを保ち、また守りました。彼らのうちだれも滅びた者はなく、ただ滅びの子が滅びました。それは、聖書が成就するためです。**

(1) イエスは、良き羊飼いとて彼らを守った。

①これは、イエスの地上生涯への言及である。

(2) 唯一の例外は、イスカリオテのユダである。

①彼は、滅びの子である。

②ユダは羊の一員ではなかった。最後に、それが明らかになった。

③彼はイエスを売り渡すことで、知らない内にサタンの手先となった。

④神の主権は、人間の悪行の上にも及ぶ。

⑤ユダの裏切りは、詩41:9の成就である。

「私が信頼し、私のパンを食べた親しい友までが、私にそむいて、かかとを上げた」

### 4. 13～14 節

**Joh 17:13 わたしは今みもとにまいります。わたしは彼らの中でわたしの喜びが全うされるために、世にあってこれらのことを話しているのです。**

**Joh 17:14 わたしは彼らにあなたのみことばを与えました。しかし、世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものでないからです。**

(1) イエスが励ましのことばを語っている理由

①イエスが死んだあと、弟子たちはイエスのことばを思い出すようになる。

②それによって、イエスの喜びをフルに味わうようになる。

③イエスの喜びとは、悪に打ち勝ち、永遠のいのちをもたらしたということ。

(2) 父の守りが必要な理由

①イエスは父のことばを彼らに与え、彼らはイエスのようになった。

②イエスが憎まれたように、彼らも世から憎まれる。

5. 15～16節

**Joh 17:15 彼らをこの世から取り去ってくださるようというのではなく、悪い者から守ってくださるようお願いします。**

**Joh 17:16 わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。**

(1) 神の計画は、彼らを世から取り去ることではない。

①むしろ、世にあって彼らを悪い者から守ることである。

②彼らには、この世にあって果たすべき使命が与えられていた。

(2) 悪い者とは、サタンのことである。

①サタンは、この世の頭である。

②信者を破壊するためならなんでもする。

③しかし、サタンの意図が成就することはない。

④神は、ご自身の民を守られる。

(3) イエスがこの世に属していないように、弟子たちもこの世のものではない。

①コロ1:13

「神は、私たちが暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました」

②この世からの誘惑を受けたとき、この聖句を思い出すべきである。

### III. 使徒たちの聖めを願う祈り(17～19節)

1. 17節

**Joh 17:17 真理によって彼らを聖め別ってください。あなたのみことばは真理です。**

(1) 聖めとは

①この世からの分離である。

\*この世の価値観、罪、目的からの分離である。

②神の働きのための分離である。

(2) 聖めの方法

- ①真理のみことばである。
- ②神のことばを学ぶなら、その人は聖め別たれる。
  - \*心と知性が変化する。
  - \*内面の変化は、生き方の変化をもたらす。
- ③この原則は、現代の信者にも適用される。
  - \*みことばの学びによって、この世から別たれ、神の働きをするようになる。
  - \*「聖書研究から日本の霊的覚醒(目覚め)が」

2. 18 節

**Joh 17:18 あなたがわたしを世に遣わされたように、わたしも彼らを世に遣わしました。**

- (1) 父が子を世に遣わした。
  - ①子の使命は、父を啓示することである。
  - ②イエスは、すべての信者のモデルである。
  
- (2) イエスは弟子たちを世に遣わした。
  - ①弟子たちには使命がある。
  - ②父を知らしめることが、弟子たちの使命である。
  - ③これは、イエスの大宣教命令と言ってもよい。

3. 19 節

**Joh 17:19 わたしは、彼らのため、わたし自身を聖め別ちます。彼ら自身も真理によって聖め別たれるためです。**

- (1) 「わたしは、彼らのため、わたし自身を聖め別ちます」とはどういう意味か。
  - ①イエスの性質は、聖めを必要としていない。
  - ②このことばは、十字架の死への献身を意味している。
  
- (2) 真理は弟子たちを聖め別つ。
  - ①イエスの贖いの死を信じる者は、この世から聖め別たれる。

**結論**

1. 弟子たちのためのイエスの祈り

(1) 弟子たちを選ぶ前(ルカ6:12)

**Luk 6:12 このころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈りながら夜を明かされた。**

(2) 公生涯の終わり (ルカ 22 : 32)

「しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい」

(3) 地上を去る前 (ヨハ 17 : 6~19)

(4) 天上において

① ロマ 8 : 34

「罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしていてくださるのです」

② ヘブ 7 : 25

「したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことができになります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです」

2. 弟子たちによって栄光を受けるイエス

(1) 旧約時代における神の栄光

- ① 幕屋、神殿の至聖所にシャカイナグローリーが現れた。
- ② 神がご自身の民の中に住み、栄光を表された。

(2) 福音書の時代

- ① イエスの内にシャカイナグローリーが現れた。
- ② ヨハ 1 : 14

「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた」

- ③ 弟子たちの信仰と生き方は、イエスのご性質の現れとなった。

\* 栄光とは、神のご臨在であり、ご性質である。

- ④ それゆえイエスは、弟子たちによって栄光と受けたと言われたのである。

\* これは、不完全な弟子たちにとって大いなる励ましと慰めである。

(3) 教会時代

- ① 聖霊が御子の栄光を表す。

②ヨハ16：14

「御霊はわたしの栄光を現します。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです」

③信者も御子の栄光を表す。

④エペ1：12

「それは、前からキリストに望みを置いていた私たちが、神の栄光をほめたたえるためです」（新改訳）

「これ夙（はや）くよりキリストに希望（のぞみ）を置（お）きし我（われ）らが、神（かみ）の栄光（えいくわう）の譽（ほまれ）とならん爲（ため）なり」（文語訳）

「大祭司の祈り（3）」

ヨハ 17：20～26

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①ヨハ 17章 恐らく、ゲツセマネの園の近辺での祈りであろう。
- ②イエスの働きは、預言者から祭司に移行した。
- ③これは、大祭司の祈りである。

\*聖書に記された最高の祈りである。

\*イエスの心の中を覗くことができる祈りである。

\*世界観の変更を迫る祈りである。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 151 キリストの執りなしの祈り

2. アウトライン

- (1) 自分自身のための祈り（1～5節）
- (2) 使徒たちのための祈り（6～19節）
- (3) すべての信者のための祈り（20～26節）
  - ①将来信じる人々のための祈り（20節）
  - ②信者の一致を願う祈り（21～23節）
  - ③信者の栄化を願う祈り（24～26節）

3. 結論：大祭司の祈りの4つのポイント

- (1) 守り
- (2) 聖め
- (3) 一致
- (4) 栄化

大祭司の祈りから、霊的教訓を学ぶ

I. 将来信じる人々のための祈り（20節）

1. 20節

Joh 17:20 わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにもお願いします。

- (1) イエスの祈りは、使徒たちから将来の信者たちのためのものに移行している。



- ①「彼らのことばによってわたしを信じる人々」とは、将来の信者たちである。
- ②今私たちは、「イエスは2000年前に私のために祈って下さった」と言える。

(2) イエスは、教会時代の到来を予見しておられる。

- ①イエスは死んで葬られ、復活し、昇天する。
- ②聖霊が下り、使徒たちが宣教を開始し、教会が誕生する。
- ③使徒たちの宣教は、エルサレム、ユダヤ、サマリヤ、地の果てにまで広がる。
- ④教会時代のすべての信者は、直接的、間接的に、使徒たちの証しによって救いに導かれた。

(3) 旧約時代の大祭司との比較

- ①大祭司は、イスラエル12部族の名前をエポデの肩に付けて、幕屋(神殿)の至聖所に宿るシャカイナグローリーの前に出た。
- ②出28:9~12

Exo 28:9 二つのしまめのうを取ったなら、その上にイスラエルの子らの名を刻む。

Exo 28:10 その六つの名を一つの石に、残りの六つの名をもう一つの石に、生まれた順に刻む。

Exo 28:11 印を彫る宝石細工師の細工で、イスラエルの子らの名を、その二つの石に彫り、それぞれを金のわくにはめ込まなければならない。

Exo 28:12 その二つの石をイスラエルの子らの記念の石としてエポデの肩当てにつける。アロンは【主】の前で、彼らの名を両肩に負い、記念とする。

- ③イエスは、将来の信者たちの名前を天の父の臨在の前に運んでおられる。

## II. 信者の一致を願う祈り(21~23節)

### 1. 21節

Joh 17:21 それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。

(1) エキュメニカル運動について

- ①この聖句は、エキュメニカル運動の支持者が好むものである。
- ②キリスト教の教派を超えた結束を目指す運動である(教会一致促進運動)。

\*世界教会主義ともいう。

- ③キリスト教の枠を超えた、より幅広い諸宗教間の対話と協力を目指す運動を意味する場合もある。

- ④しかし、正統的な信仰と異端的な信仰とが同居する一致は、真の一致ではない。
- ⑤人間が作り上げる組織的一致とイエスが語る一致とは、大いに異なる。
- ⑥あるいは、強権に基づく画一的、外面的一致とも大いに異なる。

(2) イエスが語る一致とは

- ①モデルは、父なる神とイエスの間にある一致である。
  - \*愛において、目的において、本質において、父と子は一致している。
- ②信者の一致もそれと同じである。
  - \*愛において、みことばへの従順において、御心への献身においての一致である。
  - \*また、人格がイエスに似ているという意味での一致である。

(3) 1コリ 12:13

1Co 12:13 なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです。

- ①すべての信者は、キリストのからだに属する。
- ②信者の霊的一致は、その生き方によって明らかに示される。
- ③イエスに従うことは、父と子のうちにおることである。
- ④私たちは、イエスを離れては何もできない。

(4) 一致の目的

- ①信者の一致した姿(イエスの人格の現れ)を見て、世の人たちがイエスを信じ、父がイエスを遣わしたことを信じるようになる。
- ②「イエスの内に父が見えたように、信者の内にイエスが見える」と世が言うようになる。

2. 22～23節

Joh 17:22 またわたしは、あなたがわたしに下さった栄光を、彼らに与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つであるためです。

Joh 17:23 わたしは彼らにおり、あなたはわたしにおられます。それは、彼らが全うされて一つとなるためです。それは、あなたがわたしを遣わされたことと、あなたがわたしを愛されたように彼らをも愛されたこととを、この世が知るためです。

(1) 「あなたがわたしに下さった栄光」

- ①十字架の栄光のことであろう(ヨハ 17:1～5で触れた内容)。

\*十字架に続く、復活、昇天も含む。

- ②イエスはすでにその栄光を信者に下さった(神の視点)。
- ③現実には、それを受けるのは将来のことである(人間の視点)。

(2) 教会は、イエスの十字架による贖いを信じたとき、父の計画と一つになる。

- ①教会とイエスは一つになる。
- ②教会は父なる神とも一つになる。

(3) 信者の一致のゴール

- ①父なる神がイエスを派遣したことを、この世が信じるため。
- ②父なる神が、イエスを愛されたように教会をも愛しておられることを、この世が知るため。

\*この愛は、深く、親密で、いつまでも続く愛である。

\*ひとり子(ユニークな子)を愛する愛である。

### III. 信者の栄化を願う祈り(24~26節)

#### 1. 24節

Joh 17:24 父よ。お願いします。あなたがわたしに下さったものをわたしのいる所にわたしといっしょにおらせてください。あなたがわたしを世の始まる前から愛しておられたためにわたしに下さったわたしの栄光を、彼らが見るようになるためです。

(1) 信者が受ける祝福

- ①永遠にイエスとともに住まうことである。
- ②イエスの栄光を見るようになることである。  
\*イエスは栄光を捨てたが、再び元の栄光を受けるようになる。
- ③イエスの栄光を見るときは、信者が栄化されたことを示している。

(2) ヘブ2:10

Heb 2:10 神が多くの子たちを栄光に導くのに、彼らの救いの創始者を、多くの苦しみを通して全うされたということは、万物の存在の目的であり、また原因でもある方として、ふさわしいことであつたのです。

(3) 「父よ。お願いします」

- ①ギリシア語で「 $\theta \epsilon \lambda \omega$ 」という動詞
- ②英語で「Father, I will that」(KJV)、「Father, I desire that」(ASV)。

- ③「父よ、望むらくは、」(文語訳)
- ④イエスの願いと父なる神の御心は、常に合致している。
- ⑤信徒の栄化は必ず成就する。

## 2. 25～26節

Joh 17:25 正しい父よ。この世はあなたを知りません。しかし、わたしはあなたを知っています。また、この人々は、あなたがわたしを遣わされたことを知りました。

Joh 17:26 そして、わたしは彼らにあなたの御名を知らせました。また、これからも知らせます。それは、あなたがわたしを愛してくださったその愛が彼らの中にあり、またわたしが彼らの中にいるためです。」

- (1) 「信者のための祈り」の結びのことば
  - ① 「正しい父よ」という呼びかけ
  - ② 父を称えることばが、この世(父を知らない)との対比で使用されている。
- (2) イエスは父を知っており、それをこの世に伝えた。
  - ① 父がイエスを遣わしたことを知った人々が、信者である。
- (3) イエスは、父の御名(本質)を啓示した。
  - ① これからも知らせ続ける(聖霊を通して)。
- (4) 信者は父なる神の愛の対象である。
  - ① イエスが信者の中にいるので、父なる神は信者を愛される。
  - ② 神は愛である。
  - ③ 1ヨハ4:16

1Jn 4:16 私たちは、私たちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のうちにおられます。

## 結論：大祭司の祈りの4つのポイント

### 1. 守り

- (1) 使徒たちは、父の選びによってこの世(不信仰な人類全体)から取り出された。
- (2) 父は彼らを贈り物として子に与えた。
- (3) 神(イエス)はこの世を愛された。
- (4) しかし、この世はイエスを憎んだ。
- (5) イエスがいなくなると、この世はイエスの弟子たちを憎むようになる。

- (6) 弟子たちを守る役目は、父のものとなる。
- (7) 父が彼らを守る目的は、彼らが一つとなるためである(イエスに似た者)。

## 2. 聖め

- (1) 聖めとは、この世からの分離である。
- (2) それは、神の働きのための分離である。
- (3) 聖めの方法は、真理のみことばの学びである。
- (4) 内面が変化した者は、イエスの弟子としてこの世に派遣される。

## 3. 一致

- (1) 信者の一致は、超自然的なものである。
- (例話) メシアニックジューとアラブ人信者の和解
- ①2014年の再臨待望聖会 セツ・ポステル氏とトマス・ダミアノス氏
- (2) 信者の一致のゴール
    - ①父なる神がイエスを派遣したことを、この世が信じるため。
    - ②父なる神が、イエスを愛されたように教会をも愛しておられることを、この世が知るため。

## 4. 栄化

- (1) 信者は、天においてイエスの栄光を反映させるようになる。
- (2) 黙 22 : 5

Rev 22:5 もはや夜がない。神である主が彼らを照らされるので、彼らにはともしびの光も太陽の光もいらない。彼らは永遠に王である。

- ①これが、信者の栄化である。

「ゲツセマネの園での祈り」

マタ 26 : 36~46

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ① イエスと弟子たちは、ゲツセマネの園に着いた。
- ② 時間は、木曜日の夜 10 時~11 時ごろであろう (当時の文化では、遅い時間)。
- ③ イエスは、十字架を目前に控えて、必死の祈りをされた。
- ④ この祈りは、史上最大の霊的戦いの内容を明らかにするものである。
  - \* 私たちは、まさに聖なる地に足を踏み入れようとしている。
  - \* イエスの痛みを理解せずに、十字架の意味を味わうことは不可能である。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 152 ゲツセマネの園に着き、イエスは激しく苦悶する。

2. アウトライン

- (1) ゲツセマネの園に到着 (36~38 節)
- (2) 最初の祈り (39~41 節)
- (3) 2 度目の祈り (42~43 節)
- (4) 3 度目の祈り (44~46 節)

3. 結論

- (1) なんのためにイエスはこれほどまでに苦しまれたのか。
- (2) 「杯」とは何か。
- (3) 霊的戦いに勝利する方法は何か。

ゲツセマネの園での祈りから、霊的戦いに勝利する秘訣を学ぶ。

I. ゲツセマネの園に到着 (36~38 節)

1. 36 節

Mat 26:36 それからイエスは弟子たちといっしょにゲツセマネという所に来て、彼らに言われた。「わたしがあそこに行って祈っている間、ここにすわっていなさい。」

(1) ゲツセマネの園は、オリーブ山の西側、エルサレムの城壁に隣接した位置にある。

- ① 過越の祭りの夜は、エルサレムの域内に留まらなければならない。
- ② ベタニヤは、域外にある。

③ゲツセマネとは、「オリーブの絞り場」という意味。

\*オリーブの木から実を収穫し、油を絞っていた。神殿の灯火用に使用。

\*オリーブ油は聖霊の象徴である。

\*メシアは砕かれ、信じる者に聖霊を与えた。

④そこは、「いつもの場所」(ルカ 22:39)であった。

## (2) 弟子たちへの命令

①ユダはイエスを裏切ろうとして動いていた。

②11人の弟子たちが、イエスとともにゲツセマネの園に着いた。

③8人は、園の入り口に留まる。彼らは、第一の衛兵である。

④ルカ 22:40

Luk 22:40 いつもの場所に着いたとき、イエスは彼らに、「誘惑に陥らないように祈っていなさい」と言われた。

⑤これは、イエスのためではなく、自分自身のために祈れという命令である。

⑥ここでの「誘惑」とは、信仰のテストである。ギリシア語のペイラスモス。

\*イエスが逮捕された時に、イエスと父への信仰を放棄するかどうか。

## 2. 37～38節

Mat 26:37 それから、ペテロとゼベダイの子ふたりとをいっしょに連れて行かれたが、イエスは悲しみもだえ始められた。

Mat 26:38 そのとき、イエスは彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここを離れないで、わたしといっしょに目をさまさない。」

(1) 3人(ペテロ、ヤコブ、ヨハネ)は園の奥まで入って行った。

①彼らは、第二の衛兵である。

(2) マコ 14:33

Mar 14:33 そして、ペテロ、ヤコブ、ヨハネをいっしょに連れて行かれた。イエスは深く恐れもだえ始められた。

①深く恐れ

\*ギリシア語で「エクサムベオウ」。非常に驚くという意味。

\*「甚(いた)く驚(をどろ)き、」(文語訳)

\*「to be sore amazed」(KJV)

\*イエスは、何かに非常に驚かされたのである。

②もだえ始めた。

\*ギリシア語で「アデイモネオウ」。重く感じるという意味

\* イエスの肩に重荷が載せられたのである。

\* 「to be very heavy」

(3) 「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです」

① イエスは、肉体の死をもたらすほどの精神的悲しみ(痛み)を経験している。

② このことを3人の弟子たちに率直に告げた。

(例話) 息子がガザ戦争に参加した母親の心

(4) 「ここを離れないで、わたしといっしょに目をさましていなさい」

① イエスは、弟子たちがイエスとともに祈ってくれることを願った。

② 「目をさましていなさい」は、夜も更けて来たが、寝ないようにということ。

## II. 最初の祈り (39~41 節)

### 1. 39 節

Mat 26:39 それから、イエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈って言われた。「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようではなく、あなたのみこころのように、なさってください。」

(1) 祈りの状態

① イエスは、3人の弟子たちから離れた所で祈られた。

② イエスの祈りは、「この杯をわたしから取りのけてください」であった。

③ しかし最後は、父の御心になることを求めた。

(2) ルカ 22 : 42~44 からの追加情報

Luk 22:42 「父よ。みこころならば、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、みこころのとおりにしてください。」

Luk 22:43 すると、御使いが天からイエスに現れて、イエスを力づけた。

Luk 22:44 イエスは、苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。

① 天使(単数形)がイエスを力づけた(ルカだけの記録)。

\* 「荒野の誘惑」では、誘惑が終わってから天使たちがイエスに仕えた。

\* ここでは、霊的戦いの最中に、天使がイエスを力づけた。

② 弟子たちは眠りこけていたが、イエスは孤独ではなかった。

③ 汗が血のしずくのように地に落ちた(ルカだけの記録)

\* 精神的なショックにより、発汗細胞が傷つき、血液が汗に混じる状態。



2. 40～41 節

Mat 26:40 それから、イエスは弟子たちのところに戻って来て、彼らの眠っているのを見つけ、ペテロに言われた。「あなたがたは、そんなに、一時間でも、わたしといっしょに目をさましていることができなかつたのか。」

Mat 26:41 誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。」

(1) イエスはペテロに言われた。

- ①彼は、イエスとともにどこまでも行くと2回も豪語していた。
- ②にもかかわらず、彼はイエスが最も励ましを必要としている時に寝ていた。
- ③「一時間」も目を覚ましていることができなかつた(マコ14:37)。

(2) イエスは3人の弟子たちを励ました。

- ①イエスは、人間が有限であることを認めておられた。
  - \*心では、キリストに従いたいという願いがある。
  - \*肉体は、休息を必要としている。
- ②ここでの「誘惑」とは、信仰のテストのことである。

III. 2度目の祈り(42～43 節)

1. 42 節

Mat 26:42 イエスは二度目に離れて行き、祈って言われた。「わが父よ。どうしても飲まずには済まされぬ杯でしたら、どうぞみこころのとおりをなさってください。」

(1) イエスは弟子たちに祈りを教えたが、弟子たちとともに祈ったという記録はない。

- ①信者が父なる神に祈るのと、御子イエスが父に祈るのとでは、大きな差がある。
- ②「わが父よ」という呼びかけ

(2) イエスは、杯はどうしても飲まねばならないものであることを認識された。

- ①再び、イエスは父への従順を優先された。

2. 43 節

Mat 26:43 イエスが戻って来て、ご覧になると、彼らはまたも眠っていた。目をあけていることができなかつたのである。

(1) 今度も弟子たちは眠っていた。

- ①「彼らは、イエスにどう言ってよいか、わからなかつた」(マコ14:40b)

IV. 3度目の祈り(44～46 節)

1. 44節

Mat 26:44 イエスは、**まとも彼らを置いて行かれ、もう一度同じことをくり返して三度目の祈りをされた。**

(1) イエスは、同じような祈りを3度繰り返された。

①イエスの苦悶の姿と、弟子たちの眠りこけている姿とは、対照的である。

2. 45～46節

Mat 26:45 **それから、イエスは弟子たちのところに来て言われた。「まだ眠って休んでいるのですか。見なさい。時が来ました。人の子は罪人たちの手に渡されるのです。」**

Mat 26:46 **立ちなさい。さあ、行くのです。見なさい。わたしを裏切る者が近づきました。」**

(1) 「まだ眠って休んでいるのですか」は、励ましの言葉であろう。

①文語訳

Mat 26:45 而(しか)して弟子(でし)たちの許(もと)に來(きた)りて言(い)ひ給(たま)ふ『今(いま)は眠(ねむ)りて休(やす)め。視(み)よ、時(とき)近(ちか)づけり、人(ひと)の子(こ)は罪人(つみびと)らの手(て)に付(わた)さるるなり。』

②「Sleep on now, and take rest.」(KJV)

(2) この眠りは、次の行動に移るために必要なものであった。

①次に、「立ちなさい。さあ、行くのです」が続く。

②時が来たとは、裏切る者が近づいて来たということ。

結論

1. なんのためにイエスはこれほどまでに苦しまれたのか。

(1) 旧約聖書には、救いの計画が預言されている(イザ49章を取り上げる)。

①イザ49:4

Isa 49:4 **しかし、私は言った。／「私はむだな骨折りをして、／いたずらに、むなしく、私の力を使い果たした。／それでも、私の正しい訴えは、【主】とともにあり、／私の報酬は、私の神とともにある。」**

\*メシアはイスラエルを救おうとしたが、拒否された。

②イザ49:6

Isa 49:6 **主は仰せられる。／「ただ、あなたがわたしのしもべとなって、／ヤコブの諸部族を立たせ、／イスラエルのとどめられている者たちを／帰らせるだけではない。／わたしはあなたを諸国の民の光とし、／地の果てにまでわたしの救いを／もたらす者とする。」**

\*メシアは、イスラエルだけでなく、全人類のための過越の小羊となる。

③イザ49:8

Isa 49:8 【主】はこう仰せられる。／「恵みの時に、わたしはあなたに答え、／救いの日にあなたを助けた。／わたしはあなたを見守り、／あなたを民の契約とし、／国を興し、荒れ果てたゆずりの地を継がせよう。

\*千年王国の預言

\*「あなたを民の契約とし」とは、イスラエルとの契約が成就すること。

(2) 新約聖書でも同じことが語られている。

①使 15 : 14

Act 15:14 神が初めに、どのように異邦人を顧みて、その中から御名をもって呼ばれる民をお召しになったかは、シメオンが説明したとおりです。

\*エルサレム会議で、異邦人の救いが承認された。

②ロマ 9～11 章

\*イスラエルの不信仰、異邦人の救い、イスラエルの回復

2. 「杯」とは何か。イエスは、杯を取りのけてくださいと祈られた。

(2) 「杯」とは、十字架の死のことではない。

①イエスは、十字架で死ぬために来られた。

②ルカ 19 : 10、ヨハ 12 : 27、ヘブ 10 : 5～9、ピリ 2 : 8

(3) 「杯」とは、罪に対する神の怒りのことである。

①聖書が聖書を解釈する。

②詩 11 : 6、75 : 8、イザ 51 : 17、エレ 25 : 15、黙 14 : 10

③神の怒りの杯を飲む者は、霊的に死んでいる不信者である。

④彼らは、神から切り離された者たちである。

⑤メシアの肉体的死は預言されていたが、霊的の死の預言はない。

⑥イエスは神性と人性を持っていた。神性は死なない。人性は死ぬことができる。

⑦イエスは霊的の死(父との分離)について知って、驚かれたのであろう。

⑧私たち人間には、父と子の分離がどういう意味をもつか理解できない。

⑨霊的の死を通過することで、イエスは私たちのために完璧な大祭司とされた。

3. 霊的戦いに勝利する方法は何か。

(1) イエスの祈りは答えられなかったが、イエスは霊的戦いに勝利された。

①それは、父の御心を求め、それを実行したからである。

②ヨハ 18 : 11

Joh 18:11 そこで、イエスはペテロに言われた。「剣をさやに収めなさい。父がわたしに下さ

った杯を、どうして飲まずにいられよう。」

(3) アダムとイエスの対比

- ①アダムは父に背いて、死をもたらした。
- ②イエス（最後のアダム）は父への従順を学び、いのちをもたらした。
- (4) 私たちの手本は、最初のアダムではなく、最後のアダムである。

「裏切られ逮捕されるイエス」

ヨハ 18 : 2~12

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①イエスを逮捕しようとする者たちが、ゲツセマネの園にやって来た。
  - \* 金曜日の真夜中過ぎで、夜明けまではまだ時間がある。
- ③ここから、イエスの逮捕、裁判、十字架刑へと進んで行く。
- ④ユダヤの背景を考慮しないと、この進み方を理解することはできない。
  - \* イエスは、口伝律法を破ったという理由で有罪にされた。
  - \* しかし、ユダヤ人の指導者自身が 22 回口伝律法に違反する。
  - \* ミシュナの中の「the Sanhedrin Tractate」に記された口伝律法である。

(2) A. T. ロバートソンの調和表 (新区分)

Part XIII § 153 裏切られ逮捕されるイエス

マコ 14 : 43~52、マタ 26 : 47~56、ルカ 22 : 47~53、ヨハ 18 : 2~12

2. アウトライン

- (1) イエスを逮捕するために来た人々 (2~3 節)
- (2) イエスの対応 (4~9 節)
- (3) ペテロの対応 (10~12 節)

3. 結論

- (1) イスカリオテのユダについて
- (2) イエスの神性宣言について
- (3) ユダヤ人指導者たちの混乱について

イエス逮捕の出来事から、霊的教訓を学ぶ。

I. イエスを逮捕するために来た人々 (2~3 節)

1. 2 節

Joh 18:2 ところで、イエスを裏切ろうとしていたユダもその場所を知っていた。イエスがたびたび弟子たちとそこで会合されたからである。

- (1) イスカリオテのユダは、イエスを銀貨 30 枚で売り渡した。
  - ①これは、1 番目の律法違反である。
  - ②賄賂がからんだ逮捕は、律法違反である (出 23 : 8 参照)。

(2) ユダが必要とされた理由

- ①イエスを、群衆から離れた所で逮捕する必要があった。
  - \*ユダは、イエスがゲツセマネの園で祈る習慣があることを知っていた。
  - \*ユダはイエスがゲツセマネの園にいることを予測し、先導役を果たした。
- ②ユダヤ総督ポンテオ・ピラトの前で、証言する必要があった。
  - \*この証言がなければ、ローマ兵の派遣はない(ユダによる積極的関与)。
- ③イエスを裁くローマ法廷において証人となる必要があった。
  - \*その前に、ユダは自殺することになる。

2. 3 節

**Joh 18:3** **そこで、ユダは一隊の兵士と、祭司長、パリサイ人たちから送られた役人たちを引き連れて、ともしびとたいまつと武器を持って、そこに来た。**

(1) 一隊の兵士

- ①ギリシア語で「スペイラ」、英語で「cohort」。兵士という言葉はない。
- ②ローマの歩兵隊のことで、通常は400~600人(正式には800人)から成る。
- ③ユダがポンテオ・ピラトの前で証言したことを示している。
- ④ピラトは、祭りの期間はカイザリヤからエルサレムに上ってきていた。

(2) 祭司長、パリサイ人たちから送られた役人たち

- ①ユダヤ人の下役たち
- ②いわば、神殿の治安を維持する警察官である(temple police)。

(3) ユダは手抜きなく行動した。

- ①満月であるが、「たいまつ」(ファノス)と「ともしび」(ランパス)を用意した。
- ②これは、2番目の律法違反である。日没後に刑事事件を扱ってはならない。
- ③彼らは、世の光である方を、たいまつとともしびを持って捜しに来た。

II. イエスの対応(4~9節)

1. 4 節

**Joh 18:4** **イエスは自分の身に起ころうとするすべてのことを知っておられたので、出て来て、「だれを捜すのか」と彼らに言われた。**

(1) イエスは、事態の進展を支配しておられた。

- ①ヨハ 13:1

**Joh 13:1** **さて、過越の祭りの前に、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時が来たこ**

とを知られたので、世にいる自分のものを愛されたイエスは、その愛を残るところなく示された。

②彼らに見つかる前に、自ら進んで姿を現された。

\*十字架の死は、自発的なものであることが分かる。

\*とはいえ、ユダやイエスを十字架に付けた人たちに罪がないわけではない。

③「だれを捜すのか」という質問は、ゲツセマネの園に来た目的を彼ら自身に言わせるためのものである。

## 2. 5～6節

Joh 18:5 彼らは、「ナザレ人イエスを」と答えた。イエスは彼らに「それはわたしです」と言われた。イエスを裏切ろうとしていたユダも彼らと一しょに立っていた。

Joh 18:6 イエスが彼らに、「それはわたしです」と言われたとき、彼らはあどざりし、そして地に倒れた。

(1) 「ナザレ人イエスを」

①彼らは、この方が創造主であり、救い主であることを知らずに、「ナザレ人イエス」を捜していた。

(2) 「それはわたしです」

①これは、イエスの神性宣言である。

②出3:14、ヨハ8:58

③「わたしである」(新共同訳)

④ユダもまた、その宣言を聞いていた。

(3) イエスの神性に触れた彼らは、あどざりして、地に倒れた。

①イエスはすべての状況を支配しておられる。

②イエスの了解がなければ、彼らはイエスを逮捕することができない。

## 3. 7～9節

Joh 18:7 そこで、イエスがもう一度、「だれを捜すのか」と問われると、彼らは「ナザレ人イエスを」と言った。

Joh 18:8 イエスは答えられた。「それはわたしだと、あなたがたに言ったでしょう。もしわたしを捜しているのなら、この人たちはこのままで去らせなさい。」

Joh 18:9 それは、「あなたがわたしに下された者のうち、ただのひとりをも失いませんでした」とイエスが言われたことばが実現するためであった。

(1) 2度目のやり取りがあった。

- ①彼らは、「わたしである」というイエスの宣言の意味と力を理解しなかった。
- ②2度目の「わたしである」は、「わたしがナザレのイエスである」という意味。
- ③イエスは、弟子たちを去らせよと要求した。

(2) これは、イエスの預言の成就である。

①ヨハ 17 : 12

Joh 17:12 わたしは彼らといっしょにいたとき、あなたがわたしに下さっている御名の中に彼らを保ち、また守りました。彼らのうちだれも滅びた者はなく、ただ滅びの子が滅びました。それは、聖書が成就するためです。

②良き羊飼いは、羊のために命を捨てる。

### Ⅲ. ペテロの対応 (10～12 節)

(1) ルカ 22 : 47～48

Luk 22:47 イエスがまだ話をしておられるとき、群衆がやって来た。十二弟子のひとりで、ユダという者が、先頭に立っていた。ユダはイエスに口づけしようとして、みもとに近づいた。

Luk 22:48 だが、イエスは彼に、「ユダ。口づけで、人の子を裏切ろうとするのか」と言われた。

- ①口づけは、生徒がラビに示す愛と尊敬の行為である。
- ②ユダは、イエスを特定する「しるし」として口づけを用いようとした。
- ③イエスは、ユダがしようとしていることを知っておられた。

#### 1. 10 節

Joh 18:10 シモン・ペテロは、剣を持っていたが、それを抜き、大祭司のしもべを撃ち、右の耳を切り落とした。そのしもべの名はマルコスであった。

(1) ペテロの軽率な行動

- ①彼は、暴力を使用してイエスを救おうとした。
- ②彼は漁師であるが、兵士ではない。
- ③二振りの剣のうちのひとつを使った (ルカ 22 : 38)。

(2) 大祭司のしもべ

- ①マルコスは、大祭司の代理である。
- ②大祭司は、過越の祭りの間、可能な限り汚れに触れることを避けていた。
- ③彼の右の耳が切り落された。
- ④理性的理解に基づかない宗教的熱心は、人を過ちに導く。



2. 11～12節

Joh 18:11 そこで、イエスはペテロに言われた。「剣をさやに収めなさい。父がわたしに下さった杯を、どうして飲まずにいられよう。」

Joh 18:12 そこで、一隊の兵士と千人隊長、それにユダヤ人から送られた役人たちは、イエスを捕らえて縛り、

(1) イエスの叱責

- ①イエスは、父から与えられた杯を飲もうとしている。
- ②それを剣で妨害することは許されない。
- ③これは、弟子たちへの預言的警告ともなっている。

(2) ルカ 22 : 51

Luk 22:51 するとイエスは、「やめなさい。それまで」と言われた。そして、耳にさわって彼をいやされた。

- ①敵に対するイエスの愛
- ②ペテロに対する守り

(3) マタ 26 : 52～53

Mat 26:52 そのとき、イエスは彼に言われた。「剣をもとに納めなさい。剣を取る者はみな剣で滅びます。

Mat 26:53 それとも、わたしが父にお願いして、十二軍団よりも多くの御使いを、今わたしの配下に置いていただくことができないとも思うのですか。

- ①個人や国としての自衛を否定しているのではない。
- ②霊的戦い(信仰を守る戦い)のために、武器を用いることはできない。
- ③その証拠に、イエスは天の軍勢を呼び寄せようとはしなかった。
- ④罪人がイエスを逮捕し、縛ったのはこれが初めてである。

(4) ルカ 22 : 52

Luk 22:52 そして押しかけて来た祭司長、宮の守衛長、長老たちに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってやって来たのですか。

- ①3番目の違反。
- ②裁判官やサンヘドリンのメンバーが、逮捕に関わってはならない。

(5) マコ 14 : 50～52

Mar 14:50 すると、みながイエスを見捨てて、逃げてしまった。

Mar 14:51 ある青年が、素はだに亜麻布を一枚まとったままで、イエスについて行ったとこ

ろ、人々は彼を捕らえようとした。

Mar 14:52 すると、彼は亜麻布を脱ぎ捨てて、はだかですげだ。

①この青年は、マルコであろう。

## 結論

### 1. イスカリオテのユダについて

(1) 1テモ6:9~10

1Ti 6:9 金持ちになりたがる人たちは、誘惑とわなと、また人を滅びと破滅に投げ入れる、愚かです、有害な多くの欲とに陥ります。

1Ti 6:10 金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは、金を追い求めたために、信仰から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました。

(2) ユダは特別な悪人ではなく、私たちのような普通の人であろう。

①彼は、食欲の奴隷となり、悪魔に利用された。

(例話) ハンナ・アーレント (1906~75年)

①ドイツ出身のユダヤ人でアメリカ合衆国に亡命した哲学者、思想家。

②全体主義を生み出す大衆社会の分析で有名。

③1963年にニューヨーカー誌に『イエルサレムのアイヒマン-悪の陳腐さについての報告』を発表し、大論争を巻き起こした。

④アイヒマンは極悪人でなく、極普通の小心者で取るに足らない役人に過ぎなかった。

⑤原爆を投下したアメリカが裁かれないことも批判している。

### 2. イエスの神性宣言について

(1) 聖書では、神の臨在に触れた者は、ひれ伏している(前に倒れる)。

(2) 近年、聖霊に打たれた人が後ろに倒れる現象が起こっている。

①英語で、「being slain in the spirit」という。

②このような現象を、聖書的にどう説明すべきか。

### 3. ユダヤ人指導者たちの混乱について

(1) 真夜中過ぎの逮捕から翌朝のピラトによる有罪宣言まで、大混乱が続く。

(2) ユダヤ人の指導者たちは、神の計画に沿ってではなく、自分たちの計画に沿って動こうとしているからである。

①当初の予定では、祭りが終わってからイエスを逮捕することになっていた。

②イエスは、過越の食事の席で、ユダを促した。

(3) 祝福の時も、試練の時も、神の計画に従って生き抜きたいものである。

「宗教裁判」

ヨハ 18 : 12~14、19~23

マタ 26 : 57、59~68

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ① イエスの裁判が始まる。
- ② ユダヤ的背景を考慮しないと、この裁判の進み方を理解することはできない。
  - \* イエスは、口伝律法を破ったという理由で有罪にされた。
  - \* しかし、ユダヤ人の指導者自身が 22 回口伝律法に違反する。
  - \* ミシュナの中の「the Sanhedrin Tractate」に記された口伝律法である。
- ③ 宗教裁判の 3 段階
  - \* アンナスの前で (予備審問)
  - \* カヤパの前で (夜明け前の私的な裁判)
  - \* サンヘドリンの前で (夜明け後の公式な裁判)
- ④ 政治裁判の 3 段階
  - \* ピラトの前で
  - \* ヘロデの前で
  - \* ピラトの前で
- ⑤ 今回は、宗教裁判の 1 と 2 の段階を見る。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 154 アンナスの審問を受けるイエス

ヨハ 18 : 12~14、19~23

§ 155 カヤパとサンヘドリンによって有罪宣言を受けるイエス

マタ 26 : 57、59~68

2. アウトライン

- (1) アンナスの審問を受けるイエス
- (2) カヤパとサンヘドリンによって有罪宣言を受けるイエス

3. 結論

- (1) 現代のユダヤ教のメシア観
- (2) イエスに対する 2 つの道の可能性

イエスの裁判から霊的教訓を学ぶ。

## I. アンナスの審問を受けるイエス (ヨハ 18 : 12~14、19~23)

### 1. 12~13 節

**Joh 18:12** そこで、一隊の兵士と千人隊長、それにユダヤ人から送られた役人たちは、イエスを捕らえて縛り、

**Joh 18:13** まずアンナスのところに連れて行った。彼がその年の大祭司カヤパのしゅうとだったからである。

(1) ここからアンナスによる予備審問が始まる (ヨハネにのみある情報)。

①アンナスはその年の大祭司カヤパのしゅうとである。

\*「その年」とあるのは、ローマが大祭司を任命していたことを示す。

\*大祭司職は終身職であるが、ローマは権力の集中を嫌った。

②アンナスは元大祭司である (およそ紀元7年~14年)。

\*そして、今も権勢を誇っていた。

\*ユダヤ人たちは、今もアンナスを大祭司と認めていた。

③アンナスが神殿の管理運営を独占していた。

\*5人の息子と義理の息子を通して祭司職を支配していた。

④パリサイ人は、神殿の中庭を「アンナスの息子たちのバザール」と呼んでいた。

(2) 4番目の違反

①朝のいけにえを捧げる前に裁判を行ってはならない。

②彼らは相当急いでおり、夜明け前に予備審問を開始した。

### 2. 14 節

**Joh 18:14** カヤパは、ひとりの人が民に代わって死ぬことが得策である、とユダヤ人に助言した人である。

(1) この予備審問は単なる形式である。

①イエスが有罪であることは、すでに決まっていた。

(2) ヨハ 11 : 49~50

**Joh 11:49** しかし、彼らのうちのひとりで、その年の大祭司であったカヤパが、彼らに言った。「あなたがたは全然何もわかっていない。」

**Joh 11:50** ひとりの人が民の代わりに死んで、国民全体が減びないほうが、あなたがたにとって得策だということも、考えに入れていない。」

①イエスがラザロを復活させたときに、この判決が出された。

(3) 5番目の違反

- ①裁判は非公開ではなく、すべて公開にしなければならない。

3. 19節

**Joh 18:19** そこで、大祭司はイエスに、弟子たちのこと、また、教えのことについて尋問した。

- (1) アンナスの意図は、イエスと弟子たちを有罪にすること。

- ①イエスは、質問に答えていない。  
②証人を準備することは裁く側の責任である。  
③イエスは、弟子たちを守ろうとしている。

4. 20～21節

**Joh 18:20** イエスは彼に答えられた。「わたしは世に向かって公然と話しました。わたしはユダヤ人がみな集まって来る会堂や宮で、いつも教えたのです。隠れて話したことは何もありません。

**Joh 18:21** なぜ、あなたはわたしに尋ねるのですか。わたしが人々に何を話したかは、わたしから聞いた人たちに尋ねなさい。彼らならわたしが話した事がらを知っています。」

- (1) イエスは、自分は公然と話してきたと答える。

- ①これは、非公開の裁判に対する皮肉である。  
②キリスト教には、カルト宗教のような秘儀はない。  
③イエスは、アンナスの術中に陥らず、逆に攻撃した。

5. 22～23節

**Joh 18:22** イエスがこう言われたとき、そばに立っていた役人のひとりが、「大祭司にそのような答え方をするのか」と言って、平手でイエスを打った。

**Joh 18:23** イエスは彼に答えられた。「もしわたしの言ったことが悪いなら、その悪い証拠を示しなさい。しかし、もし正しいなら、なぜ、わたしを打つのか。」

- (1) この夜、イエスが打たれるのはこれが最初である。

- (2) イエスは、裁判の進め方が違法であると反論した。

- ①予備審問では、イエスを有罪にする証拠を見つけることができなかった。

## II. カヤパとサンヘドリンによって有罪宣言を受けるイエス (マタ 26 : 57、59～68)

1. 57節

**Mat 26:57** イエスをつかまえた人たちは、イエスを大祭司カヤパのところへ連れて行った。

そこには、律法学者、長老たちが集まっていた。

(1) 大祭司カヤパ

- ①紀元25～36年に大祭司であった(イエスを裁いたのは、その中間の年)。
- ②彼は、サンヘドリンを導き、イエスを有罪にするために積極的に動いた。
- ③夜明け前に、カヤパの官邸にサンヘドリンが招集された。

(2) 6番目の違反

- ①サンヘドリンによる裁判は、神殿の中の「the Hall of Judgment」で行う。

(3) サンヘドリンの構成員

- \*24人が祭司長(サドカイ派)
- \*24人が長老(パリサイ派)
- \*22人が律法学者(パリサイ派)
- \*1人が大祭司(サドカイ派)

- ①裁判を行うためには、最低23人の議員の出席が必要。

- \*無罪判決のためには、11人の賛成があればよい。
- \*有罪判決のためには、13人の賛成があればよい。

- ②ニコデモとアリマタヤのヨセフは召集されていない。

- \*最大69人の出席の可能性はあるが、それ以下の人数かもしれない。

2. 59～61節

Mat 26:59 さて、祭司長たちと全議会は、イエスを死刑にするために、イエスを訴える偽証を求めている。

Mat 26:60 偽証者がたくさん出て来たが、証拠はつかめなかった。しかし、最後にふたりの者が進み出て、

Mat 26:61 言った。「この人は、『わたしは神の神殿をこわして、それを三日のうちに建て直せる』と言いました。」

- (1) サンヘドリンは、イエスを死刑にするために、偽証を求めている。

- ①最初から、有罪が決まっていた。
- ②ユダが姿を隠したので、混乱が始まった。

(2) 7番目の違反

- ①ユダヤの裁判では、先ず弁護があり、次に告訴が始まる。

(3) 8番目の違反

①無罪判決は全会一致でもよいが、有罪判決は全会一致では無効である。

②マコ 14 : 55

Mar 14:55 さて、祭司長たちと全議会は、イエスを死刑にするために、イエスを訴える証拠をつかもうと努めたが、何も見つからなかった。

(4) 彼らは、この時点では裁判の準備ができていない。

①証言が一致する2人の証人が出てこない。

②最後にふたりの者が証言したが、両者の証言内容は微妙に食い違っている。

③マコ 14 : 58

Mar 14:58 「私たちは、この人が『わたしは手で造られたこの神殿をこわして、三日のうちに、手で造られない別の神殿を造ってみせる』と言うのを聞きました。」

④マタ 26 : 61

Mat 26:61 「この人は、『わたしは神の神殿をこわして、それを三日のうちに建て直せる』と言いました。」

(5) 9番目の違反

①2人ないし3人の証人の証言は、細部に至るまで一致していなければならない  
(申 19 : 15 の規定)

(6) 神殿破壊を取り上げている理由

①ローマ法によれば、神殿に危害を与える罪は死刑に当たる。

②サンヘドリンは、ローマ法廷での裁きを見越している。

### 3. 62～63 節

Mat 26:62 そこで、大祭司は立ち上がってイエスに言った。「何も答えないのですか。この人たちが、あなたに不利な証言をしています。これはどうなのですか。」

Mat 26:63 しかし、イエスは黙っておられた。それで、大祭司はイエスに言った。「私は、生ける神によって、あなたに命じます。あなたは神の子キリストなのか、どうか。その答えを言いなさい。」

(1) 10番目の違反

①被告に、自らに不利な証言を迫ってはならない。

### 4. 64～66 節

Mat 26:64 イエスは彼に言われた。「あなたの言うとおりに。なお、あなたがたに言っていますが、今からのち、人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あな

たがたは見ることとなります。」

Mat 26:65 すると、大祭司は、自分の衣を引き裂いて言った。「神への冒瀆だ。これでもまだ、証人が必要でしょうか。あなたがたは、今、神をけがすことばを聞いたのです。」

Mat 26:66 どう考えますか。」彼らは答えて、「彼は死刑に当たる」と言った。

(1) マコ 14 : 62

Mar 14:62 そこでイエスは言われた。「わたしは、それです。人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見るはずです。」

①「I am.」は、イエスの神性宣言である。

②その上に、預言の言葉が加わった。

\*父なる神の右の座に着く。

\*シャカイナグローリーとともに戻って来る。

(2) 11 番目の違反

①レビ 21 : 10 に基づき、大祭司は衣を引き裂くことを禁じられる。

(3) 12 番目の違反

①裁判官は訴えがあった事件に関して審議するだけで、自ら訴えを起こしてはならない。

②カヤパは、新しい訴因を導入している。冒瀆罪がそれである。

(4) 13 番目の違反

①冒瀆罪は、神の御名(ヤハウエ)を口にした時にのみ成立する。

②この裁判では、イエスは神の御名を口にしていない。

(5) 14 番目の違反

①被告は、自白証拠だけで有罪とされることはない。

(6) 15 番目の違反

①有罪宣言を夜間に出してはならない。それをするのは、昼間だけである。

(7) 16 番目の違反

①死刑判決の場合、裁判と有罪判決の間に24時間以上の隔たりを設ける必要がある。

(8) 17 番目の違反



- ①死刑の場合、若い者から順に投票し、年長者の意見に左右されないようにする。
- ②ここでは、発声投票になっている。

(9) 18番目の違反

- ①全会一致の有罪宣言は無効である。なぜなら、23～71人の議員が、事前謀議なしに全会一致に至ることは不可能だからである。

(10) 19番目の違反

- ①有罪判決は、有罪が決まってから3日経たないと行うことができない。

5. 67～68節

Mat 26:67 そうして、彼らはイエスの顔につばきをかけ、こぶしでなぐりつけ、また、他の者たちは、イエスを平手で打って、

Mat 26:68 こう言った。「当ててみる。キリスト。あなたを打ったのはだれか。」

- (1) これは、イエスがこの夜に受けた2番目の侮辱である。
- (2) 20番目の違反
  - ①裁判官は、人道的で親切でなければならない。
- (3) 21番目の違反
  - ①死刑判決を受けた者を、刑の執行前に、鞭で打ったり叩いたりしてはならない。
  - ②叩くと、4デナリの罰金
  - ③平手打ちは、200デナリの罰金。
  - ④顔につばきすることは、400デナリの罰金。
- (4) 22番目の違反
  - ①安息日の夜や祭りの日に、裁判を行ってはならない。

## 結論

### 1. 現代のユダヤ教のメシア観

(1) 現代のユダヤ教では、「メシアが神だという期待は存在していなかった」という議論がある。

- ①メシアはダビデの子である。
- ②メシアは人である。

(2) メシアニック・ジューの中にも、イエスの神性を認めない人もいる。

- ①メシアニック・ジューの神学は未だに混乱状態にある。
- (3) しかし、カヤパは、2つのことを明確に理解していた。
  - ①イエスは、自らがメシアだと宣言した。
  - ②メシアは神の子である。
- (4) イエス時代の大祭司は、聖書的メシア理解を持っていた。

## 2. イエスに対する2つの道の可能性

### (1) マタ 26 : 63

Mat 26:63 しかし、イエスは黙っておられた。それで、大祭司はイエスに言った。「私は、生ける神によって、あなたに命じます。あなたは神の子キリストなのか、どうか。その答えを言いなさい。」

- ①カヤパは、神の御名によってイエスに証言を迫っている。
- ②ユダヤ的には、これは相手を宣誓の下に置くことである。
- ③ユダヤ法では、宣誓の下に置かれた者は真実に答えなければならない。

### (2) マタ 26 : 64

Mat 26:64 イエスは彼に言われた。「あなたの言うとおりに。なお、あなたがたに言っておきますが、今からのち、人の子が、力ある方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見るようになります。」

### (3) 2つの道の可能性

- ①イエスをメシア、神の子として信じる道
  - ②イエスは神を冒瀆している者として拒否する道
- (4) サンヘドリンは、後者を選んだ。

### (5) マタ 26 : 67~68

Mat 26:67 そうして、彼らはイエスの顔につばきをかけ、こぶしでなぐりつけ、また、他の者たちは、イエスを平手で打って、

Mat 26:68 こう言った。「当ててみる。キリスト。あなたを打ったのはだれか。」

### (6) 1ペテ 2 : 23~25

1Pe 2:23 ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどすことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。

1Pe 2:24 そして自分から十字架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いやされたのです。

1Pe 2:25 あなたがたは、羊のようにさまよっていましたが、今は、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰ったのです。

「ペテロの失敗」

マタ 26 : 58、69～75

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ① イエスの裁判が始まる。
- ② 宗教裁判の3段階
  - \* アンナスの前で (予備審問)
  - \* カヤパの前で (夜明け前の私的な裁判)
  - \* サンヘドリンの前で (夜明け後の公式な裁判)
- ③ 政治裁判の3段階
  - \* ピラトの前で
  - \* ヘロデの前で
  - \* ピラトの前で
- ④ ペテロの失敗は、宗教裁判の第2段階と並行して起こった出来事である。
- ⑤ 今回は、ペテロの失敗を見る。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 156 ペテロは3度イエスを知らないと言う。

マタ 26 : 58、69～75

2. アウトライン

- (1) 舞台設定 (58 節)
- (2) 最初の拒否 (69～70 節)
- (3) 2 番目の拒否 (71～72 節)
- (4) 3 番目の拒否 (73～75 節)

3. 結論

- (1) 失敗の3つの段階
- (2) 神の守り

ペテロの失敗から霊的教訓を学ぶ。

I. 舞台設定 (58 節)

1. マタ 26 : 58

Mat 26:58 しかし、ペテロも遠くからイエスのあとをつけながら、大祭司の中庭まで入って

行き、成り行きを見ようと役人たちと一しょにすわった。

- (1) 宗教裁判の第2段階が進行中に、ペテロは大祭司の中庭まで入って行った。
  - ①イエスが逮捕されて後、弟子たちは散らされていた。
  - ②ペテロは、結末がどうなるか気がかりで、遠くからイエスの後を付けて行った。
  - ③そして、大祭司の中庭で役人(神殿警察官)たちと一しょに座った。
    - \*ペテロは裁判の結果を待っている。
  - ④ペテロは勇敢であるが、その勇敢さは不十分である。

2. ヨハネ 18:15~16

Joh 18:15 シモン・ペテロともうひとりの弟子は、イエスについて行った。この弟子は大祭司の知り合いで、イエスと一しょに大祭司の中庭に入った。

Joh 18:16 しかし、ペテロは外で門のところ立っていた。それで、大祭司の知り合いである、もうひとりの弟子が出て来て、門番の女に話して、ペテロを連れて入った。

- (1) ヨハネは、大祭司の知り合いであった。
  - ①彼は、大祭司の中庭まで入れた。
    - \*「アウレイ」(中庭)は、官邸そのものを意味することもある。
    - \*アンナスは、カヤパの官邸に自分の部屋を持っていた。
  - ②ペテロは、外の門のところ立っていた。
  - ③ヨハネが門番の女に話して、ペテロを中に導いた。
- (2) これで、ペテロを試すための舞台装置が整った。
  - ①イエスが裁かれている間に、ペテロは試みを受けた。
  - ②彼には、イエスを弁護するための機会が3回与えられる。

## II. 最初の拒否(69~70節)

1. 69節

Mat 26:69 ペテロが外の中庭にすわっていると、女中のひとりが来て言った。「あなたも、ガリラヤ人イエスと一しょにいましたね。」

- (1) 最初のテスト
  - ①女中のひとりがペテロに気づき、イエスの弟子ではないかと迫った。
  - ②女中とは、女奴隷(しもめ)のことである。

2. 70節

Mat 26:70 しかし、ペテロはみなの前でそれを打ち消して、「何を言っているのか、私にはわからない」と言った。

(1) ペテロの応答

- ①彼は、即座に応答した。
- ②彼は、自分がイエスの知り合いであることを否定した。
- ③これは、単純な否定である。

(2) マコ 14:30

Mar 14:30 イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたは、きょう、今夜、鶏が二度鳴く前に、わたしを知らないと言います。」

- ①最初の拒否は、一番鶏の時刻(午前0時)に起こったと考えられる。

### Ⅲ. 2番目の拒否(71~72節)

1. 71節

Mat 26:71 そして、ペテロが入口まで出て行くと、ほかの女中が、彼を見て、そこにいる人々に言った。「この人はナザレ人イエスといっしょでした。」

(1) 第2のテスト

- ①ペテロは、入口まで移動した。さらなる追及を逃れるためであろう。
- ②別の女中が、ペテロを見て、周りの人々に告げた。
- ③「この人はナザレ人イエスといっしょでした」

2. 72節

Mat 26:72 それで、ペテロは、またもそれを打ち消し、誓って、「そんな人は知らない」と言った。

(1) ペテロは、誓いをもってそれを打ち消した。

- ①嘘をついていないということを強調した。
  - \*もし嘘なら、神が私を打って死をもたらされますように。
  - \*誓うことは、ほめられたことではない。
- ②「そんな人は知らない」
- ③「I don't know the man.」
- ④「断じて、そんな男は知るもんか」(リビングバイブル)
- ⑤ペテロは、主であるイエスを「そんな男」と呼んだ。

### Ⅳ. 3番目の拒否(73~75節)

1. 73節

Mat 26:73 しばらくすると、そのあたりに立っている人々がペテロに近寄って来て、「確かに、あなたもあの仲間だ。ことばのなまりではっきりわかる」と言った。

(1) 第3のテスト

- ① そのあたりに立っている人々がペテロに迫った。
- ② 「確かに、あなたもあの仲間だ。ことばのなまりではっきりわかる」  
\* ガリラヤ人の言葉は、母音が不明瞭であった。  
\* また、喉音の発音もあいまいであった。
- ③ ユダヤ人(ユダの住民)は、ガリラヤ人を軽蔑していた。

(2) ルカ 22 : 59

Luk 22:59 それから一時間ほどたつと、また別の男が、「確かにこの人も彼といっしょだった。この人もガリラヤ人だから」と言い張った。

- ① 第3のテストは、およそ1時間後にやって来た。
- ② ひとりの男が、中心的な役割を担い、ペテロを追求した。

2. 74 節

Mat 26:74 すると彼は、「そんな人は知らない」と言って、のろいをかけて誓い始めた。するとすぐに、鶏が鳴いた。

(1) ペテロの応答

- ① 「『そんな人は知らない』と言って、のろいをかけて誓い始めた」
- ② 「Then began he to curse and to swear, …」(KJV)
- ③ 「のろう」(καταναθεματιζω)は、目的語を必要とする動詞。
- ④ ペテロは、イエスを呪ったのである。
- ⑤ そして、誓ったのである。
- ⑥ すぐに、鶏が鳴いた。

\* 2 番鶏の時刻(午前3時)

3. 75 節

Mat 26:75 そこでペテロは、「鶏が鳴く前に三度、あなたは、わたしを知らないと言います」とイエスの言われたあのことばを思い出した。そうして、彼は出て行って、激しく泣いた。

(1) ペテロは、イエスの預言のことばを思い出した。

- ① イエスと目が会った。
- ② 彼はカヤパの官邸を出て、激しく泣いた。
- ③ これは、悔い改めの嘆きである。

## 結論

### 1. 失敗の3つの段階

(1) 聖書の信頼性

①初代教会の指導者の失敗を、赤裸々に記録している。

②旧新約を通して、同じ事例が見られる。

\*アダム

\*ノア

\*アブラハム

\*モーセ

\*ダビデ

\*ソロモン

(2) 最初の拒否

①ペテロは混乱しており、自分に関心が向かないように、話題をそらそうとした。

②これは、単純な拒否である。

(3) 2番目の拒否

①「誓い」を用いて、イエスを知らないと主張した。

②イエスを「そんな男」と呼んだ。

(4) 3番目の拒否

①イエスを呪った。

②「そんな男は知らない」と誓った。

(5) なぜそうなったのか。

①マタ 26 : 35

Mat 26:35 ペテロは言った。「たとい、ごいっしょに死ななければならぬとしても、私は、あなたを知らないなどとは決して申しません。」弟子たちはみなそう言った。

②数時間前まで、600人を前に剣を抜いてイエスを守ろうとしていた。

③ペテロは、自分の弱さについての認識がなかった。

④最初の小さな妥協が、大きな失敗につながる。

2. 神の守り

(1) ペテロは、私たちのためのリトマス試験紙である。

①つまり、神が罪人をどのように回復されるかを示す事例である。

(2) ルカ 22 : 61~62

Luk 22:61 主が振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、「きょう、鶏が鳴くまでに、あなたは、三度わたしを知らないと言う」と言われた主のおことばを思い出した。

Luk 22:62 彼は、外に出て、激しく泣いた。

- ①宗教裁判の第2段階が終了したのであろう。
- ②引かれて行くイエスは、ペテロをご覧になった。
- ③目と目が会った。
- ④それは、怒りの目ではなく、優しい目であった。
- ⑤ペテロは、外に出て、激しく泣いた。
- ⑥これは、悔い改めの嘆きであり、涙である。
- ⑦悔い改めは、真の信仰者のしるしである。

### (3) ルカ 22 : 31~32

Luk 22:31 シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って聞き届けられました。

Luk 22:32 しかし、わたしは、あなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」

### (4) ガリラヤ湖畔でのペテロの回復

### (5) 1ペテ 1 : 5 (リビングバイブル)

1Pe 1:5 神様は超自然的な力によって、あなたがたが、まちがいなく天で永遠のいのちをいただけるよう、守ってくださいます。あなたがたが、神様を信じているからです。やがて来る終わりの日に、この永遠のいのちは、あなたがたのものとして、だれの目にも、はっきり示されるでしょう。

- ①ペテロは、自分の立ち直りは、神の守りによると確信していた。



「夜明け後の裁判、ユダの死」  
ルカ 22 : 66~71、マタ 27 : 3~10

1. はじめに

(1) 文脈の確認

①宗教裁判の3段階

- \*アンナスの前で(予備審問)
- \*カヤパの前で(夜明け前の私的な裁判)
- \*サンヘドリンの前で(夜明け後の公式な裁判)

②政治裁判の3段階

- \*ピラトの前で
- \*ヘロデの前で
- \*ピラトの前で

③ペテロの失敗は、宗教裁判の第2段階と並行して起こった出来事である。

④今回は、宗教裁判の第3段階とユダの死について学ぶ。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 157 夜明け後にイエスは公式に有罪宣言を受ける。

§ 158 ユダは後悔し、自殺する。

2. アウトライン

(1) 夜明け後の裁判(ルカ 22 : 66~71)

(2) ユダの自殺(マタ 27 : 3~10)

3. 結論 : 3つの矛盾

(1) 矛盾①

(2) 矛盾②

(3) 矛盾③

(4) ペテロとユダの違い

ユダの死の意味について考える。

I. 夜明け後の裁判(ルカ 22 : 66~71)

1. 66~67a 節

Luk 22:66 夜が明けると、民の長老会、それに祭司長、律法学者たちが、集まった。彼らはイエスを議会に連れ出し、

Luk 22:67a こう言った。「あなたがキリストなら、そうだといいなさい。」

- (1) 宗教裁判の第3段階が始まる。
  - ①夜が明けてからの公式な裁判である。
  - ②「民の長老会、それに祭司長、律法学者たち」とは、サンヘドリンのこと。  
\*当時の最高裁判所である。
  - ③マタイ、マルコ、ルカは、すべて「夜が明けた」ことを記している。  
\*夜が明けてからの裁判は、形式的な正当性を与えるためのものである。
- (2) 彼らは、「あなたがキリストなら、そうだといいなさい」と迫った。
  - ①信仰による質問ではなく、有罪証拠を得るための質問である。
  - ②彼らは、訴因をひとつに絞っている。

## 2. 67b～69節

Luk 22:67b しかしイエスは言われた。「わたしが言っても、あなたがたは決して信じないでしょうし、

Luk 22:68 わたしが尋ねても、あなたがたは決して答えないでしょう。

Luk 22:69 しかし今から後、人の子は、神の大能の右の座に着きます。」

- (1) イエスの回答
  - ①自分がそうだといいても、信仰による応答は決してないだろう。
  - ②自分がメシアであることを信じるかと尋ねても、答えは返ってこないだろう。  
\*イエスにはそう尋ねる権威がある。神だから。
  - ③彼らに信仰はなかったが、イエスのご自身を啓示された。  
\*人の子は、全能の神の右に座る。  
\*これは、十字架の死、復活、昇天後に与えられる栄光ある地位である。

## 3. 70～71節

Luk 22:70 彼らはみなで言った。「ではあなたは神の子ですか。」すると、イエスは彼らに「あなたがたの言うとおりに、わたしはそれです」と言われた。

Luk 22:71 すると彼らは「これでもまだ証人が必要でしょうか。私たち自身が彼の口から直接それを聞いたのだから」と言った。

- (1) これは、ギリシア語のイデオム(慣用句)である。
  - ①「ではあなたは神の子ですか」(Are you the Son of God, then?)
  - ②「あなたがたの言うとおりに、わたしはそれです」(Ye say that I am.)
  - ③相手の質問内容をすべて受け入れるときの、ギリシア語のイデオムである。
  - ④そこには強調の意味がある。「全くその通り。わたしが神の子だ」

(2) 判決が出た。

- ①直接証言を聞いたので、証人は不要である。
- ②自らと神と等しいと主張したのは、冒瀆罪である。
- ③これで、宗教裁判における有罪宣言が下った。

(3) まだ問題があった。

- ①死刑の執行権が、ローマによって剥奪されていた。これは神の計画である。
  - \*ユダヤ人が死刑を執行する場合は、石打の刑である。
  - \*ローマが死刑を執行する場合は、十字架刑である。
  - \*旧約聖書の預言とイエスのことばに基づけば、十字架刑以外にない。
- ②次のステップは、ローマによる政治裁判で有罪を勝ち取ること。
  - \*しかし、冒瀆罪はローマの裁判では死刑にならない。
  - \*今度は、イエスがローマにとって危険であることを証明する必要がある。
  - \*神殿を破壊すると言ったことが、その証拠となる。
- ③しかし、ローマの法廷で証人となる予定のユダが消えた。
  - \*ユダは、イエスを逮捕するための先導役を果たした。
  - \*ユダは、ポンテオ・ピラトの前で証言し、一隊の兵士の派遣が許可された。
  - \*しかしユダは、ローマによる裁判の証人にはならなかった。

## II. ユダの自殺 (マタ 27 : 3~10)

### 1. 3~4節

**Mat 27:3** そのとき、イエスを売ったユダは、イエスが罪に定められたのを知って後悔し、銀貨三十枚を、祭司長、長老たちに返して、

**Mat 27:4** 「私は罪を犯した。罪のない人の血を売ったりして」と言った。しかし、彼らは、「私たちの知ったことか。自分で始末することだ」と言った。

(1) 「そのとき」

- ①宗教裁判で有罪が決まり、イエスがピラトのもとに連行される時である。
- ②サンヘドリンの議員の多くが、神殿に戻って政治裁判の結果を待っている。
- ③ユダは、ユダヤ人たちがそこまで過激にことを進めるとは思っていなかった。
- ④ユダは、自分の行為を後悔した。

(2) 「銀貨三十枚を、祭司長、長老たちに返して、」

- ①良心の痛みを覚えたことだけで救われるわけではない。

②良心の痛みは、ユダを銀貨30枚の返却へと導いただけである。

(3) 「私たちの知ったことか。自分で始末することだ」

①自分の罪責感、自分で始末せよということ。

\* 「What is that to us?」

\* 彼らは、祭司としての使命を放棄した。

②悪の手は真の手ではない。次の瞬間に崩壊する。

③自分の行為は取り返しがつかない。よく考えて行動すること。

## 2. 5～6節

Mat 27:5 それで、彼は銀貨を神殿に投げ込んで立ち去った。そして、外に出て行って、首をつった。

Mat 27:6 祭司長たちは銀貨を取って、「これを神殿の金庫に入れるのはよくない。血の代価だから」と言った。

(1) ユダの行動

①銀貨を神殿(ナオス)に投げ込んだ。

\* 祭司しか入れない聖所の中に投げ込んだ。

\* 銀貨30枚を持ち続けることは、罪責感を思い出させる。

②外に出て行って、首をつって死んだ。

③マタ 27:5 (口語訳)

Mat 27:5 そこで、彼は銀貨を聖所に投げ込んで出て行き、首をつって死んだ。

(2) 祭司長たちの行動

①彼らは、その銀貨30枚を神殿の金庫に入れることを躊躇した。

②それは「血の代価」である。人の死をもたらすために支払った金である。

③最初に神殿の金庫からそれを払った時には、なんの疑問も感じなかった。

④彼らは、「外側は清めるが、内側は汚れで一杯」である。

## 3. 7～10節

Mat 27:7 彼らは相談して、その金で陶器師の畑を買い、旅人たちの墓地にした。

Mat 27:8 それで、その畑は、今でも血の畑と呼ばれている。

Mat 27:9 そのとき、預言者エレミヤを通して言われた事が成就した。「彼らは銀貨三十枚を取った。イスラエルの人々に値積もりされた人の値段である。

Mat 27:10 彼らは、主が私にお命じになったように、その金を払って、陶器師の畑を買った。」

(1) 彼らはその金で陶器師の畑を買った。

- ①異邦人の旅人たち(無名の人たち)の墓地にするため。
  - ②そこは「陶器師の畑」と呼ばれていた。粘土を採取する畑。
  - ③そこは、「血の畑」(アケルダマ)と呼ばれるようになった。
- (2) そのことは、エレミヤの預言の成就である。
- ①詳細は、結論で取り上げる。

## 結論

### 1. 矛盾①: ユダの死に関する記録

- (1) ユダは首をつって死んだ。
- (2) 使徒の働き 1:18

Act 1:18 ところがこの男は、不正なことをして得た報酬で地所を手に入れたが、まさかさまに落ち、からだは真っ二つに裂け、はらわたが全部飛び出してしまった。

#### (3) 解決法

- ①ユダは首をつって死んだ。
- ②過越の祭りの間、死体が城壁の内側にあってはならない。町が汚れる。
- ③前夜に過越の食事は終わっている。
- ④午前9時に過越の小羊がほふられ、24人の祭司長と大祭司がそれを食する。
- ⑤ユダヤ人の習慣では、埋葬の時間がない遺体は、城壁からベン・ヒノムの谷に投げ捨てられた。
- ⑥激しく岩に打ち付けられるので、内臓が飛び出た。
- ⑦過越の祭りが終わると、埋葬人夫たちがやって来て、遺体を埋葬した。

### 2. 矛盾②: 土地の購入に関する記録

- (1) マタ 27:7

Mat 27:7 彼らは相談して、その金で陶器師の畑を買い、旅人たちの墓地にした。

- (2) 使 1:18

Act 1:18 ところがこの男は、不正なことをして得た報酬で地所を手に入れたが、まさかさまに落ち、からだは真っ二つに裂け、はらわたが全部飛び出してしまった。

#### (3) 解決法

- ①この土地の法律上の所有者は、ユダである。
- ②ユダの名義でこの土地を購入したのは、祭司長たちである。

### 3. 矛盾③: エレミヤの預言が成就したという記録

(1) マタ 27:9~10

Mat 27:9 そのとき、預言者エレミヤを通して言われた事が成就した。「彼らは銀貨三十枚を取った。イスラエルの人々に値積もりされた人の値段である。

Mat 27:10 彼らは、主が私にお命じになったように、その金を払って、陶器師の畑を買った。」

(2) しかし、マタイが引用しているのは、エレミヤ書ではなくゼカリヤ書である。

(3) ゼカ 11:13

Zec 11:13 【主】は私に仰せられた。「彼らによってわたしが値積もりされた尊い価を、陶器師に投げ与えよ。」そこで、私は銀三十を取り、それを【主】の宮の陶器師に投げ与えた。

(4) エレミヤ書 19 章は、「陶片の門を出たところにある、ベン・ヒノムの谷」について

て預言している。

(5) 解決法:

- ①旧約時代、イスラエルの民はこの谷で息子たちを焼いてモレクの神に捧げた。
- ②ベン・ヒノムの谷は、新約時代には「ゲヘナ」と呼ばれるようになった。
- ③その罪に対する神の怒りが下った(紀元70年)。
- ④ヨセフスは、その様子を記録している。
- ⑤かくして、エレミヤ書 19 章の預言が成就した。
- ⑥マタイはエレミヤ書とゼカリヤ書を合体させ、より大きな視点を提供している。

#### 4. ペテロとユダの違い

(1) 「後悔し」

①ギリシア語では、「メタメロマイ」である。

\*罪責感に満たされ、自分の行為を後悔している状態である。

②似たような動詞に、「メタノエオウ」がある(名詞は「メタノイア」)。

\*悔い改め、同意などの意味がある。救いに関係した動詞はこれである。

③ユダは救われたとは言えない。

④救われるためには、イエスの死が自分の罪のためであると信頼する必要がある。

(2) ユダには、ペテロのような悔い改めと罪の赦しを信じる信仰はなかった。

①ペテロは、イエスと目が会ったときに、外に出て泣いた。悔い改めの涙。

②ユダは、イエスが有罪になり引かれて行くときに、イエスではなく、祭司長たちに語りかけた。

③もしユダがイエスに赦しを求めていたなら、彼は赦された。

「ピラトによる裁判」

ヨハ 18 : 28~38

1. はじめに

(1) 文脈の確認

①宗教裁判の3段階

②政治裁判の3段階

\*ピラトの前で

\*ヘロデの前で

\*ピラトの前で

③ローマ法による裁判

\*すべての裁判は公開で行われる。

\*証人の訴えがあつて初めて裁判が始まる。

・イスカリオテのユダがその役割を果たす予定であつた。

・彼は姿を消したので、裁判が大混乱に陥る。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 159 ピラトの前での裁判

ヨハ 18 : 28~38

マコ 15 : 1~5、マタ 27 : 2、11~14、ルカ 23 : 1~5

2. アウトライン

(1) 舞台設定 (28 節)

(2) ピラトとユダヤ人の指導者たち (29~32 節)

(3) ピラトとイエス (33~37 節)

(4) ピラトが出した結論 (38 節)

3. 結論

(1) イエスのことばの成就

(2) ピラトの悲劇

ピラトによる裁判の意味について考える。

I. 舞台設定 (28 節)

1. 28 節

Joh 18:28 さて、彼らはイエスを、カヤパのところから総督官邸に連れて行った。時は明け

方であった。彼らは、過越の食事が食べられなくなることをないように、汚れを受けまいとして、官邸に入らなかった。

(1) 政治裁判が必要だった理由

- ①ユダヤ人が死刑を執行する権利は、数か月前に取り去られていた。
- ②彼らは、イエスに対して冒とく罪で死刑判決を下していた。
- ③しかし、ローマによる死刑判決がなければイエスを殺すことはできない。
- ④そこで、訴因を冒瀆罪から反逆罪に変えて、イエスをローマ法廷に訴えている。

(2) ポンテオ・ピラトについて

- ①ローマ市民(スペインかイタリア生まれ)
- ②紀元26~36年にユダヤ総督であった(procurator:ローマ帝国の代官)。
- ③この裁判は紀元30年に行われた。総督としての経歴のちょうど中間時点。
- ④残忍な人物として知られていたが、ローマ法の忠実な執行者でもあった。
- ⑤前夜、イエスを逮捕するために一隊の兵士(400~600人)を派遣していた。
- ⑥早朝ではあるが、早く起きて衣服を整え、裁判の準備をしていた。
  - \*祭司たち(貴族階級)がローマのために実質的にユダヤを管理していた。
  - \*ピラトは、彼らの要請を無視することができない。

(3) 総督官邸

- ①アントニア要塞の中にある。
- ②ユダヤ総督は、通常カイザリヤに駐在している。
- ③祭りの期間は、エルサレムに駐在し、万が一の暴動に備えていた。
- ④過越の祭りの期間、ユダヤ人たちは特に興奮状態に陥りやすかった。
  - \*この祭りは、エジプトでの奴隷状態からの解放を祝うものである。

(4) ピラトのもとに来たのは、祭司長たちが中心である。

- ①前夜、過越の食事は終わっていた。
- ②祭司長たちが食する過越の食事は、朝になってから用意される。
- ③午前9時に、過越の子羊がほふられる。
- ④実際は、種なしパンの祭り(7日間。レビ23:5)の初日が始まっている。
- ⑤イエス時代には、過越の祭りと種なしパンの祭りの合計8日間を、過越の祭りと呼んだ。
- ⑥異邦人の家に入ることは、儀式的汚れを意味する。
- ⑦祭司長たちは、この裁判が終わってから過越の食事をしようとしていた。
  - \*イエスを殺そうとしている点については、良心の呵責を覚えていない。



\*しかし、儀式的な汚れに関しては細心の注意を払っている。

## II. ピラトとユダヤ人の指導者たち (29～32 節)

### 1. 29～30 節

Joh 18:29 そこで、ピラトは彼らのところに出て来て言った。「あなたがたは、この人に対して何を告発するのですか。」

Joh 18:30 彼らはピラトに答えた。「もしこの人が悪いことをしていなかったら、私たちはこの人をあなたに引き渡しはしなかったでしょう。」

(1) ピラトが彼らのところに出て来た。

- ①ユダヤ人の指導者たちは、建物の中(法廷)には入らなかった。
- ②中庭には入ったので、ピラトがそこに出て来て、彼らと対面した。
- ③ピラトは、ユダヤ人たちの宗教感情に妥協した。

(2) ピラトの質問

- ①ピラトは、ローマ法に従って、先ず告発の理由を尋ねる。
- ②この段階で、ユダが前に出て証言する予定であった。
- ③しかし、彼はすでに死んでいた。

(3) 祭司長たちの回答

- ①ごまかしの訴えがなされる。
- ②自分たちの裁判は終わっている。
- ③後は、あなたがそれを承認してくればいいのだ、という態度。
- ④ユダヤ人たちは、残忍な性質のゆえにピラトを憎んでいた。

### 2. 31～32 節

Joh 18:31 そこでピラトは彼らに言った。「あなたがたがこの人を引き取り、自分たちの律法に従ってさばきなさい。」ユダヤ人たちは彼に言った。「私たちには、だれを死刑にすることも許されてはいません。」

Joh 18:32 これは、ご自分がどのような死に方をされるのかを示して話されたイエスのことばが成就するためであった。

(1) ピラトの応答

- ①ピラトはただちに、イエスが宗教的な理由で裁かれていることを見抜いた。
- ②彼は、イエスの勝利の入城を知っていた(見ていた)はずである。
- ③彼は、ユダヤ人たちが妬みのゆえにイエスを訴えていることを見抜いた。
- ④ユダヤ人の宗教に関することは、ユダヤ人の法廷で裁くべきである。

\*これがローマ帝国内で広く行われていた習慣である。

(2) ユダヤ人たちの反論

- ①「私たちには、だれを死刑にすることも許されてはいません」
- ②ユダヤ人から死刑執行の権利が奪われていた。
- ③ユダヤ人たちは、イエスの死刑をピラトに要求している。

(3) イエスのことばの成就

- ①結論で詳細に取り上げる。

(4) ルカ 23:2 (3つの訴え)

Luk 23:2 そしてイエスについて訴え始めた。彼らは言った。「この人はわが国民を惑わし、カイザルに税金を納めることを禁じ、自分は王キリストだと言っていることがわかりました。」

- ①独特な教えによって、ユダヤの民を惑わしている。
- ②カイザルに税金を納めることを禁じている。

\*これは偽りに訴えである。イエスはそれとは逆のことを教えていた。

- ③自分は王でありキリストだと言っている。

\*カイザルを排除し、イスラエルを統治しようとしている。

### Ⅲ. ピラトとイエス (33～37 節)

#### 1. 33～35 節

Joh 18:33 そこで、ピラトはもう一度官邸に入って、イエスを呼んで言った。「あなたは、ユダヤ人の王ですか。」

Joh 18:34 イエスは答えられた。「あなたは、自分でそのことを言っているのですか。それともほかの人が、あなたにわたしのことを話したのですか。」

Joh 18:35 ピラトは答えた。「私はユダヤ人ではないでしょう。あなたの同国人と祭司長たちが、あなたを私に引き渡したのです。あなたは何をしたのですか。」

(1) ピラトは建物の中に入り、イエスを個人的に尋問する。

- ①彼は、第3番目の訴えを採用し、イエスの尋問を開始した。
- ②「あなたは、ユダヤ人の王ですか」
- ③これは、あなたはカイザルのライバルなのかという問いかけである。

(2) イエスは、ラビ的手法で答える。質問に対して質問で答える。

- ①この質問は、自分で考えたものなのか。

②あるいは、ほかの人(ユダヤ人)から聞いたのか。

(3) ピラトの答え(訳文の比較)

「私はユダヤ人ではないでしょう」(新改訳)

「わたしはユダヤ人なのか」(新共同訳、口語訳)

「我(われ)はユダヤ人(びと)ならんや」(文語訳)

「なにっ！ 私がユダヤ人だとでも言うつもりか」(リビングバイブル)

「Am I a Jew?」(KJV)

- ①皮肉と軽蔑を込めた応答である。
- ②自分はローマ人なので、だれがメシアかという話題には興味がない。
- ③もちろん、ユダヤ人から聞いたということ。
- ④イエスは、ご自分の民から見捨てられ、訴えられたのである。

## 2. 36～37節

Joh 18:36 イエスは答えられた。「わたしの国はこの世のものではありません。もしこの世のものであったなら、わたしのしもべたちが、わたしをユダヤ人に渡さないように、戦ったことでしょう。しかし、事実、わたしの国はこの世のものではありません。」

Joh 18:37 そこでピラトはイエスに言った。「それでは、あなたは王なのですか。」イエスは答えられた。「わたしが王であることは、あなたが言うとおりにです。わたしは、真理のあかしをするために生まれ、このことのために世に来たのです。真理に属する者はみな、わたしの声に聞き従います。」

- (1) イエスは、ローマは自分のことを恐れる必要はないと言われた。
  - ①イエスの国は、この世のものではない。
  - ②もしそうなら、弟子たちが自分をユダヤ人に渡さないように戦ったであろう。
- (2) ピラトは、「それでは、あなたは王なのですか」と尋ねた。
  - ①「わたしの国」という言葉に触発された質問である。
- (3) イエスは、自分が王であることを認めた。
  - ①しかし、ローマ帝国のような国の王ではない。
  - ②イエスは、真理の証しをするために人となられた。
    - \*父なる神、子なる神、聖霊、人間、罪、救いなどに関する真理である。
  - ③真理を愛する者はみな、イエスの声を聞き分ける。

(4) 無千年王国説

- ①「わたしの国はこの世のものではありません」を根拠に、千年王国の存在を否定する。
- ②「この世のもの」とは、「サタンの支配下にある国」のことである。
- ③地上での千年王国の成就を否定していることばではない。

#### IV. ピラトが出した結論 (38 節)

##### 1. 38 節

**Joh 18:38** ピラトはイエスに言った。「真理とは何ですか。」／彼はこう言ってから、またユダヤ人たちのところに出て行って、彼らに言った。「私は、あの人には罪を認めません。」

(1) 「真理とは何ですか」

①さまざまな解釈が可能であるが、皮肉を込めた応答だというのは否定できない。

(2) ピラトはユダヤ人たちのところに出て行き、イエスには罪がないことを認めた。

①イエスは、過越の子羊として適格であることが、ローマによっても証明された。

#### 結論

##### 1. イエスのことばの成就

(1) ヨハ 18 : 32

**Joh 18:32** これは、ご自分がどのような死に方をされるのかを示して話されたイエスのことばが成就するためであった。

①異邦人に渡されて死ぬ (マタ 20 : 19)。

②イエスは、十字架刑で死ぬ。

(2) 十字架刑は、木に上げられる刑である。

①ヨハ 3 : 14

**Joh 3:14** モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。

②ヨハ 8 : 28

**Joh 8:28** イエスは言われた。「あなたがたが人の子を上げてしまうと、その時、あなたがたは、わたしが何であるか、また、わたしがわたし自身からは何事もせず、ただ父がわたしに教えられたとおりに、これらのことを話していることを、知るようになります。」

③ヨハ 12 : 32

**Joh 12:32** わたしが地上から上げられるなら、わたしはすべての人を自分のところに引き寄せます。」

(3) 十字架刑が必要であった理由

- ①骨が砕かれないという預言が成就するため(出12:46、詩34:20参照)。  
\*石打ちであれば、骨が破壊される。
- ②ユダヤ人と異邦人がともに責めを負うため(使2:23、4:27参照)。  
\*ユダヤ人だけをキリスト殺しの犯人とするのは間違っている。
- ③イエスは、呪いの死を受けた者として木にかけられ、さらし者になった。  
\*呪いの死とは、罪に対する神の怒りと裁きを受けた死である。  
\*イエスは、荒野の青銅の蛇のように上げられた(ヨハ3:14参照)。

2. ピラトの悲劇

(1) 「真理とは何か」と問いながら、イエスの答えを待たずにその前を去った。

- ①ピラトは、真理そのものを見ていながら、真理を認識できなかった。
- ②なんという悲劇であろうか。

(2) ピラトは、相対主義に支配されていた。

- ①ローマ人の心には相対主義が生きていた。
- ②相対主義がピラトを束縛し、盲目にしていた。
- ③今日の時代も、相対主義が人々を支配している。
- ④キリスト教の歴史は、相対主義との戦いの歴史である。
- ⑤ヨハ21:24~25

Joh 21:24 これらのことについてあかしした者、またこれらのことを書いた者は、その弟子である。そして、私たちは、彼のあかしが真実であることを、知っている。

Joh 21:25 イエスが行われたことは、ほかにもたくさんあるが、もしそれらをいちいち書きしるすなら、世界も、書かれた書物を入れることができまい、と私は思う。

「ヘロデによる裁判」

ルカ 23 : 6~12

1. はじめに

(1) 文脈の確認

①宗教裁判の3段階

②政治裁判の3段階

\*ピラトの前で

\*ヘロデの前で

\*ピラトの前で

③今回は、政治裁判の第2段階を取り上げる(ルカのみが記している)。

④これまでの状況

\*ピラトはイエスを裁きたくない。

\*イエスは無罪である。

\*しかし、ユダヤ人の指導者たちを怒らせると、ローマ本国に直訴される。

\*ローマでのピラトのパトロンは失脚しつつあった。

⑤ピラトが見出した逃れの道

\*ローマ法では、罪人の出身地の支配者が裁いてもよいことになっていた。

\*ヘロデは、ガリラヤの国主であった。

\*この時ヘロデは、エルサレムに滞在していた。

\*そこでイエスをヘロデのもとに送ることにした。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 160 ヘロデの前での裁判

ルカ 23 : 6~12

2. アウトライン

(1) 舞台設定 (6~7 節)

(2) 政治裁判の第2段階 (8~10 節)

(3) 結果 (11~12 節)

3. 結論

(1) ヘロデの悲劇

(2) 悪の連帯の最後

ヘロデによる裁判の意味について考える。

## I. 舞台設定 (6～7節)

### 1. 6節

**Luk 23:6** それを聞いたピラトは、この人はガリラヤ人かと尋ねて、

(1) 「それを聞いたピラト」

①彼は、「ガリラヤ」という言葉を聞いたのである。

(2) ルカ 23 : 4～5

**Luk 23:4** ピラトは祭司長たちや群衆に、「この人には何の罪も見つからない」と言った。

**Luk 23:5** しかし彼らはあくまで言い張って、「この人は、ガリラヤからここまで、ユダヤ全土で教えながら、この民を扇動しているのです」と言った。

①政治裁判が第1段階から第2段階に移行する「きっかけ」が書かれている。

②ユダヤ人の指導者たちは、イエスの犯罪行為はガリラヤから始まったと訴えた。

(3) もしそうなら、ローマ法ではガリラヤの支配者がイエスを裁くことは許される。

①出身地の支配者

②罪を犯した地の支配者

③ピラトがイエスはガリラヤ人かと尋ねたのは、そういう理由からである。

④もしそうなら、イエスはガリラヤの国主ヘロデの支配下にあることになる。

⑤そこでピラトは、イエスを裁く権利をヘロデに譲ることにした。

\*イエスの裁判から手を引きたかったのである。

### 2. 7節

**Luk 23:7** ヘロデの支配下にあるとわかると、イエスをヘロデのところへ送った。ヘロデもそのころエルサレムにいたからである。

(1) ヘロデ

①ヘロデ大王の息子のヘロデ・アンティパスである。

\*ヘロデ大王は、ベツレヘムの2歳以下の男の子を殺した。

②ヘロデ・アンティパスは、ガリラヤの国主(王よりも低いタイトル)であった。

③彼は、兄弟の妻ヘロデヤと結婚したことをバプテスマのヨハネから批判された。

\*そこで彼は、バプテスマのヨハネを逮捕し、幽閉した。

\*ヘロデヤの娘サロメとの約束を守るために、ヨハネの首をはねた。

\*イエスのことを復活したヨハネかもしれないと思っていたことがある。

(2) このヘロデが、過越の祭りのためにエルサレムに滞在していた。

- ①神殿の西側にある王宮に滞在していた。
- ②ハスモン王朝時代の豪華な王宮である。

(3) ピラトとヘロデの関係

- ①ヘロデは、ガリラヤとペレアの支配者であった。
- ②ピラトは、ユダヤとサマリヤの支配者であった。
- ④前者の強みは、ヘロデ家の出であり、長期間支配者の地位に着いていたこと。
- ⑤後者の強みは、ローマ市民であり、皇帝の代理人であったこと。
- ⑥両者は、互いを牽制し合う仲であった。

(4) ピラトは、イエスをヘロデのところに送った。

- ①法廷が変更になったのである。
- ②当然、イエスを訴えているユダヤ人の指導者たちもそこに移動した。

## II. 政治裁判の第2段階 (8～10節)

### 1. 8節

**Luk 23:8** ヘロデはイエスを見ると非常に喜んだ。ずっと前からイエスのことを聞いていたの  
で、イエスに会いたいと思っていたし、イエスの行う何かの奇蹟を見たいと考えていたからで  
ある。

- (1) ヘロデはイエスを見ると非常に喜んだ。
  - ①ずっと前からイエスの噂を聞いていた。
  - ②イエスに会いたいと思っていた (イエスに対する恐れは消えていた)。
  - ③その理由は、イエスが行う奇蹟を見たいからである。
- (2) ヘロデは、「もてなし」を受けることを好む人物である。
  - ①サロメの踊りを見て喜んだ時と同じである。
  - ②今回は、イエスが行う奇蹟が「見世物」となることを期待している。
  - ③私たちへの適用：今日の奇蹟をどう考えるか。

### 2. 9～10節

**Luk 23:9** それで、いろいろと質問したが、イエスは彼に何もお答えにならなかった。

**Luk 23:10** 祭司長たちと律法学者たちは立って、イエスを激しく訴えていた。

- (1) ヘロデはいろいろ質問した。質問し続けた。
  - ①文語訳



Luk 23:9 **かくて多くの言をもて問ひたれど、イエス何をも答へ給はず。**

- (2) イエスの応答は、沈黙であった。
  - ①イエスはすでにピラトの前で証言していた。
  - ②イエスは、ヘロデ・アンティパスを救う努力はしなかった。
    - \*イエスは彼を「あの狐」と呼んでいた(ルカ13:32)。
    - \*ヘロデは狡猾な老狐であり、悪名高いヘロデ一家の一員である。
    - \*ヘロデの動機が間違っている。イエスを「見世物」としか考えていない。
- (3) イエスとは対照的に、ユダヤ人の指導者たちはイエスを激しく訴え続けた。
  - ①彼らは、暴言を吐き、大騒ぎしていた。
  - ②ヘロデは、このままでは何も起こらないと判断した。

### III. 結果(11~12節)

#### 1. 11節

Luk 23:11 **ヘロデは、自分の兵士たちといっしょにイエスを侮辱したり嘲弄したりしたあげく、はでな衣を着せて、ピラトに送り返した。**

- (1) ヘロデはイエスを文字通り「見世物」扱いした。
  - ①兵士たちだけでなく、ヘロデも参加した。
  - ②イエスを侮辱し、あざけた。
  - ③「はでな衣」とは、ユダヤ人の王が着る白い王服であろう。
    - \*自分は王だというイエスの主張をあざけたのである。

- (2) ヘロデは、イエスを無罪だと認めて、ピラトのもとに送り返した。

#### 2. 12節

Luk 23:12 **この日、ヘロデとピラトは仲よくなった。それまでは互いに敵対していたのである。**

- (1) 敵対していた者同士が、仲よくなったのである。

### 結論

#### 1. ヘロデの悲劇

##### (1) ルカ 23:8

Luk 23:8 **ヘロデはイエスを見ると非常に喜んだ。ずっと前からイエスのことを聞いていたの**

で、イエスに会いたいと思っていたし、イエスの行う何かの奇蹟を見たいと考えていたからである。

- ①「喜んだ」は、「カイロウ」という動詞である。
- ②ヘロデは非常に喜んだが、それは的外れの喜びであった。
- ③彼は、本当の喜びを体験したことがなかった。
- ④ルカの福音書の中に出てくる「カイロウ」という動詞を調べてみよう。

#### (2) 羊飼いの喜び (ルカ 15 : 5~6)

Luk 15:5 見つけたら、大喜びでその羊をかついで、

Luk 15:6 帰って来て、友だちや近所の人たちを呼び集め、『いなくなった羊を見つけたから、いっしょに喜んでください』と言うでしょう。

- ①カイロウ
- ②スンカイロウ

#### (3) 婦人の喜び (ルカ 15 : 8~9)

Luk 15:8 また、女の人が銀貨を十枚持っていて、もしその一枚をなくしたら、あかりをつけ、家を掃いて、見つけるまで念入りに捜さないでしょうか。

Luk 15:9 見つけたら、友だちや近所の女たちを呼び集めて、『なくした銀貨を見つけたから、いっしょに喜んでください』と言うでしょう。

- ①スンカイロウ

#### (4) 父の喜び (ルカ 15 : 32)

Luk 15:32 だがおまえの弟は、死んでいたのが生き返って来たのだ。いなくなっていたのが見つかったのだから、楽しんで喜ぶのは当然ではないか。』

- ①カイロウ

#### (5) ザアカイの喜び (ルカ 19 : 6)

Luk 19:6 ザアカイは、急いで降りて来て、そして大喜びでイエスを迎えた。

- ①カイロウ

#### (6) ユダヤ人の指導者たちの喜び (ルカ 22 : 4~5)

Luk 22:4 ユダは出かけて行って、祭司長たちや宮の守衛長たちと、どのようにしてイエスを彼らに引き渡そうかと相談した。

Luk 22:5 彼らは喜んで、ユダに金をやる約束をした。

- ①カイロウ

## 2. 悪の連帯の最後

### (1) 敵対関係にあったピラトとヘロデ

- ①ピラトは神殿域の壁にローマの盾を飾ろうとした。
- ②ヘロデはローマ本国に訴えたために、ピラトは強制的に盾を撤去させられた。
- ③イエスの裁判までは、両者は互いの権威を認め合うのが難しかった。
- ④しかし、ピラトはガリラヤとペレアに関するヘロデの統治権を認めた。
- ⑤また、ともに容易ではないイエスの裁判経験したことで、連帯意識が芽生えた。

### (2) ヘロデのその後

- ①妻のヘロデヤが野心を抱いた。
- ②夫婦でローマ皇帝カリギュラに近づき、王と女王のタイトルを願い出た。  
\*父であるヘロデ大王はそのタイトルを与えられていた。
- ③結果的に、彼らは今のフランスのリオンに追放され、極貧の中で死を迎えた。

### (3) ピラトのその後

- ①彼は、イエスが無罪であることを知りながら、十字架刑を宣言した。
- ②紀元36年、シリア総督がローマ本国に対してピラトを激しく訴えた。
- ③ピラトは皇帝の前で釈明するために帰国したが、成功しなかった。
- ④ある伝承では、彼はフランスに追放されたとされる。
- ⑤別の伝承では、ルツェルン湖(スイス中央部)の近くにある山(ピラトゥス山)に追放されたという。
- ⑥歴史家エウセビオスは、ピラトは自殺したと伝えている。

「ピラトによる2回目の裁判」

ヨハ 18 : 39～19 : 16

1. はじめに

- \*1961年制作のイタリア映画『バラバ』
- \*スウェーデンの作家ペール・ラーゲルクヴィストの1951年度ノーベル文学賞受賞小説の映画化
- \*主演は、アンソニー・クイン

(1) 文脈の確認

- ①宗教裁判の3段階
- ②政治裁判の3段階
- ③今回は、政治裁判の第3段階を取り上げる。
- ④ピラトはイエスをヘロデのもとに送ったが、戻されてきた。
- ⑤そこでピラトは、自分でイエスを裁かざるを得なくなった。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 161 ピラトの前での2度目の裁判

マコ 15 : 6～15、マタ 27 : 15～26、ルカ 23 : 13～25、ヨハ 18 : 39～19 : 16

2. アウトライン

- (1) 3度目の無罪宣言 (39～40節)
- (2) 4度目の無罪宣言 (1～7節)
- (3) 5度目の釈放の努力 (8～12節)
- (4) 6度目の釈放の努力 (13～16節)

3. 結論

- (1) バラバについて
- (2) イエスの受難について

ヘロデによる2度目の裁判の意味について考える。

I. 3度目の無罪宣言 (39～40節)

- 1. イエスはピラトのもとに戻されてきた。
  - (1) ルカ 23 : 13～16にあるピラトの言葉
    - ①ヘロデもまたこの人に罪を見つけることができなかった。

- ②この人は死罪に当たることは何一つしていない。
- ③懲らしめたくらゝで、釈放する。

2. ピラトは、当時の習慣を利用してイエスを釈放しようと努力する(39節)。

**Joh 18:39** しかし、過越の祭りに、私があなたがたのためにひとりの者を釈放するのがならわしになっています。それで、あなたがたのために、ユダヤ人の王を釈放することにしましょうか。」

(1) 過越の祭りの期間、ひとりの罪人を釈放することになっていた。

- ①ローマは、このような習慣を容認していた。
  - \*民衆の要求に応じて、集団で釈放する場合もあった。
- ②2種類の釈放があった。
  - \*有罪になっている者の釈放
  - \*裁判にかかる前の釈放(ピラトはこれを意図している)。

(2) ユダヤ人の王か強盗のバラバか。

- ①ピラトは、民衆はイエスを支持していると思っていた。
- ②民衆の声を取り上げることで、祭司長、長老たちの圧力をかわそうとした。
- ③ピラトは、ユダヤ人の王を釈放しようと提案した。

3. 裁判の中断

(1) マタ 27:19

**Mat 27:19** また、ピラトが裁判の席に着いていたとき、彼の妻が彼のもとに人をやって言わせた。「あの正しい人にはかかわり合わないでください。ゆうべ、私は夢で、あの人のことで苦しいめに会いましたから」

- ①ピラトの妻がエルサレムまで同行していた。
- ②ローマ世界では、妻が私的助言によって夫に高貴な行動を促すことがあった。
- ③ピラトの妻がイエスについての夢を見た。
  - \*イエスは正しい人であるので、かかわり合うべきではない。

(2) 裁判中にこの知らせが届いたので、裁判は一時中断となった。

- ①ピラトの妻はイエスを助けようとしたが、結果は逆になった。
- ②祭司長、長老たちは、民衆を説得する時間を得た。
- ③教会の伝承では、彼女の名はクローディアで、後に信者になったという。

4. 40節

Joh 18:40 すると彼らはみな、また大声をあげて、「この人ではない。バラバだ」と言った。このバラバは強盗であった。

- (1) 扇動された群衆が、イエスではなくバラバだと、大声で答えた。
  - ①これはピラトにとっては想定外の展開であった。
  - ②イエスを釈放しようとするピラトの努力は失敗に終わった。

## II. 4度目の無罪宣言 (1~7節)

### 1. 1~3節

Joh 19:1 そこで、ピラトはイエスを捕らえて、むち打ちにした。

Joh 19:2 また、兵士たちは、いばらで冠を編んで、イエスの頭にかぶらせ、紫色の着物を着せた。

Joh 19:3 彼らは、イエスに近寄っては、「ユダヤ人の王さま。ばんざい」と言い、またイエスの顔を平手で打った。

- (1) むち打ちは、イエスを釈放しようとするための策略である。
  - ①ピラトは、血を見れば群衆は満足するだろうと考えた。
  
- (2) 兵士たちも、イエスを嘲った。
  - ①いばらの冠を頭にかぶらせた。
  - ②紫色の着物を着せた。
  - ③顔を平手で打った。

### 2. 4~5節

Joh 19:4 ピラトは、もう一度外に出て来て、彼らに言った。「よく聞きなさい。あなたがたのところにあの人を連れ出して来ます。あの人に何の罪も見られないということを、あなたがたに知らせるためです。」

Joh 19:5 それでイエスは、いばらの冠と紫色の着物を着けて、出て来られた。するとピラトは彼らに「さあ、この人です」と言った。

- (1) ピラトは、再度イエスをユダヤ人たちの前に連れてきた。
  - ①「見よ、この人だ」は、「エッケ ホモ」(ラテン語)である。
  - ②この時のイエスは、見るも無残な姿であっただろう。

### 3. 6~7節

Joh 19:6 祭司長たちや役人たちはイエスを見ると、激しく叫んで、「十字架につけろ。十字架につけろ」と言った。ピラトは彼らに言った。「あなたがたがこの人を引き取り、十字架につけなさい。私はこの人には罪を認めません。」

**Joh 19:7 ユダヤ人たちは彼に答えた。「私たちには律法があります。この人は自分を神の子としたのですから、律法によれば、死に当たります。」**

- (1) 血に飢えたユダヤ人たちを静める方法はなかった。
  - ①彼らは、「十字架につけろ」と激しく叫んだ。
- (2) ピラトは、4度目の無罪宣言を行った。
  - ①ピラトは、なんとしても関わりたくなかったのである。
- (3) ユダヤ人たちは、本音を口にした。
  - ①「この人は自分を神の子とした」

### Ⅲ. 5度目の解放の努力 (8~12節)

#### 1. 8節

**Joh 19:8 ピラトは、このことばを聞くと、ますます恐れた。**

- (1) ピラトは、ローマ流布していた神々が人間の姿を取って現れ、人間を裁くという物語を聞いていたはずである。
  - ①神々を軽視していた者もいたが、敬意を表する者も多くいた。
  - ②ここでは、イエスの主張とユダヤ人たちの証言が、ピラトに恐れを与えた。
  - ③イエスが持っている静かな威厳が、ピラトに良心の呵責を与え始めた。
- (2) 新しい訴因が出て来たので、裁判のやり直しが始まる。
  - ①ここで、ピラトは再度官邸に入る。

#### 2. 9~11節

**Joh 19:9 そして、また官邸に入って、イエスに言った。「あなたはどこの人ですか。」しかし、イエスは彼に何の答えもされなかった。**

**Joh 19:10 そこで、ピラトはイエスに言った。「あなたは私に話さないのですか。私にはあなたを釈放する権威があり、また十字架につける権威があることを、知らないのですか。」**

**Joh 19:11 イエスは答えられた。「もしそれが上から与えられているのでなかったら、あなたにはわたしに対して何の権威もありません。ですから、わたしをあなたに渡した者に、もっと大きい罪があるのです。」**

- (1) ピラトは、イエスの出身地を聞いた。
  - ①単純な質問である。
  - ②彼は、イエスがガリラヤ出身であることを知っていた。
  - ③ピラトには、イエスに対する恐れが芽生えていた。

(2) イエスは沈黙された。

- ①ピラトは、イエスが自分を弁護しないので不思議に思った。
- ②ピラトは、自分にはイエスを救う力があると告げた。

(3) イエスは2つのことを告げた(自己弁護ではない)。

- ①ピラトの権威は、限定的に委託されたものである。
- ②ピラトよりも、イエスを十字架に付けるために渡した者たちの罪の方が重い。
  - \*ピラトにも罪はある。使3章のペテロのメッセージ。
  - \*使徒信条の中にピラトの名が出てくる。

### 3. 12節

**Joh 19:12** こういうわけで、ピラトはイエスを釈放しようと努力した。しかし、ユダヤ人たちは激しく叫んで言った。「もしこの人を釈放するなら、あなたはカイザルの味方ではありません。自分を王だとする者はすべて、カイザルにそむくのです。」

(1) 5度目の釈放の努力

- ①イエスの罪を見出すことができない。

(2) ユダヤ人たちはピラトを脅迫した。

- ①自分を王とする者はカイザルに背く者である。
- ②もしイエスを釈放するなら、カイザルに背く行為に加担したことになる。
- ③そうなれば、あなたは「カイザルの友」ではなくなる。
- ④当時の皇帝は、テベリオである。
  - \*病気になっており、猜疑心が強く、残酷な状態にあった。
  - \*ピラトは、ユダヤ人たちが皇帝に直訴するのを恐れた。

## IV. 6度目の解放の努力(13~16節)

### 1. 13~14節

**Joh 19:13** そこでピラトは、これらのことばを聞いたとき、イエスを外に引き出し、敷石(ヘブル語ではガバタ)と呼ばれる場所で、裁判の席に着いた。

**Joh 19:14** その日は過越の備え日で、時は第六時ごろであった。ピラトはユダヤ人たちに言った。「さあ、あなたがたの王です。」

(1) 官邸の中庭の「敷石」と呼ばれる場所で判決が下される。

- ①この日は、7日間の種なしパンの祭りの備え日であった。
- ②第6時とは、午前6時である。



③ピラトは、「あなたがたの王」ですと皮肉を言った。

## 2. 15～16節

Joh 19:15 彼らは激しく叫んだ。「除け。除け。十字架につけろ。」ピラトは彼らに言った。「あなたがたの王を私が十字架につけるのですか。」祭司長たちは答えた。「カイザルのほかに、私たちに王はありません。」

Joh 19:16 そこでピラトは、そのとき、イエスを、十字架につけるため彼らに引き渡した。

(1) ユダヤ人たちは、「殺せ。殺せ。十字架につけろ」と激しく叫んだ。

(2) マタ 27:24～25

Mat 27:24 そこでピラトは、自分では手の下しようがなく、かえって暴動になりそうなものを見て、群衆の目の前で水を取り寄せ、手を洗って、言った。「この人の血について、私には責任がない。自分たちで始末するがよい。」

Mat 27:25 すると、民衆はみな答えて言った。「その人の血は、私たちや子どもたちの上にかかってもいい。」

①ピラトは水で手を洗ったが、それで罪がなくなったわけではない。

②「その人の血は、私たちや子どもたちの上にかかってもいい」

③この成就是、紀元70年のエルサレム崩壊である。

④マタイだけがこのことを記している。

\*赦されない罪の結果を追いかけているのは、マタイだけである。

(3) 「あなたがたの王を私が十字架につけるのですか」

①6度目の解放の努力

(4) ユダヤ人たちは、「カイザルのほかに、私たちに王はありません」と答えた。

①ユダヤ人の王(メシア)を拒否した。

②ローマへの忠誠を誓った。

③イエスが死刑判決を受け、バラバが釈放された。

## 結論

### 1. バラバについて

(1) 相当な悪人である。

①ピラトは、バラバとイエスを並べたなら、民衆はイエスを選ぶと思った。

②バラバは、強盗であった。ギリシア語の「レイステイス」。

\*反逆者、愛国心を隠れ蓑にして暴力行為を行う者たちのリーダー

\*当時は、このような反逆行為は頻繁に起こっていた。

- (2) バラバは名前ではなく、タイトルである。
  - ①バル(息子) + アバ(よく知られた父)
  - ②アラム語の本名は、「イエシュア バル アバ」である。
    - \*オリゲネスが記している。
    - \*イエスと同じ名前である。
- (3) イエスの罪状は、そのままバラバのものであった。
  - ①イエスはそのバラバの身代わりとなった。
  - ②バラバは、私たちクリスチャンの象徴でもある。

## 2. イエスの受難について

### (1) むち打ち

#### ①ユダヤ人のむち打ち

- \*39回で止める(申25:3は40回までと規定している)。
- \*短い革のひもに取っ手を付け、背中だけを打つ。痛い、死ぬことはない。
- \*パウロは、5回ユダヤ人のむち打ちを経験している。

#### ②ローマ人のむち打ち

- \*回数制限はないので、死に至ることもあった。兵士が疲れるまで打った。
- \*長い革のひもを使った。
- \*ひもの先に、釘、ガラス、羊の骨、鋭利な金属片などを付けていた。
- \*背中だけでなく、胸、わき腹、顔まで打たれた。
- \*背骨が見えたり、内臓が飛び出たりすることもあった。
- \*むち打ちの後のイエスの顔は破壊されていたであろう。
- \*イザ52:14

Isa 52:14 多くの者があなたを見て驚いたように、／——その顔だけは、／そこなわれて人のようではなく、／その姿も人の子らとは違っていた——

### (2) 嘲りの数々

- ①茨の冠
- ②紫色の着物
- ③顔を打たれる。
- ④つばきをかけられる(マタ27:30)。
- ⑤創3:18

Gen 3:18 土地は、あなたのために、／いばらとあざみを生えさせ、／あなたは、野の草を食べなければならない。

- (3) イエスは、主のしもべとして、私たちの罪をご自身の上に背負われた。

「十字架への道」

マタ 27 : 27~30、ルカ 23 : 26~33

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①ピラトはイエスに対して死刑判決を下した。
- ②ここから刑場（ゴルゴタ）に向かう行進が始まる。  
\*午前6時~9時ごろ
- ③ヴィア・ドロローサ (Via Dolorosa) (ラテン語で「苦難の道」の意)
- ④現在では、14ステーション(留)が定められている(約600メートル)。  
\*5つは伝承である。
- ⑤最後の5つのステーションは、聖墳墓教会の中にある。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 162 兵士たちによる嘲り

マコ 15 : 16~19、マタ 27 : 27~30

§ 163 十字架途上のイエス

マコ 15 : 20~23、マタ 27 : 31~34、ルカ 23 : 26~33、ヨハ 19 : 16~17

2. アウトライン

- (1) ローマ兵たち (マタ 27 : 27~30)
- (2) クレネ人シモン (ルカ 23 : 26)
- (3) 嘆き悲しむ女たち (ルカ 23 : 27~31)
- (4) イエス (マタ 27 : 33~34)

3. 結論

- (1) ゴルゴタ
- (2) クレネ人シモン

ヴィア・ドロローサでの出来事の意味について考える。

I. ローマ兵たち (マタ 27 : 27~30)

1. 兵士たちによる嘲り

Mat 27:27 それから、総督の兵士たちは、イエスを官邸の中に連れて行って、イエスの回りに全部隊を集めた。

Mat 27:28 そして、イエスの着物を脱がせて、緋色の上着を着せた。

**Mat 27:29** それから、いばらで冠を編み、頭にかぶらせ、右手に葦を持たせた。そして、彼らはイエスの前にひざまずいて、からかって言った。「ユダヤ人の王さま。ばんざい。」

**Mat 27:30** また彼らはイエスにつばきをかけ、葦を取り上げてイエスの頭をたたいた。

(1) 死刑判決を受けたイエスは、ローマ兵たちに委ねられた。

①彼らは、イエスを嘲り、肉体的に虐待した。

(2) ピラトは、この蛮行を阻止することができたはずである。

①彼には、不必要な苦しみをイエスに与えた責任がある。

②阻止しなかったのは、恐れと弱さのゆえである。

(3) イエスの肉体的状態

①すでに鞭打ちを受けている。

②イエスの肉体は、ぼろぼろの状態である。

③特に、出血多量で体力がなくなっている。

④罪人は、十字架(横木)を負って刑場まで行進する。

⑤イエスにとっては、その行程はまさに「苦難の道」である。

## II. クレネ人シモン (ルカ 23:26)

**Luk 23:26** 彼らは、イエスを引いて行く途中、いなかから出て来たシモンというクレネ人をつかまえ、この人に十字架を負わせてイエスのうしろから運ばせた。

1. イエスの肉体が衰弱していた。

(1) 十字架刑は、長時間苦しめながら死に至らせる見せしめの刑である。

①もしイエスが刑場に向かう途中で死ねば、その目的は半分しか達成されない。

②第5ステーションから上り坂に入る。

③ローマ兵たちは、イエスの代わりに十字架を負う人物を探した。

④それによって、イエスは一時的に楽になるが、最後に十字架の死が待っている。

(2) ローマは、支配下にある民をいつでも徴用することができた。

①これが、支配者と被支配者の関係の現実である。

2. 代わりに十字架を負わされたのは、クレネ人シモンである。

(1) クレネは、北アフリカにあった町

①彼は、過越の祭りを祝うためにエルサレムに来ていたユダヤ人である。

②祭りの期間の労働は認められないので、彼が労働者として来ているのではないことが分かる。

(2) 彼は、十字架を負ってイエスの後を歩いた。

### Ⅲ. 嘆き悲しむ女たち (ルカ 23 : 27~31)

Luk 23:27 **大ぜいの民衆やイエスのことを嘆き悲しむ女たちの群れが、イエスのあとについて行った。**

#### 1. 27 節

(1) 十字架刑は、見せしめの刑である。

- ①イエスの後について行った人たちの大半が、野次馬であろう。
- ②中には、イエスの教えを聞き、イエスを支持していた人もいたであろう。

(2) ルカは、特に嘆き悲しむ女たちの群れを取り上げている。

- ①女性に焦点を合わせるのは、ルカの福音書の特徴である。

(3) この女たちは、誰なのか。

- ①当時は、葬送の列に「泣き女」が同行する習慣があった。
  - \*刑場まで同行し、十字架にかかる前に鎮痛剤を与えた。
  - \*ユダヤ人たちは、愛国主義の受刑者に敬意を表した。
  - \*ローマもこのような行為を許していた。
  - \*しかし、死後の弔いは禁じられていた。
  - \*これまでの例では、イエスは泣き女たちの活動を喜んではいなかった。
- ②イエスの死に心を痛めている信仰のある女たち
  - \*彼女たちは、純粹に心を痛め、悲しみの中にあった。
- ③いずれにしても、女たちは真心から悲しんでいるように見える。

#### 2. 28~30 節

Luk 23:28 **しかしイエスは、女たちのほうに向いて、こう言われた。「エルサレムの娘たち。わたしのことで泣いてはいけない。むしろ自分自身と、自分の子どもたちのことのために泣きなさい。**

Luk 23:29 **なぜなら人々が、『不妊の女、子を産んだことのない胎、飲ませたことのない乳房は、幸いだ』と言う日が来るのですから。**

Luk 23:30 **そのとき、人々は山に向かって、『われわれの上に倒れかかってくれ』と言い、丘に向かって、『われわれをおおってくれ』と言い始めます。**

(1) イエスは、群衆の中の女たちに特に声をかけた。

①イエスは、肉体的な苦痛の中でも奉仕を続けておられる。

②「エルサレムの娘たち」と呼びかけた。

\*彼女たちのほとんどがエルサレムの住民であった。

(2) イエスのことばは、エルサレム崩壊の預言である。

①イエスのことよりも、自分自身と自分の子どもたちのために嘆き悲しむべきである。

②その理由は、彼らに悲惨なことが起こるからである。

③エルサレム崩壊まで期間(40年間)を生かすようにという勧めである。

### 3. 31節

**Luk 23:31 彼らが生木にこのようなことをするのなら、枯れ木には、いったい、何が起こるでしょう。」**

(1) 「生木」と「枯れ木」の意味

①生木とは、イエスのことである。

\*聖なるイエスがこのような仕打ちを受けている。

②枯れ木とは、罪人たちのことである。

\*ましてや、罪人がさらに激しい苦難に会わないはずがない。

(2) この慣用句の背景は、エゼ20:46~47である。

**Eze 20:46 「人の子よ。顔を右のほうに向け、南に向かって語りかけ、ネゲブの野の森に向かって預言し、**

**Eze 20:47 ネゲブの森に言え。『【主】のことばを聞け。神である主はこう仰せられる。見よ。わたしはおまえのうちに火をつける。その火はおまえのうち、すべての緑の木と、すべての枯れ木を焼き尽くす。その燃える炎は消されず、ネゲブから北まですべての地面は焼かれてしまう。**

①イエスのこの預言は、紀元70年に成就した。

## IV. イエス (マタ 27:33~34)

**Mat 27:33 ゴルゴタという所(「どくろ」と言われている場所)に来てから、**

**Mat 27:34 彼らはイエスに、苦みを混ぜたぶどう酒を飲ませようとした。イエスはそれをなめただけで、飲もうとはされなかった。**

1. 刑場は、ゴルゴタと呼ばれた。

(1) その意味は、「どくろの場」である。

## 2. 苦みを混ぜたぶどう酒

- (1) ぶどう酒に、没薬や雄牛の胆汁などを混ぜたもの
  - ①受刑者の痛みを和らげるための麻酔薬、あるいは、鎮痛剤である。
  - ②これを飲むと、意識がもうろうとする。
- (2) イエスはそれを拒否された。
  - ①十字架上で意識を鮮明に保つため
  - ②その結果、イエスは十字架刑の痛みをすべて体験された。
  - ③意識を保った状態で、十字架上のことば(祈り)を発する必要があった。
  - ④これは、旧約聖書の預言を成就するためでもあった。

## 結論

### 1. ゴルゴタ

- (1) 種々の用語
  - ①アラム語でゴルゴタ
  - ②ギリシア語でクラニオン
  - ③ラテン語でカルバリ
- (2) その意味は、「どくろの場」である。
  - ①地形が、どくろの形に似ているということではない。
  - ②刑場なので「どくろの場」と呼ばれていた。
- (3) エルサレムにある「園の墓」には、「ゴードンのカルバリ」がある。
  - ①1880年代、英国人のゴードン将軍(聖書学者)が、ここがカルバリだと確信。
  - ②非常に美しい場所であるが、考古学的には疑問が残る。
- (4) ゴルゴタは、聖墳墓教会の中にある。
  - ①当時の名残は残っていないが、ここが本来のゴルゴタの位置である。
  - ②誤解が生じた理由は、聖墳墓教会が城壁の内側にあること。
  - ③この城壁は、1500年にトルコによって建設されたものである。
- (5) 注目すべきは、イエスの十字架の死は歴史上の事実だということである。

### 2. クレネ人シモン

- (1) クレネは、現在の北アフリカのリビアに位置する。
  - ①クレネは、北アフリカで栄えていた5つの町(ペンタポリス)のひとつである。
  - ②ギリシア・ローマ時代を通じて、ギリシア語を話すユダヤ人の大きな共同体が

あった。

- ③最盛期には、10万人の人口を擁した。
- ④紀元115年にユダヤ人の反乱が起こり、町は衰退した。
- ⑤そして、5世紀には廃墟となった。

(2) シモンは、ユダヤ人の一般的な名前である。

- ①彼は、巡礼祭でエルサレムに来ていたユダヤ人である。
- ②彼のことを黒人と考える人もいるが、そうではない。  
\*クレネにはディアスポラのユダヤ人たちが多く住んでいた。
- ③シモンに関する情報は少ない。

(3) マコ 15 : 21

Mar 15:21 そこへ、アレキサンデルとルポスとの父で、シモンというクレネ人が、いななかから出て来て通りかかったので、彼らはイエスの十字架を、むりやりに彼に背負わせた。

- ①マルコだけが、「アレキサンデルとルポスとの父」と書いている。
- ②マルコの福音書は、ローマ世界の異邦人のために書かれた。
- ③この福音書の読者には、アレキサンデルとルポスはよく知られた信者であった。

(4) ロマ 16 : 13

Rom 16:13 主にあって選ばれた人ルポスによろしく。また彼と私との母によろしく。

- ①ルポスとその母の名が登場する。
- ②「選ばれた人」とは、重責を担っている人、よく知られた人の意味。
- ③その母は、パウロにとっても母のような人。
- ④シモンの一家は、信者になり、クレネからローマに移住した。
- ⑤ローマの教会は使徒たちによって設立されたのではない。
- ⑥シモン一家のようなユダヤ人信者たちによって、設立された。
- ⑦この事実は、私たちにとても励ましとなる。



「十字架上での最初の3時間(1)」

ヨハ 19 : 18~27

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ① イエスは、刑場(ゴルゴタ)に着いた。
- ② 午前9時から正午までの3時間  
\* 人の怒りを体験する時間
- ③ 正午から午後3時までの3時間  
\* 神の怒りを体験する時間
- ④ 今回は、最初の3時間の前半について学ぶ。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 164 十字架上での最初の3時間

マコ 15 : 24~32、マタ 27 : 35~44、ルカ 23 : 33~43、ヨハ 19 : 18~27

2. アウトライン

- (1) 十字架の形状(18節)
- (2) 罪状書き(19~22節)
- (3) 最初の祈り(ルカ 23 : 34)
- (4) 着物の分配(23~24節)

3. 結論: 旧約聖書の預言の成就

- (1) 十字架を担うイエス
- (2) 町の外で苦しむイエス
- (3) 十字架上で苦しむイエス
- (4) 着物をはぎ取られるイエス
- (5) ふたりの犯罪人とともに十字架につけられるイエス

十字架での最初の3時間の意味について考えてみよう。

I. 十字架の形状(18節)

1. 18節

Joh 19:18 彼らはそこでイエスを十字架につけた。イエスといっしょに、ほかのふたりの者をそれぞれ両側に、イエスを真ん中にしてであった。

- (1) イエスは、午前9時に十字架につけられた。

- ①「十字架につける」という動詞は、「スタウロオウ」である。
- ②「十字架」という名詞は、「スタウロス」である。

(2) 十字架の形状(4種類)

- ①一本の柱
- ②X字型(ペテロは、X字型の十字架にさかさまにつけられたという伝承がある)
- ③T字型
- ④十字型

(3) イエスがつけられた十字架はどれか。

- ①イエスの頭上に罪状書きが釘付けにされた。
  - \*マタ 27:37、マコ 15:26
- ②このことから考えると、①一本の柱、または、④十字型に絞られる。
  - \*①一本の柱と②X字型は、主にイタリア国内で用いられた。
  - \*100%確実ではないが、④十字型の可能性が大である。

(4) 地面に置かれた十字架の上に寝かされ、体に釘が打ち込まれた。

- ①もし十字型であるなら、3本の釘が用いられた。
  - \*両手にそれぞれ1本で計2本が打ち込まれた。
    - ・手のひらではなく、手首に釘が打たれた。
    - ・手のひらに打ったなら、体重を支えることができない。
  - \*両足を揃えて1本
- ②次に、十字架が立てられ、あらかじめ掘っておいた穴の中に落とされた。
  - \*罪人は、この状態で数時間から数日生き延びた。
  - \*水分のみ与えられた。

(5) イエスを真ん中にして2人の罪人が十字架につけられた。

- ①恐らく、バラバの反乱に加わっていた反逆者たちであろう。

## II. 罪状書き(19~22節)

### 1. 19~20節

Joh 19:19 **ピラトは罪状書きも書いて、十字架の上に掲げた。それには「ユダヤ人の王ナザレ人イエス」と書いてあった。**

Joh 19:20 **それで、大ぜいのユダヤ人がこの罪状書きを読んだ。イエスが十字架につけられ**

た場所は都に近かったからである。またそれはヘブル語、ラテン語、ギリシヤ語で書いてあった。

- (1) ピラトが罪状書きを書いた。
  - ① 罪状書きを付けて十字架刑を執行するのは、当時の習慣である。
  - ② この場合の罪状書きは、「ユダヤ人の王ナザレ人イエス」というタイトルである。
- (2) ヘブル語、ラテン語、ギリシア語で書いてあった。
  - ① 都に入る門のそばであったので、そこを通る多くのユダヤ人がそれを読んだ。
  - ② 文字が読める人は、全員イエスの主張を読むことができた。

## 2. 21～22 節

**Joh 19:21** そこで、ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、「ユダヤ人の王、と書かないで、彼はユダヤ人の王と自称した、と書いてください」と言った。

**Joh 19:22** ピラトは答えた。「私の書いたことは私が書いたのです。」

- (1) 祭司長たちは、「ユダヤ人の王」というタイトルを事実として扱うことを嫌った。
  - ① 彼らは、「彼はユダヤ人の王と自称した」と書き直すことを要求した。
- (2) ピラトは、それを拒否した。
  - ① 「私の書いたことは私が書いたのです」とは、ピラトの皮肉である。
  - ② これまでに十分、お前たちの悪事に協力してきたという思いがある。
  - ③ 神の皮肉は、ここに至ってピラトはようやく真理を宣言したということ。

## Ⅲ. 最初の祈り (ルカ 23 : 34)

### 1. ルカ 23 : 34

**Luk 23:34** そのとき、イエスはこう言われた。「父よ。彼らをお赦してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」彼らは、くじを引いて、イエスの着物を分けた。

- (1) ルカの視点は、イエスの死が旧約聖書の預言の成就であるという点ではない。
  - ① それは、マタイやヨハネの視点である。
  - ② ルカは、イエスが死に瀕しても、罪を赦すメシアであることを示そうとする。
- (2) イエスは、自分を殺そうとしている人たちのために祈られた。
  - ① 無知のゆえに、イエスを殺そうとしている人たち
  - ② その罪の重さを認識していなかった人たち
  - ③ この祈りによって、神の怒りが鎮められた。

#### IV. 着物の分配(23~24節)

##### 1. 23節a

**Joh 19:23a** さて、兵士たちは、イエスを十字架につけると、イエスの着物を取り、ひとりの兵士に一つずつあたるよう四分した。

(1) 死刑囚の持ち物を死刑執行者の間で分割するのは、当時の習慣である。

①イエスの衣服を4分した。手作りの衣服だったので、今よりも高価であった。

②アウター、インナー、頭を包む布、サンダル

##### 2. 23節b~24節

**Joh 19:23b** また下着をも取ったが、それは上から全部一つに織った、縫い目なしのものであった。

**Joh 19:24** そこで彼らは互いに言った。「それは裂かないで、だれの物になるか、くじを引こう。」それは、「彼らはわたしの着物を分け合い、わたしの下着のためにくじを引いた」という聖書が成就するためであった。

(1) 縫い目なしの着物

①ギリシア語で「キトン」である。

②これは「下着」ではない。

③体全体を包み込む、首から足先までである上着である。

④大祭司の衣との対比があると思われるが、ヨハネはそれには言及していない。

(2) その上着は4分すると価値がなくなる。

①そこで彼らは、くじを引いた。

②これが預言の成就となった。

#### 結論：旧約聖書の預言の成就

①神の栄光のため

②読者への語りかけ

③現代のメシアニック・ジューとの関係

##### 1. 十字架を担うイエス

(1) 創22:6

**Gen 22:6** アブラハムは全焼のいけにえのためのたきぎを取り、それをその子イサクに負わ

せ、火と刀とを自分の手に取り、ふたりはいっしょに進んで行った。

(2) たきぎを負いながらモリヤの山に登るイサクは、イエスの型である。

- ①父アブラハムに従順に従うイサク
- ②イエスは、その型の成就である。

## 2. 町の外で苦しむイエス

(1) ヘブ 13:11~13

Heb 13:11 動物の血は、罪のための供え物として、大祭司によって聖所の中まで持って行かれますが、からだは宿営の外で焼かれるからです。

Heb 13:12 ですから、イエスも、ご自分の血によって民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられました。

Heb 13:13 ですから、私たちは、キリストのはずかしめを身に負って、宿営の外に出て、みもとに行こうではありませんか。

(2) 宿営の外で焼かれるいけにえの動物は、イエスの型である。

- ①イエスは罪のための供え物として、門の外で苦しみました。
- ②私たちへの適用は、宿営の外に出て、みもとに行くことである。

## 3. 十字架上で苦しむイエス

(1) 詩 22:14

Psa 22:14 私は、水のように注ぎ出され、／私の骨々はみな、はずれました。／私の心は、ろうのようになり、私の内で溶けました。

(2) 十字架が立てられ、穴に落ち込むときに、体に衝撃が走る。

- ①体中の関節がはずれる。
- ②イエスの苦しみは、この預言の成就である。

## 4. 着物をはぎ取られるイエス

(1) 詩 22:18

Psa 22:18 彼らは私の着物を互いに分け合い、／私の一つの着物を、くじ引きにします。

(2) イエスは、最後の持ち物まで取り上げられた。

- ①イエスの愛は、「余すところのない愛」である。

## 5. ふたりの犯罪人とともに十字架につけられるイエス

(1) イザ 53:12

Isa 53:12 それゆえ、わたしは、多くの人々を彼に分け与え、／彼は強者たちを分捕り物としてわかちとる。／彼が自分のいのちを死に明け渡し、／そむいた人たちとともに数えられた

からである。／彼は多くの人の罪を負い、／そむいた人たちのためにとりなしをする。

(2) イエスは罪人と同じようになられた。

①イエスは罪人の罪を負って死なれた。

②イエスは、復活し、昇天し、今は大祭司として執り成しをしておられる。

③信者は、イエスにあってすでに天のところに置かれている。

「十字架上での最初の3時間(2)」

ヨハ 19 : 18~27

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ① イエスは、刑場(ゴルゴタ)に着いた。
- ② 午前9時から正午までの3時間  
\* 人の怒りを体験する時間
- ③ 正午から午後3時までの3時間  
\* 神の怒りを体験する時間
- ④ 今回は、最初の3時間の後半について学ぶ。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 164 十字架上での最初の3時間

マコ 15 : 24~32、マタ 27 : 35~44、ルカ 23 : 33~43、ヨハ 19 : 18~27

2. アウトライン

- (1) あざけりを受けるイエス
- (2) 信仰を告白する罪人
- (3) 第2のことば
- (4) 第3のことば

3. 結論 :

- (1) あざけりの深い意味
- (2) 救いに至る信仰
- (3) 死後の命

十字架での最初の3時間の意味について考えてみよう。

I. あざけりを受けるイエス

1. マコ 15 : 29~30

Mar 15:29 道を行く人々は、頭を振りながらイエスをののしって言った。「おお、神殿を打ちこわして三日で建てる人よ。

Mar 15:30 十字架から降りて来て、自分を救ってみろ。」

- (1) 「道を行く人々」、つまり群衆がイエスをののしった。
  - ① イエスが十字架に付けられた刑場は、門の近くに位置していた。

②祭りを祝うために、人々はこの門を通過して町の中に入っていた。

③ののしりとは、言葉による暴力である。

④ののしりの際に頭を振るのは、当時の一般的な行為である。

\*詩22:7、109:25、エレ18:16、哀2:15

(2) 彼らは、イエスによるメシア性の主張をののしった。

①「神殿を打ちこわして三日で建てる人よ」

\*ヨハ2:20~22、マタ26:61 参照

③彼らは、十字架から降りて来て、自分を救えと言った。

(3) 詩22:7の成就

Psa 22:7 私を見る者はみな、私をあざけります。／彼らは口をとがらせ、頭を振ります。

## 2. マコ 15:31~32a

Mar 15:31 また、祭司長たちも同じように、律法学者たちと一緒になって、イエスをあざけて言った。「他人は救ったが、自分は救えない。」

Mar 15:32a キリスト、イスラエルの王さま。今、十字架から降りてもらおうか。われわれは、それを見たら信じるから。」

(1) サドカイ人とパリサイ人が一緒になって、イエスをあざけた。

①ルカ23:35には、「指導者たち」とある。

(2) あざけりの内容は、イエスによるメシア性の主張である。

①「キリスト、イスラエルの王さま」

②「今、十字架から降りてもらおうか。われわれは、それを見たら信じるから」

## 3. ルカ 23:36~37

Luk 23:36 兵士たちもイエスをあざけり、そばに寄って来て、酸いぶどう酒を差し出し、

Luk 23:37 「ユダヤ人の王なら、自分を救え」と言った。

(1) イエスが、罪の赦しを祈った者たちが、イエスをあざけた。

## 4. マコ 15:32b

Mar 15:32b また、イエスと一緒に十字架につけられた者たちもイエスをののしった。

(1) イエスの両側で十字架につけられた犯罪人たちも、最初はイエスをののしった。



## II. 信仰を告白する罪人

### 1. ルカ 23 : 39~41

Luk 23:39 十字架にかけられていた犯罪人のひとはイエスに悪口を言い、「あなたはキリストではないか。自分と私たちを救え」と言った。

Luk 23:40 ところが、もうひとりのほうが答えて、彼をたしなめて言った。「おまえは神をも恐れぬのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。」

Luk 23:41 われわれは、自分のしたことの報いを受けているのだからあたりまえだ。だがこの方は、悪いことは何もしなかったのだ。」

#### (1) 犯罪人のひとり

- ①イエスのメシア性の主張をあざけた。
- ②キリストなのだから、自分を救い、私たちを救えと言った。

#### (2) もうひとりの犯罪人

- ①心の変化を体験した。
- ②悪口を言う仲間をたしなめ、神を恐れよと忠告した。
- ③彼は、自分たちは当然の報いを受けていることを認めた。
- ④そして、この方(イエス)はそうではないと言った。

### 2. ルカ 23 : 42

Luk 23:42 そして言った。「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるときは、私を思い出してください。」

#### (1) 彼は、イエスに信頼した。

- ①間もなく死のうとしているイエスが、いつか御国の位に着くと信じた。
- ②「御国」とは、キリストが地上に設立する王国である。

## III. 第2のことば

### 1. ルカ 23 : 43

Luk 23:43 イエスは、彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」

#### (1) イエスは、彼の信仰に応えた。

- ①「きょう」。長く待つ必要はない。すぐに祝福が与えられる。
- ②「わたしとともに」。素晴らしいお方が同行してくださる。
- ③「パラダイスにいます」。最高の場所が約束された。

#### IV. 第3のことば

##### 1. ヨハ 19 : 25~27

Joh 19:25 兵士たちはこのようなことをしたが、イエスの十字架のそばには、イエスの母と母の姉妹と、クロパの妻のマリヤとマグダラのマリヤが立っていた。

Joh 19:26 イエスは、母と、そばに立っている愛する弟子とを見て、母に「女の方。そこに、あなたの息子がいます」と言われた。

Joh 19:27 それからその弟子に「そこに、あなたの母がいます」と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分の家に引き取った。

(1) 十字架のそばに4人の婦人が立っていた。

①イエスの母マリア

②母の姉妹(サロメ)

\*サロメは、ヤコブとヨハネの母である(マタ 27 : 55)。

\*つまり、ヤコブとヨハネは、イエスの従弟である。

③クロパの妻マリア

\*母マリアの義理の姉妹。伝承では、クロパはヨセフの兄弟

\*クロパの妻マリアは、マコ 15 : 40 では小ヤコブとヨセの母である。

④マグダラのマリヤ

(2) イエスは、母マリアの世話をヨハネに委ねた。

①母親の世話をすることは、長子の責務である。

②イエスの4人の弟たちは、まだ信者ではなかった。

\*イエスも家族伝道には苦勞された。

③ヨハネは、その命令に忠実に従った。

(3) このことばの靈的意味

①イエスは、マリアとの肉体的な親子関係を断ち切った。

②これ以降、マリアにとってイエスは、「主イエス・キリスト」となる。

③使 1 : 14 で120人の中にマリアが登場する。

\*これが最後で、それ以降は登場しない。

#### 結論 :

##### 1. あざけりの深い意味

(1) 4つのグループは例外なしに、イエスのメシア性の主張をあざけた。

(2) メシア性を証明するために、十字架から降りて来いと迫った。

- (3) これは、サタンの最後の誘惑である。イエスを十字架から下そうとしている。
- (4) イエスは、十字架にとどまることによってご自身のメシア性を証明された。

## 2. 救いに至る信仰

### (1) ルカ 23 : 39~42

Luk 23:39 十字架にかけられていた犯罪人のひとはイエスに悪口を言い、「あなたはキリストではないか。自分と私たちを救え」と言った。

Luk 23:40 ところが、もうひとりのほうが答えて、彼をたしなめて言った。「おまえは神をも恐れぬのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。」

Luk 23:41 われわれは、自分のしたことの報いを受けているのだからあたりまえだ。だがこの方は、悪いことは何もしなかったのだ。」

Luk 23:42 そして言った。「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるときは、私を思い出してください。」

- ①彼は、自分が罪人であることを認めた。
- ②彼は、イエスには罪がないことを認めた。
- ③彼は、イエスが自分を救えると信じた。
- ④彼は、イエスが死にかけているにもかかわらず、やがて王になると信じた。
- ⑤以上は、この時点で彼が知り得た信仰の内容である。
- ⑥彼は、信仰と恵みによって救われた。

### (2) 1 コリ 15 : 3~5

1Co 15:3 私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであり、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、

1Co 15:4 また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと、

1Co 15:5 また、ケパに現れ、それから十二弟子に現れたことです。

- ①以上が、今の私たちが信じなければならない内容である。

## 3. 死後の命

### (1) ルカ 23 : 43

Luk 23:43 イエスは、彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」

- ①この犯罪人は、死ぬとパラダイス行く。
  - \*信仰によって救われたから。
- ②パラダイスとは、アブラハムのふところと呼ばれた場所である。
- ③そこは、ハデス(死者の魂が行く場所)の中の「慰めの場所」である。

④イエスが昇天して以降は、パラダイスは第3の天に移された。

(2) 十字架は、人の永遠の運命を決定するものである。

①救いは、普遍的なものではない。

②信仰を発揮するかどうかで、永遠の運命が決まる。

# 「よみ」と訳されるハデスはどうなっているの？

旧約時代

現在

未来

シオール (ヘブル語)  
ハデス (ギリシャ語、広義)

義人の住まいとなる場所

**パラダイス**  
(ギリシャ語)

アブラハムのふところ  
(比喩的言葉)

不信者の苦しみの場所

**ハデス**  
(ギリシャ語、狭義)

よみの穴 (描写的言葉)  
アバドン (ギリシャ語)

ハデス内の墮天使の場所

タータラス (ヘブル語)  
アビス (ギリシャ語)

天に挙げられた

キリストの昇天

**天**

パラダイス

**ハデス**

パラダイス

ハデス

大きな白い御座の裁き

投げ込まれる

パラダイスは  
新天新地へ

ハデス

火の池 (描写的言葉)  
**ゲヘナ** (ギリシャ語)



「十字架上での最後の3時間」

ヨハ 19 : 28~30

1. はじめに

(1) 文脈の確認

①午前9時から正午までの3時間

\*人の怒りを体験する時間

②正午から午後3時までの3時間

\*神の怒りを体験する時間

③今回は、最後の3時間について学ぶ。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 165 正午から午後3時までの3時間の暗闇

マコ 15 : 33~37、マタ 27 : 45~50、ルカ 23 : 44~46、ヨハ 19 : 28~30

2. アウトライン

はじめに : 暗闇

(1) 第4のことば

(2) 第5のことば

(3) 第6のことば

(4) 第7のことば

3. 結論 :

(1) 第4のことば

(2) 第5のことば

(3) 第6のことば

(4) 第7のことば

十字架での最後の3時間の意味について考えてみよう。

はじめに : 暗闇

1. マタ 27 : 45、マコ 15 : 33、ルカ 23 : 44~45a に記録がある。

Luk 23:44 そのときすでに十二時ごろになっていたが、全地が暗くなって、三時まで続いた。

Luk 23:45 太陽は光を失っていた。

2. 考古学上の証拠

(1) エジプトにいたギリシア人の科学者ディオニシウス

①彼は、ヘリオポリス(太陽の町)において暗闇を目撃した。

(2) エジプトにいたギリシア人の科学者ディオゲネス

「太陽が暗くなったが、それはまるで、神ご自身がその瞬間に苦しまれたか、あるいは、苦しんでいる者に同情されたかのようであった」

(3) 小アジア(トルコ)にいたギリシア人の歴史家フロゲオン

「それまで起きたことのないような驚くべき日食が起こった。正午ごろに、昼が、空に星が輝く夜に変わった。ビテニアで大地震が起こり、多くの家が倒壊した」

### 3. 暗闇の意味

(1) 暗闇は、エジプトに下った10の裁きのひとつである。

Exo 10:22 モーセが天に向けて手を差し伸ばしたとき、エジプト全土は三日間真っ暗やみとなった。

(2) メシアの上に神の怒りが注がれている。

①「この杯をわたしから過ぎ去らせてください」と祈った杯(マタ26:39)

(3) イスラエルの民へのしるしである。

①彼らは、光である方を拒否した。

②それゆえ、神によって盲目にされた。

③ルカ22:53

Luk 22:53 あなたがたは、わたしが毎日宮でいっしょにいる間は、わたしに手出しもしなかった。しかし、今はあなたがたの時です。暗やみの力です」

## I. 第4のことば

1. マタ27:46

Mat 27:46 三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と叫ばれた。これは、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

(1) 最後の3時間の終わりに、このことばがイエスの口から発せられた。

①これは、メシア預言の成就である。

②イエスは、神の怒りの杯を飲んでおられる。

(2) 詩 22 : 1

Psa 22:1 わが神、わが神。／どうして、私をお見捨てになったのですか。／遠く離れて私をお救いにならないのですか。／私のうめきのことばにも。

- ①イエスはこの詩篇をご自身に適用しておられる。
- ②マルコでは「エロイ、エロイ」となっている(アラム語)。

2. マタ 27 : 47

Mat 27:47 すると、それを聞いて、そこに立っていた人々のうち、ある人たちは、「この人はエリヤを呼んでいる」と言った。

- (1) 周りの人たちは、イエスのことばの意味を理解できなかった。
  - ①預言者エリヤを呼んでいると思った。
  - ②ヘブル語で「エリ」は「エリヤ」の短縮形である。

## II. 第5のことば

1. ヨハ 19 : 28

Joh 19:28 この後、イエスは、すべてのことが完了したのを知って、聖書が成就するために、「わたしは渇く」と言われた。

- (1) イエスは、父なる神の怒りを受けておられる。
  - ①イエスの意識は正常である。
- (2) 生ける水を提供するお方が、十字架上で渇きを覚えられた。
  - ①これは、パラドックス(逆説)である。

## III. 第6のことば

1. ヨハ 19 : 29~30a

Joh 19:29 そこには酸いぶどう酒のいっぱい入った入れ物が置いてあった。そこで彼らは、酸いぶどう酒を含んだ海綿をヒソプの枝につけて、それをイエスの口もとに差し出した。

Joh 19:30 イエスは、酸いぶどう酒を受けられると、「完了した」と言われた。

- (1) 「酸いぶどう酒」とは、鎮痛剤ではなく、飲用のワインビネガーである。
  - ①イエスはそれを受けられた。
  - ②最後の2つのことばを明瞭に発音するためである。
  - ③ヒソプは、過越の祭りを連想させる。
  - ④出 12 : 22



Exo 12:22 ヒソブの一束を取って、鉢の中の血に浸し、その鉢の中の血をかもいと二本の門柱につけなさい。朝まで、だれも家の戸口から外に出てはならない。

(2)「完了した」

- ①ギリシア語で「テテレスタイ」(負債は完済した)
- ②請求書に「テテレスタイ」というハンコが押されたパピルスが発掘されている。
- ③イエスは、罪の負債をすべて支払われた。

#### IV. 第7のことば

1. ルカ 23 : 46 とヨハ 19 : 30b

Luk 23:46 イエスは大声で叫んで、言われた。「父よ。わが霊を御手にゆだねます。」こう言って、息を引き取られた。

Joh 19:30b そして、頭をたれて、霊をお渡しになった。

(1) イエスは死の時をご自分で選ばれた。

- ①頭をたれた。
- ②霊をお渡しになった。
- ③通常は、死んでから頭をたれる。

(2)「父よ」という呼びかけ

- ①父との関係が回復した。

#### 結論：

1. 第4のことば

(1)「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」

(わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか)

- ①詩 22 : 1 の引用
- ②これは、絶望のことばではない。
- ③詩 22 篇の文脈からいうと、これは助けを求める叫びである。

(2) 福音書では「父」という呼びかけが 170 回出てくる。

(3)「わが父」は 21 回出てくる。

(4)「わが神」という呼びかけは、ここだけである。

(5) イエスは、神の怒りの杯を飲んでおられる。

- ①これは、霊的死という杯である。
- ②霊的死とは、神との断絶である。

③イエスが罪となられた時、イエスの人間としての霊は父から切り離された。

(6) 2コリ5:21

2Co 5:21 神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方であって、神の義となるためです。

(7) 詩22:24

Psa 22:24 まことに、主は悩む者の悩みを／さげすむことなく、いとうことなく、／御顔を隠されもしなかった。／むしろ、彼が助けを叫び求めたとき、／聞いてくださった。

①イエスの祈りは、父なる神によって聞かれた。

②詩22篇の最後は、神への賛美で終わっている。

## 2. 第5のことば

(1) 「わたしは渴く」

(2) イエスの体験を理解するために、金持ちとラザロの物語が参考になる。

(3) ルカ16:22~24

Luk 16:22 さて、この貧しい人は死んで、御使いたちによってアブラハムのふところに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。

Luk 16:23 その金持ちは、ハデスで苦しみながら目を上げると、アブラハムが、はるかかなたに見えた。しかも、そのふところにラザロが見えた。

Luk 16:24 彼は叫んで言った。『父アブラハムさま。私をあわれんでください。ラザロが指先を水に浸して私の舌を冷やすように、ラザロをよこしてください。私はこの炎の中で、苦しくてたまりません。』

①イエスは、罪人が受ける神の怒りを受けておられる。

## 3. 第6のことば

(1) 「完了した」

(2) イエスは、罪の代価をすべて支払われた。

(3) モーセの律法のいけにえは、罪を覆うだけのものであった。

①あるいは、分割払いで、完済するということがない支払であった。

(4) コロ2:13~14

Col 2:13 あなたがたは罪によって、また肉の割礼がなくて死んだ者であったのに、神は、そのようなあなたがたを、キリストとともに生かしてくださいました。それは、私たちのすべての罪を赦し、

Col 2:14 いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました。

4. 第7のことば

- (1) 「父よ。わが霊を御手にゆだねます」
- (2) 「父よ」という呼びかけのことば
  - ① イエスは、霊的に復活された。
  - ② 父との関係が完全に回復された。
- (3) イエスは、肉体的死と復活の前に、霊的死と復活を経験された。

「キリストの死に伴う諸現象」

マタ 27 : 51~56

1. はじめに

(1) 文脈の確認

①福音の三要素が展開されて行く。

\*キリストの死

\*埋葬

\*復活

②キリストの死後、いくつかの不思議な現象が矢継ぎ早に起こった。

③キリストの死、埋葬、復活は歴史的事実である。

④これらの現象もまた、歴史的事実として字義通りに解釈する必要がある。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 166 キリストの死に伴う諸現象

マコ 15 : 38~41、マタ 27 : 51~56、ルカ 23 : 45、47~49

2. アウトライン

(1) 裂けた神殿の幕

(2) 地震

(3) 聖徒たちの復活

(4) 百人隊長

(5) ガリラヤから来た女たち

3. 結論 :

(1) ヘブ 4 : 14~16

(2) ヘブ 10 : 19~22

メシアの死に伴う諸現象の意味について考えてみよう。

I. 避けた神殿の幕

1. 51節 a

Mat 27:51a **すると、見よ。神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。**

(1) 諸現象の中で最も重要なものは、これである。

2. 神殿の幕

- (1) 神殿の聖所と至聖所を分ける幕である。
  - ①長さが約18メートル、厚さが約10センチ。
  - ②この幕の内側に入れたのは、大祭司だけである。それも年に一度だけ。
  - ③大祭司→アロンの家系→ケハテ氏族→レビ族→イスラエルの民→全人類
  
- (2) この幕が、上から下まで真っ二つに裂けた。
  - ①神の御手がこれを為した。
  - ②人間が下から上に裂いたのではない。
  - ③神は、旧約時代の大祭司だけでなく、すべての人が神の臨在に近づけることを示された。
  
- (3) このことは、祭司たちに深い印象を残したと思われる。
  - ①使6:7

Act 6:7 こうして神のことは、ますます広まって行き、エルサレムで、弟子の数が非常にふえて行った。そして、多くの祭司たちが次々に信仰に入った。

## II. 地震

### 1. 51節b

Mat 27:51a そして、地が揺れ動き、岩が裂けた。

### 2. 地震の原因と規模

- (1) 裂けたという動詞が2回繰り返されている(幕が裂けた)。
  - ①ギリシア語で「スキゾウ」である。
  - ②神の御手で、岩が裂けた。
  - ③神の御子の死は、被造世界に大きな衝撃をもたらした。
  - ④規模は、エルサレム周辺である(狭い地域での地震)。
  
- (2) マタイ以外にこれを記録している人がいる。
  - ①地震を記録した人
    - \*Phlegon (quoted by Julius Africanus, in his 'Chronographia', and by Eusebius, in his 'Chronicon')
  - ② ゴルゴタに亀裂が出来たことを証言した人
    - \*St. Cyril, Bishop of Jerusalem ('Cateches.', 13.33)

### Ⅲ. 聖徒たちの復活

#### 1. 52～53節

Mat 27:52 また、墓が開いて、眠っていた多くの聖徒たちのからだが生き返った。

Mat 27:53 そして、イエスの復活の後に墓から出て来て、聖都に入って多くの人に現れた。

#### 2. 2つの解釈がある。

(1) 地震と同時に墓が開き、多くの聖徒たちのからだが生き返った。

①イエスの復活の後に、彼らは墓から出て来て、エルサレムに入った。

(2) 地震と同時に墓が開いたが、その時点では聖霊たちのからだは生き返らなかった。

①墓が開いたのは、イエスが死に勝利したことの象徴である。

②イエスの復活の後に、彼らは復活し、墓から出てエルサレムに入った。

(3) ギリシア語では、両方の解釈が可能である。

①いずれにしても、栄光の体に甦ったのは、イエスが最初である。

②イエスの復活は、初穂の祭りの成就である。

(4) この復活は、朽ちない体への復活ではなく、蘇生である。

①ナインのやもめのひとり息子 (ルカ7:13～15)

②ヤイロの娘 (ルカ8:52～56)

③ラザロ (ヨハ11:43～44)

④ここでは、聖徒たちの復活である。

\*彼らはエルサレムに入り、家族や友人たちの前に現れた。

⑤エルサレムで復活した聖徒たちは、栄光の体に復活する聖徒たちの型である。

### Ⅳ. 百人隊長

#### 1. 54節

Mat 27:54 百人隊長および彼といっしょにイエスの見張りをしていた人々は、地震やいろいろの出来事を見て、非常な恐れを感じ、「この方はまことに神の子であった」と言った。

#### 2. イエスの死後、最初に信仰的な反応を示したのは、異邦人であった。

(1) イエスを処刑した兵士たち

①百人隊長

②イエスの見張りをしていた人々

(2) 彼らは、非常な恐れを感じた。

①地震やいろいろの出来事を見たから。

②彼らは、異常現象をイエスの死と関連付けた。

③彼らは、自分たちの上に罰が下ることを恐れた。

### 3. 告白の内容

(1) マタとルカの比較

①「この方はまことに神の子であった」(マタ 27:54)

②「ほんとうに、この人は正しい方であった」(ルカ 23:47)

(2) 彼らが理解した内容が正しかったのかどうかは、判定困難である。

①彼らは、イエスが自らを「神の子」としていたことを知っていた。

②しかし、ユダヤ人が理解するような内容ではなかったであろう。

③いずれにしても、彼らの内に信仰の芽が育ち始めたことを否認しない。

④ユダもピラトも、イエスが無罪であることを認めていた。

⑤ここでは、百人隊長がイエスの無罪を認めた。

⑥人の怒りが、最後に賛美に変わっている。

(3) この百人隊長に関する伝承

①この百人隊長の名前は「ロンギナス」である。

②後にイエスを信じる忠実な信者となった。

③伝道し、最後は殉教の死を遂げた。

## V. ガリラヤから来た女たち

### 1. 55～56節

**Mat 27:55** そこには、遠くからながめている女たちがたくさんいた。イエスに仕えてガリラヤからついて来た女たちであった。

**Mat 27:56** その中に、マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフとの母マリヤ、ゼベダイの子らの母がいた。

### 2. ガリラヤからエルサレムまで、イエスに仕えるために来た女たち

(1) 彼女たちは、使徒たちが目撃しなかったことの証人となった。

- ①男たちの場合は、反逆者の仲間と見なされる可能性がより高かった。
- ②それにしても、これらの女たちは勇敢である。

(2) 女たちの名前

- ①マグダラのマリア
- ②ヤコブとヨセフとの母マリア（クロパの妻マリア、ヨハ19:25）
- ③ゼベダイの子らの母（サロメ）

(3) 女たちの気持ちについて、マタイは何も記していない。

- ①深い悲しみ
- ②同情
- ③愛
- ④以上の感情が、次の埋葬と復活の物語につながっていく。

(4) イエスが贖罪の死を遂げて以降、イエスの友だけがイエスの遺体に手を振れることを許された。

- ①アリマタヤのヨセフとニコデモが次に登場する。
- ②女たちはイエスの埋葬を見守り、自分たちで手厚く葬ろうとした。

結論：

1. ヘブ4:14~16

Heb 4:14 さて、私たちのためには、もろもろの天を通られた偉大な大祭司である神の子イエスがおられるのですから、私たちの信仰の告白を堅く保とうではありませんか。

Heb 4:15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯されませんでした。すべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。

Heb 4:16 ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

- (1) 人は死ぬと、全知全能の神に対して弁明することになる（4:13）。
- (2) しかし、恐れる必要はない。
  - ①私たちには、偉大な大祭司である神の子イエスがおられる。
  - ②この方は、第一の天と第二の天を通して、第三の天に昇られた。
  - ③それゆえ、信仰に堅く立つことができる。
- (3) 大祭司の特徴
  - ①私たちと同じように、試みに会われた。



- ②しかし、罪は犯されなかった。
- ③私たちの弱さに同情できない方ではない。
- (4) 私たちは、大祭司イエスを通して、大胆に御座に近づくことができる。
  - ①御座に近づくために、使徒や牧師の仲介はいらない。
  - ②すべての信者が、イエスを通して御座に近づくことができる。
  - ③なぜなら、イエスが罪の代価をすべて払ってくださったから。

## 2. ヘブ 10:19~22

Heb 10:19 こういうわけですから、兄弟たち。私たちは、イエスの血によって、大胆にまことの聖所に入ることができるのです。

Heb 10:20 イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのためにこの新しい生ける道を設けてくださったのです。

Heb 10:21 また、私たちには、神の家をつかさどる、この偉大な祭司があります。

Heb 10:22 そのようなわけで、私たちは、心に血の注ぎを受けて邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われたのですから、全き信仰をもって、真心から神に近づこうではありませんか。

- (1) 神殿の幕は、イエスの肉体の型である。
  - ①垂れ幕が裂かれたように、イエスの肉体も裂かれた。
  - ②垂れ幕が裂かれたので、至聖所への道が開かれた。
  - ③イエスの肉体が裂かれたので、天の至聖所への道が開かれた。
- (2) 律法の時代の大祭司は、まことの大祭司であるイエスの型である。
  - ①イエスが大祭司として働いておられるので、私たちは大胆に神に近づくことができる。
- (3) 神から招かれた私たちは、何をもって御前に出ればよいのか。
  - ①新生体験(心に血の注ぎを受けて邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われた)
  - ②全き信仰
  - ③真心